

2017

履修要項

文学部

Faculty of Letters

You,
Unlimited



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

履修要項

文 学 部

(2017年度入学生)

『履修要項』は、卒業まで使用します。
大切に保管し、活用してください。

新入生以外には改めて『履修要項』の
配付はいたしません。

また、学年暦や年度ごとに発生する変
更、『履修要項』配付後に発生した変更
等については、履修説明会や本学ホーム
ページ等を通じてお伝えします。

(<http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>)

《目 次》

はじめに	4
学年暦	4
龍谷大学の建学の精神	4
龍谷大学の教育にかかる基本方針	4
文学部の教育理念・目的	4
各学科・専攻の教育理念・目的	4
文学部 学位授与の方針／教育課程編成・実施の方針	5
学生支援の方針	6
ガイダンス	7
大学からの連絡・通知の掲示	7
度牒（写し）の提出について	8
第1部 履修の心得	9
I. 履修をはじめるとにあたって	10
1. 長期的な履修計画を立てること	
2. 系統的に科目を履修すること	
3. 自主的に学修をすること	
4. オフィスアワーについて	
5. シラバスについて	
II. 単位制度と単位の認定	12
1. 単位制度	
2. 履修登録制度	
3. 授業科目の履修	
4. 授業時間	
5. 卒業要件単位および学士号	
6. 入学前に修得した単位の認定	
III. 授業科目の開設方法	16
1. セメスター制	
2. 授業科目の開設方法	
3. 学期完結型授業科目の開講方式	
4. 授業科目と授業テーマ	
5. 先修制	
6. グレイドナンバー制	
IV. 履修登録	20
1. 履修登録手続のスケジュール	
2. 履修登録制限単位数	
3. 予備・事前登録	
4. 履修登録要件	
5. 履修辞退制度	
6. 科目履修の特例	
V. 成績評価	25
1. 成績評価の方法	
2. 成績評価の基準	
3. GPA制度	
4. 成績疑義	
5. 筆答試験の時期	
6. 受験資格	
7. 受験の注意事項	
8. 答案の無効	
9. 筆答試験における不正行為	
10. レポート試験における不正行為	
11. 追試験	
12. 筆答試験時間	
第2部 教育課程	31
I. 教育課程の編成方法	32
1. 授業科目の区分	
2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目	
3. クラスの編成	
4. カリキュラム概念図	
II. 教養教育科目の教育目的および履修方法	34
1. 教養教育とは	
(1) 教養教育の理念・目的	
(2) 教養教育科目とは	
2. 「仏教の思想」科目について	
(1) 目的と意義	
(2) 履修方法について	
3. 言語科目について	
(1) 目的と意義	
(2) 必修外国語科目の履修について	
(3) 選択外国語科目の履修について	

4. 教養科目について	(1) 単位認定の方法	(2) 開講方式および履修方法について	
5. 教養科目、選択外国語科目の予備登録について	(1) 予備登録の方法	(2) 予備登録できる上限科目数	
	(3) 予備登録結果発表について	(4) 予備登録にあたっての注意事項	
	(5) 予備登録が不要な科目		
6. 留学生の必修外国語（日本語科目等）について			
7. 教養教育科目開設科目	(1) 「仏教の思想」科目	(2) 言語科目	(3) 教養科目
III. 文学部専攻科目の教育目的および履修方法について			53
■学科・専攻別開設科目一覧			54
	・真宗学科	・仏教学科	・哲学科哲学専攻
	・臨床心理学科	・歴史学科日本史学専攻	・歴史学科東洋史学専攻
	・歴史学科仏教史学専攻	・歴史学科文化遺産学専攻	・日本語日本文学科
	・英語英米文学科		
■選択専攻科目開設科目一覧			98
	社会活動ボランティア		
IV. その他の教育課程・教育プログラム			105
■留学・単位互換・各種インターンシッププログラム			
	・留学について	・大学コンソーシアム京都「単位互換制度」	
	・「放送大学科目」履修制度	・協定型インターンシッププログラム	
	・大学コンソーシアム京都「インターンシップ・プログラム」		
■留学の単位認定について			
	1. BIE Program留学		
	(1) 5-week summer program、5-week spring program		
	(2) Fall semester program、Spring semester program		
	2. 国際文化交流研修		
	3. 交換留学・私費留学における単位認定		
	4. 海外研修		

第3部 諸課程 111

教職課程	学校図書館司書教諭課程	図書館司書課程	本願寺派教師資格課程
博物館学芸員課程	社会教育主事課程	認定心理士受験資格	社会福祉主事課程
本願寺派学階課程	特別研修講座・各種講座・試験について		

第4部 学修生活の手引き 117

I. 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室について	118
II. 気象警報発令および交通機関の運行中止に伴う授業および定期試験の取り扱いについて	119
III. 学籍の取り扱い	120
IV. 大学院文学研究科・実践真宗学研究科について	124

〈付録〉

アカデミック・リテラシー・ルーブリック	125
---------------------	-----

はじめに

この履修要項は、龍谷大学文学部において開設されているすべての授業科目を紹介し、みなさんが卒業するまでに履修しなければならない単位数、履修方法、その他有意義な学修のために必要な事項を説明しています。この要項を熟読し、明確な学修目的をもって系統的に履修してください。学期の始めには、詳細な履修に関するガイダンスが行われますのであわせて利用してください。それでもなお、不明な点があれば文学部教務課窓口でたずねるようにしましょう。

学年暦

大学行事、授業日、休日の授業実施日、定期試験期間、休業期間などの日程が、学年暦として、毎年度定められています。

毎年度変更されますので、本学ホームページ (<http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>) で必ず確認してください。

龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切にす「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

龍谷大学の教育にかかる基本方針

建学の精神に基づいて、「平等」、「自立」、「内省」、「感謝」、「平和」の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生（ともいき）の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、「広い学識」と「進取の精神」を持って人類社会に貢献する人間を育成する。

文学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、人文学の知的体系の研究・教授を通じ、現代社会の複雑な変化や諸問題に、自己を見失うことなく積極的・主体的に対応しつつ、社会に貢献できる教養及び専門性を備えた人間を育成することを目的とする。

各学科・専攻の教育理念・目的

学科専攻別開設科目一覧（54～94頁）に掲載しています。

文学部 学位授与の方針 教育課程編成・実施の方針 について

文学部では、次に掲げる能力や資質を身につけた学生に学士号を与えます。

いいかえれば、文学部において、計画的に授業を履修し、よい成績を収められるように励むことで、これらの能力や資質を身につけることができます。

＜学位授与の方針＞

文学部では、卒業時に確実にこれらの能力・資質が身につけられるように確かなカリキュラムを編成しています。具体的には以下の方針に基づいています。

＜教育課程編成・実施の方針＞

能力・資質の領域		身につけることができる具体的な能力・資質	能力・資質を身につけられるように編成されたカリキュラム(方針)	
			教養教育科目	専攻科目
情意的領域	建学の精神	仏教、ことに浄土真宗に根ざす建学の精神の意味を深く理解している。	<p>○「仏教の思想」科目として、「仏教の思想A・B」(各2単位)合計4単位を、1年次配当(第1・第2セメスター配当)で全学必修科目として展開する。</p> <p>○教養科目として、人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目の3系列とスポーツ科学系科目に属する科目を幅広く開設し、幅広い教養を身につける基本とする。</p> <p>○教養科目には基幹科目を設け、基幹科目のうち、人文科学系・社会科学系・自然科学系の各分野からそれぞれ2単位以上を選択必修科目として展開する。</p> <p>○言語科目として、英語および英語以外の複数の外国語科目を開設する。留学生にはこれらに代わる日本語科目を開設する。</p>	<p>●高い倫理性を培うために、専攻科目としては「倫理学概論」「宗教学概論」「人権教育論」等を通して教育を行う。</p> <p>●多面的・総合的な人間理解をめざして、7学科6専攻を設けて、それぞれの学問領域を系統的に学修できるように、1年次から専門科目を配置するなどして体系的なカリキュラムを展開する。また、専攻を備えない学科および哲学系教育専攻では、学科・専攻内コースを設け、3年次から専門的な学問領域をより深く学修できるようにする。</p> <p>●特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定もきめてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。</p> <p>●各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。</p> <p>●各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を講読する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。</p> <p>●1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。</p> <p>●課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。</p> <p>●学生自身が明確な問題意識や目標を持って、主体的に履修設計を学修できるようにするために、フリーゾーン(2.0単位)を設定するなど柔軟な履修方法を実施する。</p> <p>●学生の多様な興味・関心を喚起し、学修意欲を促進するために、指定された科目群のうちから決められた数の科目を任意に選択して履修する「選択必修科目」や、どの科目を履修するかはすべて学生の選択に任せられている「選択科目」を開講する。</p> <p>●各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。</p> <p>●人文学の知に基づく問題解決に取り組む姿勢を学ぶために、現場での実習を重視した「臨床心理学実習」「文化財実習」「考古学実習」「博物館実習」や「社会活動ボランティア」等の「実習」系科目を開講するほか、インターンシップ・プログラムも展開する。</p> <p>●「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。</p> <p>●学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通して、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。</p> <p>●人文学の学修の多様化・高度化を支援し、パソコン等情報機器を活用した調査、データの収集と整理、画像処理、情報発信、文献検索等のスキルを習得するために、情報教育関連の科目を開講する。</p>
		建学の精神に基づいて、豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。		
認知的領域	知識・理解	人間社会の根本を見つめるために、「言語(ことば)」の持つ力を深く理解することができる。		
		テキストの正確な読解に基づいた、人文学の幅広い教養を身につけている。		
	思考・判断	幅広く社会全体を見渡す視野を持ち、現代社会において何が問題であるかを認識することができる。		
		幅広い学問領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができる。		
情意的領域	興味・関心	人間や社会の諸問題について主体的・積極的に判断し、対応できる。		
		課題の探求、発見、追究、解決という一連のプロセスを達成する能力を身につけている。		
	態度	幅広い分野の知識・理解をもとに、論理的思考力を培い、現代社会が問いかける問題に対して、多角的に思考・判断することができる。		
		人文学の知に基づいて、人間社会の営みに対する問題意識を持つことができる。		
		言語の学修を通じて、世界の多様性に関心を寄せ、異文化を受容できる。		
		人間とそれをとりまく環境について、探求心を持って具体的な課題を設定することができる。		
技能表現領域	技能・表現	人間社会の諸問題に対して、人文学の知に基づいて積極的に解決しようとする姿勢を持つことができる。		
		自律的に学習し続ける態度を身につけている。		
		多様な価値観を認め、学びを通じて自己の認識を広げ、感性を磨くことができる。		
		他者との交流や異なる価値の受容を通じて、とらわれがちな見方を解放し、他者との協働により自己を客観視することができる。		
		日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解を分かりやすく伝達するための方法を習得し、実践することができる。		

具体的に、どの授業科目を履修することで、どの能力・資質を身につけることができるのかは、開設科目一覧(54~99頁)で確認してください。

【学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法】

1. 学部にて4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
3. 卒業年次には、「卒業論文」を提出しなければならない。卒業論文提出後に口述試問を実施し、複数の教員によって厳格な評価を行う。

学生支援の方針

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援の3つの方針に基づき、すべての学生に対して支援を行う。

修学支援の方針

本学における修学支援は、すべての学生に等しく教育機会を提供することを目的とし、学生一人ひとりが学修を円滑に進め、継続していくことができるよう、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

- ・ 修学に関する相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組む。また、必要に応じて補習・補充教育を実施する。
- ・ 留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、関係する各組織が連携して適切な対応策を講じる。
- ・ 障がいのある学生に対して実効性ある支援体制を整備し、それぞれの学生に適した学修環境を実現する。
- ・ 本学独自の奨学金制度を整備し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。

学生生活支援の方針

本学における学生生活支援は、学生の人権尊重を基本とし、学生一人ひとりが心身ともに健康で、かつ安全で安定した学生生活を送るために必要な基盤を整備するとともに、豊かな人間性を育み、自らが主体的に活動できるよう、「生活支援」「経済支援」「課外活動支援」を柱とした総合的な取り組みを行う。

「生活支援」は、保健管理、事件・事故防止、相談等の学生生活に係わる環境を整備する。

「経済支援」は、学生の家計急変や社会環境の変化等に応じた奨学金、貸付金等の経済的な支援を行う。

「課外活動支援」は、学生の人的成長に寄与するため、学生が自主的に課外活動・社会活動に参加できるための環境を整備する。

キャリア支援の方針

本学におけるキャリア支援は、学生の社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むとともに、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現を目的として、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学のおよび体系的に取り組む。

「キャリア教育」は、学部と各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力が身につくよう取り組む。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、face to face の面談を重視し、学生の個々の状況を踏まえたきめ細かな支援を行う。

ガイダンス

学期の始めには各種のガイダンスが行われます。

このガイダンスは、みなさんが学修の計画を立てたり、履修に必要な手続きをスムーズに行うための説明や指導をするものです。

その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、諸資格取得のためのガイダンス等も開催されます。

これらの連絡は、以下「大学からの連絡・通知の掲示」のとおり行われるので十分注意しなければなりません。

大学からの連絡・通知の掲示

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きすべて掲示で行います。またポータル上でも適宜連絡や通知を行います。掲示やポータルを見落とししたために後で支障をきたさないよう、大学に来たらまず掲示板を見る、またポータルを確認する習慣をつけましょう。

なお、電話による問い合わせには、一切応じません。

1. 各種掲示内容別の掲示板とその位置

掲示板の名称	掲示の内容	設置場所
文学部掲示板	履修方法、休講・補講情報、定期試験、レポート作成など、教育課程に関すること	深草学舎：6号館(紫英館)東側
		大宮学舎：西翼
学生部掲示板	奨学金やアルバイトなど、学生生活に関すること	深草学舎：樹林
		大宮学舎：西翼
教学部掲示板	履修方法など、教育課程に関すること	深草学舎：6号館(紫英館)東側
グローバル教育推進センター掲示板	国際交流に関すること	深草学舎：6号館(紫英館)東側
		大宮学舎：西翼
教職センター掲示板	教職課程に関すること	深草学舎：6号館(紫英館)東側
		大宮学舎：西翼
キャリアセンター掲示板	就職、資格講座などに関すること	深草学舎：5号館(紫明館)1階 キャリアセンター
		大宮学舎：西翼

※大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示板の設置場所が変更になる場合があります。

2. 休講・補講・教室変更情報について

休講・補講・教室変更情報については、本学のポータル上で公開しています。アクセス方法等については、以下の事項をご参照ください。

(1) アクセス方法〈パソコン用〉

本学ホームページ (<http://www.ryukoku.ac.jp/>) の「ポータルサイト(学内者向け)」からアクセスしてください。

ポータルの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。

〈携帯電話用〉

携帯電話用ポータルの利用には初回のみパソコン用ポータルから「携帯電話アクセス番号の設定」が必要です。設定方法は、パソコン用ポータルをご覧ください。設定完了後、URLが自動的に通知されます。

(2) 公開の範囲：本学開講科目

(3) 公開の期間 〈パソコン用〉

休講：休講日を含めて30日前から公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更（臨時）：変更日を含めて30日分を表示しています。

教室変更（恒常）：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

〈携帯電話用（フィーチャーフォン）〉

休講：休講日を含めて2日前から公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更（臨時）：変更日を含めて2日分を表示しています。

教室変更（恒常）：変更日を含めて前後28日分を表示しています。

(4) 注意事項

- ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。
- ・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。

※本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。

※休講、補講、教室変更の公開については、メールでの配信サービスも実施しています。パソコン用ポータルの「連絡先・メールアドレス・メール受信設定」で設定可能です。

※休講、補講、教室変更情報については、本学のポータル以外に一部掲示板でも公開しています。

度牒（写し）の提出について

対象者：伝道者推薦入学試験により入学した学生

- 1) 入学後に得度を受けた者は「度牒（写し）」を文学部教務課窓口へ提出してください。
- 2) いまだ得度を受けていない学生は、2年次修了までに必ず得度を受け、「度牒（写し）」を文学部教務課窓口へ提出してください。
- 3) 西本願寺の得度習礼日程の内、8月上旬に実施される得度習礼が本学の第1学期定期試験期間と一部重なります。そのため8月上旬の得度習礼を申し込んだ場合、本学の定期試験を受験できない可能性がありますので、8月上旬の得度習礼の申し込みは避けてください。

第1部 履修の心得

I. 履修をはじめるにあたって	10
1. 長期的な履修計画を立てること	
2. 系統的に科目を履修すること	
3. 自主的に学修をすること	
4. オフィスアワーについて	
5. シラバスについて	
II. 単位制度と単位の認定	12
1. 単位制度	
2. 履修登録制度	
3. 授業科目の履修	
4. 授業時間	
5. 卒業要件単位および学士号	
6. 入学前に修得した単位の認定	
III. 授業科目の開設方法	16
1. セメスター制	
2. 授業科目の開設方法	
3. 学期完結型授業科目の開講方式	
4. 授業科目と授業テーマ	
5. 先修制	
6. グレードナンバー制	
IV. 履修登録	20
1. 履修登録手続のスケジュール	
2. 履修登録制限単位数	
3. 予備・事前登録	
4. 履修登録要件	
5. 履修辞退制度	
6. 科目履修の特例	
V. 成績評価	25
1. 成績評価の方法	
2. 成績評価の基準	
3. GPA制度	
4. 成績疑義	
5. 筆答試験の時期	
6. 受験資格	
7. 受験の注意事項	
8. 答案の無効	
9. 筆答試験における不正行為	
10. レポート試験における不正行為	
11. 追試験	
12. 筆答試験時間	

I. 履修をはじめるとにあって

大学では高校までと異なり、履修や学生生活に関するすべてのことが自分の責任に委ねられています。それだけに各自が履修制度について十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

授業科目は、「教養教育科目」と学部専門の教育に関する科目群である「専攻科目」からなります。みなさんはこれら2つの科目群から、卒業するために必要な一定の単位数を満たすように履修しなければなりません。

1学年間あるいは1学期間に履修できる単位数には上限が設けられており、また各学期（セメスター）に、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が教育方針に基づいて配当されています。なお、年度によって開講される科目が異なりますので、1学年間あるいは1学期間の履修計画をたてる際には、同時に次学期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

2. 系統的に科目を履修すること

大学における学業は、一定の単位数を修得することによって完了します（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたには多くの組み合わせがあります）。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修では、たとえ4年間在学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講学期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において、学問研究に触れる中心的な場は「演習」（ゼミナール）です。この「演習」では、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取組み、専門的な視点に立って研究することが肝要となります。「演習」をはじめる前に、「演習」における自身のテーマの研究にとって土台となる知識や思考力、さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修をすること

十分な学修成果をあげるためには、単に教室で講義を聞くだけでなく、講義そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、講義以外に自主的な学修が必要です。教室での講義時間の2倍あるいはそれ以上の自主的な学修が行われて、はじめて満足な理解が可能となります。そのため、シラバス（講義概要・授業計画）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、講義を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問したり、先生や友人・先輩とのディスカッションを通じて理解を深めることも大切です。

4. オフィスアワーについて

教員と面談したい場合、深草学舎は6号館（紫英館）1階の面談ホール受付、大宮学舎は西翼1階の講師控室を訪れてください。オフィスアワーの一覧表はポータルサイトでお知らせします。

一覧に名前のない先生については、授業の前後に講師控室や授業後の教室にて質問をしてください。

5. シラバスについて

(1) シラバスとは何か

シラバス (syllabus) とは、各科目の講義概要や到達目標、評価方法、授業計画等について記載したものです。

本学で開講されている全ての科目は、あらかじめWeb上に公表されたそれぞれのシラバスに沿って実施されます。

シラバスには、科目名や授業テーマだけでは分からない、詳細な情報が記載されています。学生の皆さんはシラバスを熟読し学習計画を立て、系統的な履修科目選択を行ってください。

(2) シラバス記載の情報について

シラバスには、主に次のような情報が掲載されています。

- ① 科目名とサブタイトル（授業テーマ）
- ② 講義概要
- ③ 到達目標
- ④ 講義方法
- ⑤ 予・復習の指示
- ⑥ 系統的履修のための補足情報
- ⑦ 授業評価の方法
- ⑧ テキスト・参考文献の指示
- ⑨ オフィスアワー
- ⑩ 授業計画（各回の学修内容やキーワード）

※授業計画、テキスト・参考文献、オフィスアワーについては、授業期間中に変更されることがあります。最新の情報を参照してください。

(3) シラバスの利用方法

シラバスはすべてWeb上で公開されています。大学ポータルサイトからリンクをたどって参照してください。

Ⅱ. 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

大学での学修はすべて単位制になっています。単位制とは、すべての科目に一定の単位数が定められており、その科目を履修して単位を修得し、定められた卒業要件単位数を満たすことで卒業が認定される制度です。

<単位とは>

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単位数	学 修 時 間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合		
	自主	授業	合計	自主	授業	合計
1				15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

<単位の計算方法>

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では学期完結型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、学期連結型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×15週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき） ＝2単位
学期連結型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×30週＝180時間	180時間÷45時間（1単位につき） ＝4単位

○外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型 授業の場合	3時間（授業2時間+自主1時間） ×15週=45時間	45時間÷45時間（1単位につき） = 1単位
学期連結型 授業の場合	3時間（授業2時間+自主1時間） ×30週=90時間	90時間÷45時間（1単位につき） = 2単位

<単位認定>

一つの授業科目に定められた所定の単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- (1) 単位の認定を受けようとする科目について、履修登録をすること。
- (2) その科目の授業に出席し、履修に必要な学修をすること。
- (3) その科目の試験を受け（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆記試験とは限らない。詳細は、シラバスの成績評価の方法で確認して下さい）、その成績評価で合格（60点以上）をすること。

2. 履修登録制度

履修登録とは、科目を履修するための手続きです。この登録をしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録は、学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるようすべて自分の責任において取り組まなければなりません。

(1) 履修登録の意味

履修登録は、自らの学修計画に従って科目を履修するための手続きであり、学修計画の出発点となるものです。履修登録をしていない科目は履修できません。

(2) 履修登録の方法

Semester制により履修登録は、第1学期、第2学期の年2回行われます。（ただし、4年次生以上は、第1学期に第2学期開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります）。

第1学期履修登録は、第1学期開講科目と学期連結型（通年）科目および8月と9月に開講される集中講義科目を登録します。

第2学期履修登録は第2学期開講科目を登録します。なお、第2学期登録時にこの学期連結型（通年）科目の履修を放棄して別の第2学期開講科目を登録することはできません。

※サマーセッションで開講される科目は、上述のとおり、第1学期に登録することになりますが、成績は第2学期の成績表に反映されます。

3. 授業科目の履修

履修登録をした授業を受けるということは、その科目に定められている単位数に見合った量の学修をするということです。

学修の内容には、授業形態に応じて教室での学修とその準備のための学修とを含んでいます。

このうち、教室での学修は、授業に出席し、その中で学修するということです。総授業回数
の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。

また、準備のための学修は、「Webシラバス（講義概要・授業計画）」の中で「授業時間外における予・復習の指示」で示される内容を中心に、参考文献等も利用しながら、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行われる学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修のいかんにかかっているとと言えます。

4. 授業時間

本学における1回の授業時間は、後に説明する授業科目の開設方法に関係なく、いずれの場合でも90分です。また、それぞれの授業時間を「講時」といいます。年間を通して各講時の時間帯は次のとおりです。

授業配置時間

	時間帯	月	火	水	木	金	土
1 講時	9:00 ~ 10:30	○	○	○	○	○	○
2 講時	10:45 ~ 12:15	○	○	○	○	○	○
3 講時	13:15 ~ 14:45	○	○	○	○	○	○
4 講時	15:00 ~ 16:30	○	○	○	○	○	○
5 講時	16:45 ~ 18:15	○	○	○	○	○	
6 講時	18:25 ~ 19:55	○	○	○	○	○	
7 講時	20:05 ~ 21:35	○	○	○	○	○	

5. 卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、「学士」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。卒業するためには、大学が定める教育課程にしたがって学修し、124単位以上を修得しなければなりません。

<卒業の要件>

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

(1) 所定在学年数

本学の教育課程を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修

中断の期間は所定在学年数に加えません。また、卒業判定が行われる学期に在学していなければなりません。

(2) 所定単位の修得

本学の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目の別を指定しています（詳細は「第2部 教育課程」の「I. 教育課程の編成方法」を参照）。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

<卒業論文>

提出方法・提出時期等については別途、ポータルサイト・掲示でお知らせします。

<卒業の時期>

(1) 卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

(2) 9月卒業の取り扱いについて

教授会が必要と認めるときは、在学期間が4年以上の者について、前期終了時（9月）に卒業を認定することがあります。

(注) 9月卒業を希望する者は、指定された期間に、所定の願書を受け取り、手続きを完了してください。(本人の申し出がなければ、9月卒業の対象にはならないので注意してください。履修要項P.121を参照)

6. 入学前に修得した単位の認定

学則第38条にもとづき、1年次の年度始めまたは2年次の年度始めに願出た者に限り、文学部の認定基準にしたがって、出身大学で修得した科目を、本学文学部の科目として認定することがあります。受付期間・手続方法等については、深草学舎の文学部掲示板でお知らせします。不明な点は、文学部教務課窓口で相談してください。

Ⅲ. 授業科目の開設方法

1. セメスター制

文学部の授業は、セメスター制で開講されています。セメスター制とは、半年を1学期とするもので、1学年を原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分し^{*}、以後4学年までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。これら学年、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

学年	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
学期	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目（詳細は「第2部 教育課程」の「I. 教育課程の編成方法」を参照）が配当されています。これらの科目の中からどの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目はそれを履修しないと卒業することができない科目です。また選択必修科目も同じ性格を有する科目のため、配当されたセメスターにおいて必ず履修しなければなりません。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、講義を通しての学修と自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

※：実際に授業を開講する上での第1学期（前期）、第2学期（後期）の区分は、毎年度学年暦によって決定されます。

2. 授業科目の開設方法

各授業科目は、原則として各セメスターを単位として開設されていますが、実際には科目の性格等により次の2つの開講方式をとっています。

- ①【学期完結型（前期・後期型）】
 [学期] → [週1回]
 (授業15週間) [週2回]

講義科目	外国語科目	実技科目
2単位	1単位	
4単位	2単位	

- ②【学期連結型（通年型）】
 [学期] → [学期] [週1回]
 (授業30週間)

講義科目	外国語科目	実技科目
4単位	2単位	

[留意点]

- (1) 学期完結型として開講される4単位の講義科目および2単位の初修外国語科目は、1週間に2回（例えば月曜日1講時と木曜日1講時）の授業を行い、1つの学期で完結する

ものです。このため、一方の授業に出席するだけではその科目を履修したことにはならないので、注意する必要があります。

- (2) 学期連結型として開講される科目は、原則として同一の授業担当者が1週間に1回の授業を行い、2つの学期（1年間）で完結するものです。
- (3) 同一科目の授業が第1学期（前期）・第2学期（後期）ともに開講される場合があります。この場合は、特に指定のある場合を除き、いずれの学期で履修しても構いません。
 (注1) それぞれの科目には配当セメスターが設定されています。設定された配当セメスター以降の履修が可能であることを示していますが、諸事情により不開講となる場合や配当セメスターが変更される場合がありますので注意してください。
 (注2) すでに修得した科目（=既修得科目）の再履修はできません。ただし、専攻科目のうち、臨床心理学科を除く全学科・専攻の特殊講義・講読（1年次のみ・2年次のみ履修可能な講読を除く）は再度の履修が可能です。
- (4) サマーセッション・集中講義を利用して開講される科目については、下記の取り扱いとなります。

区 分	取扱学期	期間・留意事項
サマーセッション 集中講義	第2学期(後期)科目	<ul style="list-style-type: none"> ・開講期間については、履修説明会・ポータルサイト等で確認してください。 ・第1学期（前期）開講科目の履修登録と同時に登録が必要です。

(注) 登録できる科目数は2科目までとなります。授業日程が他の科目と重複する場合は、1科目しか履修登録できない場合がありますので、各科目の開講日程に注意してください（サマーセッション・集中講義の開講期間・開講場所などについては、別途掲示等にてお知らせします。）。

3. 学期完結型授業科目の開講方式

学期完結型授業のうち、週2回開講方法をとる授業は時間割上、原則として一定の規則にしたがって配置されています。

この科目は、週2回の授業を1学期間継続して受講し、合格することではじめて定められた単位を修得したことになります。

週2回のうち一方の授業時間に、誤って他の科目を履修登録した場合は、それらに関する登録は無効となりますので注意してください。

学期完結型授業（週2回開講科目）の開講組合せ（原則）

※見方：「月1」は「月曜日1講時」を示しています。

月1 — 木1	火1 — 金1	水1 — 土1
月2 — 木2	火2 — 金2	水2 — 土2
月3 — 木3	火3 — 金3	
月4 — 木4	火4 — 金4	

注) 1日に2講時連続で開講される科目もあります。

4. 授業科目と授業テーマ

「授業科目」は単位を認定する区分を示すものです。講義科目はこの授業科目名のみではどのような内容の授業であるか判断ができないことから、原則として「授業テーマ」が示されています。

同じ「授業科目」名で複数の「授業テーマ」で講義が開講されている場合は、特に指定の無い限りどの「授業テーマ」の講義を履修しても構いません。ただし、単位の認定を受けることができるのは1つの科目に対して1つの講義だけです（同じ「授業科目」名の異なる複数の「授業テーマ」の講義を履修することはできません）。

また「授業科目」を選ぶにあたっては、「シラバス」で講義の進め方、系統的履修の方法等を確認してください。

5. 先修制

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目の修得を必要とする制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。したがって、先修科目が設定されている授業科目とその履修の要件となる授業科目を同一学期に履修することはできません。先修制をとっている科目は次のとおりです。

先修制授業科目等	履修の要件となる授業科目名および単位
ドイツ語セミナーA, B, C, D	「ドイツ語 I, II」(計4単位)
フランス語セミナーA, B, C, D	「フランス語 I, II」(計4単位)
中国語セミナーA, B, C, D	「中国語 I, II」(計4単位)
スペイン語セミナーA, B, C, D	「スペイン語 I, II」(計4単位)
コリア語セミナーA, B, C, D	「コリア語 I, II」(計4単位)
ドイツ語コミュニケーションII	ドイツ語コミュニケーションI (2単位)
フランス語コミュニケーションII	フランス語コミュニケーションI (2単位)
中国語コミュニケーションII	中国語コミュニケーションI (2単位)
スペイン語コミュニケーションII	スペイン語コミュニケーションI (2単位)
コリア語コミュニケーションII	コリア語コミュニケーションI (2単位)
英語ⅡR1, ⅡR2, ⅡS1, ⅡS2	「英語 I A, I B, I C, I D」(計4単位)
英語ⅢR1, ⅢR2, ⅢS1, ⅢS2, ⅢG1, ⅢG2, ⅢW1, ⅢW2	「英語 I A, I B, I C, I D, I E, I F, I G, I H」および「英語ⅡA, ⅡB, ⅡC, ⅡD」の内、4単位以上取得していること。
海外中国語研修講座	中国語 I, II (計4単位)
ポルトガル語Ⅱ、ⅢA、ⅢB	ポルトガル語 I (2単位)
ロシア語Ⅱ、ⅢA、ⅢB	ロシア語 I (2単位)

学部専攻科目

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
サンスクリット語A 2	サンスクリット語A 1
サンスクリット語B 2	サンスクリット語B 1
チベット語A 2	チベット語A 1
チベット語B 2	チベット語B 1
パーリ語B	パーリ語A
心理調査・統計法B	心理調査・統計法A
日本史学演習Ⅰ【歴史学科日本史学専攻】	日本史学基礎演習ⅠA, ⅠB, ⅡA, ⅡB の合計8単位のうち、4単位以上修得
日本史学演習Ⅱ【歴史学科日本史学専攻】 卒業論文【歴史学科日本史学専攻】	日本史学基礎演習ⅠA, ⅠB, ⅡA, ⅡB の合計8単位

6. グレイドナンバー制

文学部で開設される専攻科目には、グレイドナンバーが付されています。これは、科目のレベルを簡明に表示したものです。

学修計画の設計にあたって、これを参考にしてください。

グレイド	科目の性格・内容・レベル
100	入門科目 …第1セメで履修すべき科目
200	基礎的科目 …1・2セメで履修すべき科目
300	基本的科目 …3・4セメで履修すべき科目
400	専門中級科目 …5・6セメで履修すべき科目
500	専門上級科目 …7・8セメで履修すべき科目
600	大学院修士課程レベルの科目 …大学院文学研究科との共通科目

IV. 履修登録

1. 履修登録手続のスケジュール

履修登録手続のスケジュールは毎年度変更されますので、本学ホームページ (<http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>) で確認してください。

2. 履修登録制限単位数

大学での学修は、単位制度の趣旨、教育効果（自主的な学修時間の確保）および健康管理の点から、一度に多くの科目を履修することは適当ではありません。

このため、文学部では次のとおり履修登録制限を行っています。ここに定める単位数を超えて履修登録することはできません。よく考えて卒業までの履修計画を立てる必要があります。

年次	1～3年次生		4年次生
学期	第1学期	第2学期	通年
履修制限単位数	24単位	24単位	48単位

(注1) 編転入学した者のカリキュラムは、編入学または転入学した年度ではなく、入学を認められた学年の在學生と同様のカリキュラムを適用します。再入学した者については、原則離籍前と同年度のカリキュラムを、復学した者については、休学前と同年度のカリキュラムをそれぞれ適用します。

(注2) 通年科目の単位数は、第1学期と第2学期で2分割して計算します。

(注3) この履修制限には、次の科目は含まれないことから、制限単位を超えて履修登録することができます。ただし、単位制度の趣旨および教育効果(自主的な学修時間の確保)や健康管理の点からすれば、制限単位を大幅に超える登録は好ましくありません。

- ① 随意科目（時間割番号に「Z」が含まれる科目）
- ② サマーセッションに開講される科目
- ③ 大学コンソーシアム京都科目（単位互換科目、インターンシップ）
- ④ 放送大学科目
- ⑤ 専攻科目の内、次の科目
国際文化交流研修、社会活動ボランティア、海外研修、協定型インターンシップ
- ⑥ 教養科目の内、次の科目
海外中国語研修講座、海外英語研修

3. 予備・事前登録

予備・事前登録とは、受講者数を調整するため、通常の履修登録（本登録）に先だって行われるものです。予備・事前登録手続きの必要な科目は、この手続きをしなければ受講できません。

履修登録—1) 予備登録……… (広義)	受講可否を抽選（無作為抽出）により決めます。 教養教育科目や選択外国語科目においてこの手続きが必要です。
2) 事前登録………	受講可否を申請書の内容や過去の成績などにより決めます。 必修外国語の再履修や一部の専攻科目等においてこの手続きが必要です。
3) 履修登録（本登録）… (狭義)	履修する科目（予備・事前登録にて受講可となった科目を含む）が確定します。

4. 履修登録要件

(1) 履修登録要件

有効な履修登録を行うためには、次に定める要件をすべて備えていなければなりません。履修登録はすべて自己の責任において行ってください。

- ① 必修科目は、担当されている年次に登録してください。
- ② 所属年次に担当されている授業科目以外に下級年次担当の授業科目を登録することができます。ただし、諸事情により不開講となる場合や担当セメスターが変更される場合がありますので注意してください。
- ③ 履修登録は授業時間割表に従って登録してください。（特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週2回学期完結型授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください。）
- ④ 重複登録（同一講時に、2科目以上の登録をすること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑤ 二重登録（すでに所定単位を修得した授業科目を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑥ 各セメスター（学期）および各年次において、定められている履修登録制限単位を超えて登録することはできません。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割に変更が生じた場合は、掲示板に掲示します。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、文学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web履修登録画面から、定められた期間に必ず登録してください。
登録期間は履修説明会・ポータルサイト等で確認してください。
- ④ 履修登録は確実に行うため、パソコンで行ってください。
- ⑤ 受講登録確認表の出力による登録確認
本人が登録した授業科目は、登録完了後、各自がその場で「受講登録確認表」を出力し、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに、文学部教務課窓口申し出てください。
- ⑥ 深草・大宮学舎間の連続受講について
原則として、深草学舎と大宮学舎間の連続受講は認められません。但し、次の場合に限り、連続受講が認められます。

- (1) 2講時と3講時の学舎間連続受講（昼休みを含み移動時間が確保されているため）
- (2) 演習科目・卒業要件である必修科目・資格取得に関わる必修科目の受講（選択必修科目は除きます）
- (3) (2) に拘わらず残りの卒業要件単位からみて選択必修が事実上必修となる科目の受講
- (4) その他、文学部教授会において必要であると認められた科目の受講
連続受講となる科目のうち、1つの時間帯の科目（例：3講時・深草、4講時・大宮の場合における、4講時・大宮開講科目）の履修機会が次年度にある場合は、上記の条件であっても大宮・深草学舎間連続受講を許可しません。卒年次生以外は、次年度に履修機会があるので、原則として次年度登録をすることとします。

5. 履修辞退制度 ※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、「授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合」や「受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合」など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録の確認時における登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正や取消」するものであり、以前の履歴は一切残りませんが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履歴が記録として残ります。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、『履修要項』および『シラバス』を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行いません。したがって、履修辞退した科目は平均点やGPAの計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履歴および履修辞退履歴として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退できない科目

原則として、開講科目のすべてを「履修辞退」の対象科目としています。

ただし、下記のとおり、カリキュラムの関係において、学部（学科・専攻・コース）で学修する上で「必修としている授業科目」や“予め定員を設け募集した科目”、“本学以外の団体等への手続きにおいて調整が困難である科目”など「履修辞退制度」の対象としない（＝履修辞退を認めない）科目を設定していますので、履修登録の際、必ず確認してください。

◆履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備考
必修科目	選択必修科目については、学部（学科・専攻・コース）によって異なる場合があります。
事前登録が必要となる科目 ※	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」の単位 互換科目として受講している科目	本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習に関する科目、介護等体験、 教育実習指導Ⅰ・ⅡA・ⅡB	実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。 ※進路変更により教職センターにて書面で行う実習・体験の辞退手続きと「履修辞退制度」とは異なります。履修登録完了後に教職センターにて実習・体験の辞退手続きをしたとしても、履修登録をなかったことにすることはできません。
サマーセッション・集中講義科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。

※教養教育科目の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

(4) 履修辞退の申出期間

履修辞退の申出期間は各学期において1週間程度設けられます。履修説明会・ポータルサイト等で確認してください。

(5) 履修辞退の申出方法

履修辞退の申出期間にポータルの「Web履修辞退申請」から申請してください。

受付期間中に、ポータルを利用した申請ができない理由を有する者は、事前に文学部教務課に相談してください。

(6) 留意事項

- ① 通年科目についてを第1学期（前期）期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期（後期）の当該科目の単位数は履修登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時に半期完結型の後期開講科目を履修登録することができます。

なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期）	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期（前期）分はカウントしますが、第2学期（後期）分はカウントしません
第2学期（後期）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

- ② 履修辞退申し出により授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生）が、通年科目の辞退を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第2学期（後期）分の授業料は徴収いたしません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の履修料は理由の如何にかかわらず返還しません。

6. 科目履修の特例

それぞれの科目には、履修可能なセメスターが設定されていますので、いつでも履修できるわけではありません。ただし、次のような場合には、指定されたセメスター以後履修することができます。

- ・必修科目で、その配当セメスターにおいて単位修得できなかったとき。なお、必修科目によっては再履修科目が開講される場合があります。この場合は、この再履修科目を受講しなければなりません。

V. 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価には、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちのひとつまたは複数を含めて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目（＝既修得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。ただし、16ページ(3)(注2)のとおり、例外があります。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

段階評価と評点			
S (90～100点)	A (80～89点)	B (70～79点)	C (60～69点)

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月下旬、第2学期（後期）分を3月下旬に配付します。期日と場所は別途掲示等でお知らせします。

3. GPA制度

GPAとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことであり、従来の修得単位数による学修到達度判定に加え、どの程度のレベルで単位を修得したかを一目で表すものとして考え

られたものです。

算出方法は、各教科の評価点（100点満点）を次表のように換算しなおし、その合計を登録科目の総単位数で割って算出します。

評点	グレードポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

$$\text{GPA} = \frac{\sum (\text{登録科目のグレードポイント} \times \text{単位数})}{\sum (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、

- ・仏教の思想A (2単位) 90点
- ・英語 I A (1単位) 80点
- ・心の科学A (2単位) 40点
- ・生物科学のすすめ (4単位) 76点

を登録科目の結果とした場合、GPAは次のように計算されます。

$$\text{GPA} = \frac{(2 \times 4) + (1 \times 3) + (2 \times 0) + (4 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 4} = \frac{19}{9} = 2.11$$

※随意科目、履修辞退した科目については、ここでいう登録科目には含みません。

※成績を評価点（100点満点）で評価しない科目は算入しません。

4. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、文学部教務課窓口に提出してください。授業担当者に直接申し出てはいけません。

なお、申出期間については、別途掲示等で確認してください。

5. 筆答試験の時期

定期試験（学期末・学年末試験）	個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験
追試験	定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験をいう（追試験の項を参照のこと）

6. 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

- (1) その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- (2) 定められた学費を納入していること。
- (3) 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- (4) 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

7. 受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- (1) 指定された試験場で受験すること。
- (2) 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
- (3) 学生証を携帯すること。
- (4) 学生証は写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。
万一学生証を忘れた場合には、事前に文学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。
- (5) 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- (6) 参照を許可されたもの以外は、指示された場所におくこと。
[担当教員の指示がない限り、電子機器等の使用を認めない。]
- (7) 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、かばんの中に入れること。
- (8) 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

8. 答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- (1) 無記名の場合。
- (2) 指定された場所に提出しない場合。
- (3) 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合。
- (4) 受験態度の不良な場合。

9. 筆記試験における不正行為

- (1) 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- (2) 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
 - ① 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合。
 - ② 監督者の指示に従わない場合。

- ③ 身代わり受験を行ったとき、または行わせた場合。
- ④ カンニングペーパー等を所持していた場合。
- ⑤ 携帯電話、スマートフォン、情報端末等をかばん等にしまっていない場合
- ⑥ 許可された以外のものを参照した場合。
- ⑦ 机上等への書き込みをしていた場合。
- ⑧ 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合。
- ⑨ 答案用紙の交換および見せ合いをした場合。
- ⑩ その他、①～⑨に準じる行為を行った場合。

10. レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複写したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定を行わない場合があります。

11. 追試験

(1) 追試験の受験資格

次の各号に該当する者は、追試験を受験することができます。

- ① 病気や怪我、試験時における体調不良等による受験ができなかった者。
- ② 親族（原則として3親等まで）の葬儀により受験ができなかった者。
- ③ 公認サークルの公式戦に選手として参加することにより受験ができなかった者。
- ④ 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）や就職活動（説明会、筆記試験、面接等）により受験ができなかった者。
- ⑤ 単位互換科目（大学コンソーシアム京都科目）、放送大学科目の試験により受験ができなかった者。
- ⑥ インターンシップ（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）により受験ができなかった者。
- ⑦ 交通機関の遅延等により受験ができなかった者。
- ⑧ 交通事故や災害等により受験ができなかった者。
- ⑨ 裁判員制度による裁判員（候補者）に選任されたことにより受験できなかった者。
- ⑩ その他、学部教授会が特に必要と認めた者。

追試験受験希望者は、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内）に文学部教務課窓口へ提出しなければなりません。

交通遅延証明書のうち、Web発行によるものは本人が乗車したことを証明するものではありませんので、欠席理由の証明書として、本学では取扱いできません。

交通遅延証明書は従来通り、「本人が乗降した際に各駅にて受け取ることができるもの」のみを証明書として取扱います。

なお、定期試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に文学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

- (2) 追試験の受験料は、1科目1,000円です。
- (3) 実技・実習科目、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。
- 詳細については、定期試験前に文学部掲示板にて確認してください。

12. 筆答試験時間

- (1) 筆答試験時間割は、原則として試験の14日前に掲示およびポータルにより発表します。試験時間は、次のとおりです。

講時	開始時刻	終了時刻
1 講時	9 : 00	10 : 00
2-A 講時	10 : 30	11 : 30
2-B 講時	12 : 00	13 : 00
3-A 講時	13 : 30	14 : 30
3-B 講時	15 : 00	16 : 00
4 講時	16 : 30	17 : 30
5 講時	18 : 00	19 : 00
6 講時	19 : 15	20 : 15
7 講時	20 : 30	21 : 30

- (注1) 教養教育科目のうち、学部提供科目については、該当学部が定める試験時間となります。
- (注2) 科目の特性によって、試験時間を変更することがあります。

第2部 教育課程

I. 教育課程の編成方法	32
1. 授業科目の区分	
2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目	
3. クラスの編成	
4. カリキュラム概念図	
II. 教養教育科目の教育目的および履修方法	34
1. 教養教育とは	
(1) 教養教育の理念・目的	
(2) 教養教育科目とは	
2. 「仏教の思想」科目について	
(1) 目的と意義	
(2) 履修方法について	
3. 言語科目について	
(1) 目的と意義	
(2) 必修外国語科目の履修について	
(3) 選択外国語科目の履修について	
4. 教養科目について	
(1) 単位認定の方法	
(2) 開講方式および履修方法について	
5. 教養科目、選択外国語科目の予備登録について	
(1) 予備登録の方法	
(2) 予備登録できる上限科目数	
(3) 予備登録結果発表について	
(4) 予備登録にあたっての注意事項	
(5) 予備登録が不要な科目	
6. 留学生の必修外国語（日本語科目等）について	
7. 教養教育科目開設科目	
III. 文学部専攻科目の教育目的および履修方法について	53
■ 学科・専攻別開設科目一覧	54
・ 真宗学科 ・ 仏教学科 ・ 哲学科哲学専攻 ・ 哲学科教育学専攻	
・ 臨床心理学科 ・ 歴史学科日本史学専攻 ・ 歴史学科東洋史学専攻	
・ 歴史学科仏教史学専攻 ・ 歴史学科文化遺産学専攻 ・ 日本語日本文学科	
・ 英語英米文学科	
■ 選択専攻科目開設科目一覧	98
社会活動ボランティア	
IV. その他の教育課程・教育プログラム	105
■ 留学・単位互換・各種インターンシッププログラム	105
・ 留学について ・ 大学コンソーシアム京都「単位互換制度」	
・ 「放送大学科目」履修制度 ・ 協定型インターンシッププログラム	
・ 大学コンソーシアム京都「インターンシップ・プログラム」	
■ 留学の単位認定について	106
1. BIE Program留学	
2. 国際文化交流研修	
3. 交換留学・私費留学における単位認定	
4. 海外研修	

I. 教育課程の編成方法

1. 授業科目の区分

本学の教育課程（カリキュラム）の編成は、4年間（8 Semester）にわたっており、その内容は次のとおり構成されています。これらの分類のことを「授業科目の区分」といいます。

- ・教養教育科目（「仏教の思想」科目・「言語科目」・「教養科目」）
- ・学部専攻科目

2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目

すべての科目は必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目のいずれかに指定されています。

必修科目	卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。
選択必修科目	指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。
選択科目	どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件上、一定の単位数を修得することが義務づけられており、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。
随意科目	主として各種の資格取得にかかわる科目であって、卒業要件とは無関係です。そのため、随意科目は教養教育科目、学部専攻科目の外に置かれます。

3. クラスの編成

(1) クラスとは

クラスとは教育上の効果を考慮して、受講者を適切な規模に分割したものです。

(2) クラスの種類

クラスには次の種類があります。

- ① 必修外国語クラス
- ② 学部専攻教育クラス（基礎演習等）

これらはそれぞれに定員が異なるためクラスの構成員は一致しません。

4. カリキュラム概念図

〈文学部全体の概念図〉（網掛けは教育学専攻の学生の履修を例にしたもの）

卒業要件124単位					
必修専攻科目	選択専攻科目	フリーゾーン 20単位	教養教育科目		
44単位 (哲学専攻は48単位) (臨床心理学専攻は46単位) (歴史学科文化遺産学専攻は52単位)	24単位以上 (哲学専攻は20単位以上) (臨床心理学専攻は22単位以上) (歴史学科文化遺産学専攻は16単位)		教養科目 20単位以上	言語科目 12単位以上	「仏教の思想」科目 4単位以上
真宗学 開設科目	真宗学 関係科目			必修外国語科目 (英語・初修外国語)	必修科目(4単位) 仏教の思想A
仏教学 開設科目	仏教学 関係科目			選択外国語科目	仏教の思想B
哲学専攻 開設科目	哲学 関係科目		人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目・スポーツ科学系科目		選択科目
教育学専攻 開設科目	教育学 関係科目		人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目で設定された、基幹科目から1科目(2単位)以上を修得し、合計20単位以上修得。		「歎異抄の思想A・B」
臨床心理学専攻 開設科目	臨床心理学 関係科目				
歴史学科日本史学専攻 開設科目	日本史学 関係科目				
歴史学科東洋史学専攻 開設科目	東洋史学 関係科目				
歴史学科仏教史学専攻 開設科目	仏教史学 関係科目				
歴史学科文化遺産学専攻 開設科目	文化遺産学 関係科目				
日本語日本文学 開設科目	日本語日本文学 関係科目				
英語英米文学 開設科目	英語英米文学 関係科目				

説明

- 必修専攻科目は、所属する学科・専攻の開設科目の中から、履修規定にしたがって、44単位（哲学専攻は48単位／臨床心理学専攻は46単位／歴史学科文化遺産学専攻は52単位）を修得してください。
- 選択専攻科目は、所属する学科・専攻にかかわらず、文学部7学科6専攻の全関係科目の中から24単位（哲学専攻は20単位以上／臨床心理学専攻は22単位以上／歴史学科文化遺産学専攻は16単位以上）を修得してください。
- 選択外国語科目の単位を修得した場合は、教養科目の単位として扱われます。
- フリーゾーンは、選択専攻科目及び教養科目、選択外国語科目から自由に選択して20単位を修得してください。
(必修外国語科目のうち初修専修型を選択した場合の英語ⅠA～ⅠDの単位は、フリーゾーンの単位として扱われます。)

〈学科・専攻別の詳細図〉

真宗学科	仏教学科	哲学科 哲学専攻	哲学科 教育学専攻	臨床心理学科	歴史学科 日本史学専攻	歴史学科 東洋史学専攻	歴史学科 仏教史学専攻	歴史学科 文化遺産学専攻	日本語 日本文学科	英語 英米文学科
教理史コース 教学史コース 教義学コース 伝道学コース	アジアの仏教と文化コース 日本の仏教と文化コース		教育学コース 教育心理学コース	医療・福祉支援 臨床領域 学校・特別支援 臨床領域 真宗・ビハラー 活動領域					古典文学コース 近代文学コース 情報出版学コース 日本語学コース	英文学コース 米文学コース 英語学コース 英米文化コース
必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 48単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 46単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 52単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位
選択専攻科目24単位以上 (哲学専攻は20単位以上、臨床心理学専攻は22単位以上、歴史学科文化遺産学専攻は16単位以上) <input type="checkbox"/> 選択専攻科目として設けられた科目。 <input type="checkbox"/> 「44単位（哲学専攻は48単位、臨床心理学専攻は46単位、歴史学科文化遺産学専攻は52単位）を超えて履修する必修専攻科目。 <input type="checkbox"/> 他学科・専攻の必修専攻科目（「基礎演習」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒業論文」「1年次又は2年次のみ講読」、英語英米文学科開設科目の「英語実習LL」「初級英作文」を除く）。									諸課程 <input type="checkbox"/> 教職課程 <input type="checkbox"/> 社会教育主事課程 <input type="checkbox"/> 博物館学芸員課程 <input type="checkbox"/> 心理士関係認定資格取得基礎課程 <input type="checkbox"/> 本願寺派学階課程 <input type="checkbox"/> 本願寺派教師資格課程 <input type="checkbox"/> 社会福祉主事課程 <input type="checkbox"/> 図書館司書課程 <input type="checkbox"/> 学校図書館司書教諭課程 <input type="checkbox"/> 特別研修講座	
フリーゾーン (20単位) 選択専攻科目と教養教育科目(教養科目・言語科目・「仏教の思想」科目)から選択してください。										
【教養教育科目】 教養科目：人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目で設定された基幹科目から1科目(2単位)以上を修得し、合計20単位以上修得。 (人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目・スポーツ科学系科目)										
言語科目：必修外国語科目(英語・初修外国語) (12単位) / 選択外国語科目										
「仏教の思想」科目(必修：4単位)：仏教の思想A(2単位) 仏教の思想B(2単位) / 選択科目「歎異抄の思想A・B」										
真宗学科 合計 124単位	仏教学科 合計 124単位	哲学科 哲学専攻 合計 124単位	哲学科 教育学専攻 合計 124単位	臨床心理学科 合計 124単位	歴史学科 日本史学専攻 合計 124単位	歴史学科 東洋史学専攻 合計 124単位	歴史学科 仏教史学専攻 合計 124単位	歴史学科 文化遺産学専攻 合計 124単位	日本語 日本文学科 合計 124単位	英語 英米文学科 合計 124単位

Ⅱ. 教養教育科目の教育目的および履修方法

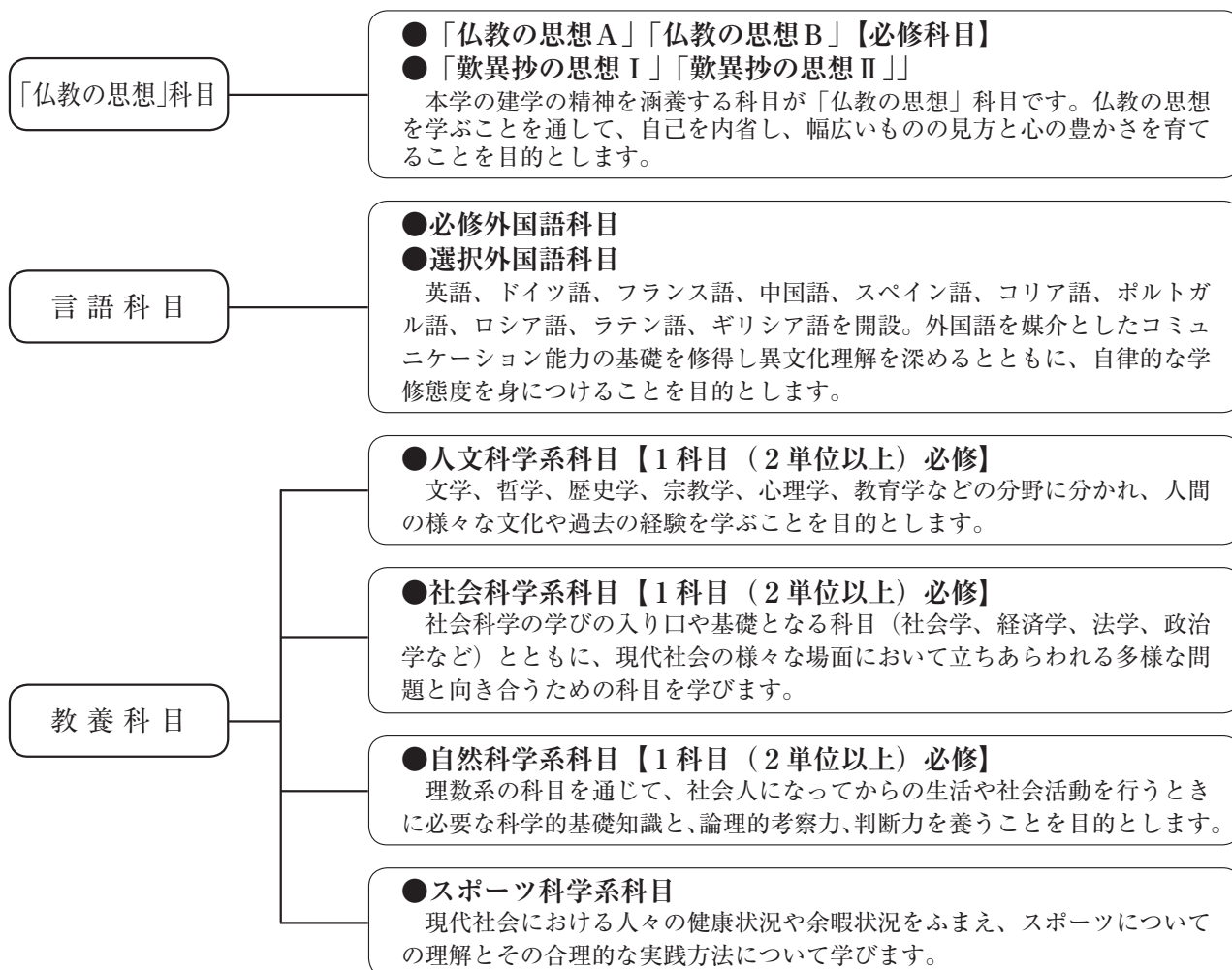
1. 教養教育とは

(1) 教養教育の理念・目的

龍谷大学の教養教育は、人間の根源的な問いからその内面を見つめる思考の幅を広げ、人間をとりまく多様な世界を知ることを通じて、自己を確立できる人間の育成を目指して開講されています。このため、建学の精神に基づく高い倫理性や豊かな人間性ととともに、知性・感性を兼ね備え、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成、つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力や判断力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する力と、国際的なコミュニケーション能力をもった「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としています。

(2) 教養教育科目とは

本学の教養教育は、「仏教の思想」科目、言語科目、教養科目の3つの科目区分で構成されており、これら全体を教養教育科目とよびます。



2. 「仏教の思想」科目について

「仏教の思想」科目では、1年次の必修科目「仏教の思想A」「仏教の思想B」と、2年次以降の選択科目「歎異抄の思想I」「歎異抄の思想II」が開設されています。ここでは「仏教の思想」を中心に説明します。

(1) 目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶを通して、自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的としています。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で1年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、次のような教育目標を掲げています。

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。
2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

(2) 履修方法について

① 必修科目

「仏教の思想A」「仏教の思想B」は必修科目です。配当された Semester において必ず受講してください。

② 選択科目

「歎異抄の思想I」「歎異抄の思想II」は選択科目で、教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

③ クラス指定

授業内容の系統性を確保するため、「仏教の思想A」「仏教の思想B」は同一の授業担当者になります。

学部指定やクラス指定を行っていますので、時間割の指示にしたがって履修登録してください。

④ 再履修

配当された Semester で不合格となった場合は、次の年次において再度履修してください。なお、この場合は上記③（同一の授業担当者による受講およびクラス指定）は適用しません。

また、3年次以上は、同一 Semester で、A・Bを同時履修することが可能です。

年次	Semester	科目名
2年次～	3	「仏教の思想A」(正規クラスを再履修として履修)
	4	「仏教の思想B」(正規クラスを再履修として履修)
3年次～	5	「仏教の思想B」(再履修クラス)
	6	「仏教の思想A」(再履修クラス)

〈同時履修例〉

学期	科目名
第1学期(前期)	「仏教の思想A」・「仏教の思想B」(再履修)
第2学期(後期)	「仏教の思想B」・「仏教の思想A」(再履修)

3. 言語科目について

(1) 目的と意義

言語科目には、必修外国語科目と選択外国語科目があります。必修外国語科目として英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語が、選択外国語科目として英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語・ポルトガル語・ラテン語・ギリシア語が開設されています。必修外国語科目12単位は必ず修得してください。なお、12単位を超えて修得した単位数は、次の場合、卒業要件単位（フリーゾーン）に含むことができます。

- ① 必修外国語科目「初修外国語専修型」を選択し、「英語 I A～ I D」の単位を取得した場合
- ② 選択した履修パターンにある科目以外の必修外国語科目を履修した場合（2年次生以降）
- ③ 初修外国語の言語を変更した場合の変更前言語の取得単位（2年次生以降）

また、選択外国語科目は教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

外国語教育では、母語とはまったく異なる言語に接することで、母語に基づいた思考様式とはまったく異なった思考様式に対する認識・理解を深めることができます。また、これにより、外国の文化、芸術、社会におけるさまざまな伝統や価値観をより深く理解する能力も養われます。さらにそれは、日本語を客観的にながめ、自らの日本語能力を見直すよい機会ともなるでしょう。このような意味で、外国語教育は大学生活に必須の学問的基礎訓練の一環となっています。こうした目標を達成するには、地道な努力の継続が欠かせないこと、また、教室外での自発的な学修も必要であることを心に留めておいてください。

[英語]

●必修外国語科目・英語2年間の到達目標

辞書を使いながら標準的な語彙を用いた文字または音声による英語の内容を的確に捉えられるようにします。また、正確な情報を把握するために基本的な文法構造と語彙を修得します。さらに、英語の自律的な学修態度を身につけます。

1年次では主に英語受信能力の向上に焦点を置き、2年次では発信能力の育成も視野に入れながら、英語の4技能の充実をはかります。

●選択外国語科目・英語（積み上げ英語）の到達目標

積み上げ英語とは、選択外国語科目中の発展科目として開設される英語を指します。必修科目で養った基礎的な運用能力のレベルアップをはかるとともに、個々のニーズに合わせた英語運用能力の向上を目指します。例えば専門分野での学習や留学に対応できるように、知的情報の受信発信能力のさらなる向上を目標とします。

[初修外国語]

本学では、英語以外の外国語で、歴史的・社会的・文化的に見て重要な言語の中から、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語の5言語を「初修外国語」として必修科目に組み入れています。

英語以外の外国語を学ぶことによって、その運用能力を身につけるとともに、言語一般の普遍的構造や機能に対する理解を深め、世界を複眼的に考察する視点を養います。

必修外国語科目、選択外国語科目の履修方法および教育内容は次のとおりです。

(2) 必修外国語科目の履修について

「読む・書く・聴く・話す」といった技能のレベルアップを図るとともに、国際社会において確固とした判断・主張・行動ができるための素地の育成をめざします。

英語、初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、韓国語）の計6つの言語から、1つもしくは2つの言語を選んで学びます。計12単位を必修とします。

① 履修方法

必修外国語12単位の履修パターンには、次の4通りがあります。すべての学生は、必修外国語計12単位を第1～第4セメスターの2年間で履修してください。

履修パターン

履修パターン	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
①英語専修型 英語12単位	【英語 8単位】 I A (週1回/1単位) I C (週1回/1単位) I E (週1回/1単位) I G (週1回/1単位)		【英語 4単位】 II A (週1回/1単位) II C (週1回/1単位)	
②英語重視型 英語8単位 初修外国語4単位	【英語 4単位】 I A (週1回/1単位) I C (週1回/1単位)		【英語 4単位】 II A (週1回/1単位) II C (週1回/1単位)	
③初修外国語重視型 英語4単位 初修外国語8単位	I B (週1回/1単位) I D (週1回/1単位)		【初修外国語 4単位】 III A (週1回/1単位) III C (週1回/1単位)	
④初修外国語専修型 (※注1) 初修外国語12単位	【初修外国語 4単位】 I (週2回/2単位) II (週2回/2単位)		【初修外国語 8単位】 III B (週1回/1単位) III D (週1回/1単位) III E (週1回/1単位) III F (週1回/1単位) III G (週1回/1単位) III H (週1回/1単位)	

(※注) 「初修外国語専修型」を選択した場合の注意事項

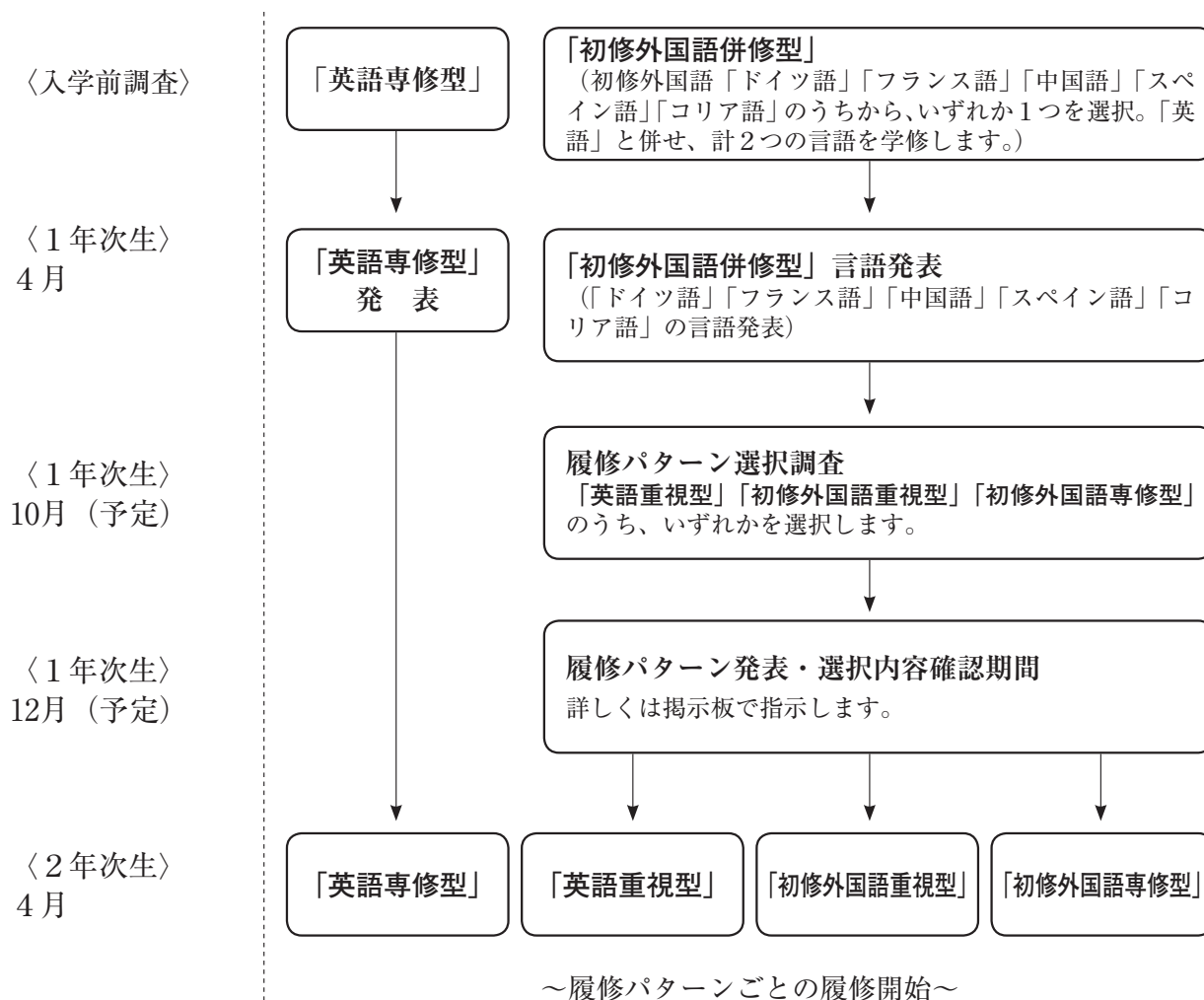
初修外国語専修型を選択した場合、1セメスター・2セメスターで修得した「英語 I A・I B・I C・I D」の単位は、フリーゾーンで認定し、必修外国語12単位には算入されないので注意が必要です。

② 先修制

必修外国語科目には下記のとおり先修制が定められています。

先修制授業科目等	履修の要件となる授業科目名および単位
ドイツ語Ⅱ, Ⅲ	ドイツ語Ⅰ (2単位)
フランス語Ⅱ, Ⅲ	フランス語Ⅰ (2単位)
中国語Ⅱ, Ⅲ	中国語Ⅰ (2単位)
スペイン語Ⅱ, Ⅲ	スペイン語Ⅰ (2単位)
韓国語Ⅱ, Ⅲ	韓国語Ⅰ (2単位)

③ 言語および履修パターンの選択方法



④ 言語および履修パターンについて

1) 入学前調査

入学前に、次のいずれかの履修パターンを選択します。

「英語専修型」

「初修外国語併修型」(初修外国語「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「スペイン語」「ロシア語」のうちから、いずれか1つを選び、「英語」と併せ、計2つの言語を学修します)

新入生全員の選択結果に基づき大学で選考を行い、パターンが決まります(第1学期の履修登録時(4月初旬)に、Web履修登録画面にて確認してください)

2) 「履修パターン」選択調査(「英語専修型」以外の学生対象)

必修外国語(12単位)には、「英語専修型」「英語重視型」「初修外国語重視型」「初修外国語専修型」の履修パターンがあります。みなさんは、この中からいずれかのパターンで履修することになります。

この調査は「英語専修型」以外の学生を対象として、1年次生の10月(予定)に行います。その後、11月頃に確認期間を設けます。

なお、一旦決定した履修パターンの変更は認められないので、注意が必要です。本選択調査の詳細は、文学部掲示板で指示します。

3) 選択した履修パターン以外の必修外国語科目の履修希望受付（2年次以降）

文学部教務課窓口で受け付けます。結果については、授業開始までに文学部掲示板で発表します。

詳細は「II-3-(2)⑥ 選択した履修パターンにある科目以外の必修外国語科目を履修したい場合（P38）」を参照してください。

4) 初修外国語の言語変更希望受付（2年次以降）

文学部教務課窓口で受け付けます。結果については、授業開始までに文学部掲示板で発表します。

詳細は「II-3-(2)⑦ 初修外国語の言語を変更したい場合（P38）」を参照してください。

⑤ 再履修

必修外国語科目が不合格になった場合は、当該科目を再履修しなければなりません。

再履修するには、受講予定者自身が履修登録（本登録）の前に「事前登録」をする必要があります。希望の曜講時を選択し登録してください。
 ※受講者数が均等になるよう調整するため、担当者やクラスを選択できない場合があります。
 ※履修方法等については、科目ごとに異なりますのでご注意ください。

○英語の再履修について

1) 履修方法

英語ⅠA～ⅠHの再履修	再履修用科目の「英語Ⅰ（再）」が複数開講されていますので、必要各単位数に相当する「英語Ⅰ（再）」を選択して履修してください。 <u>不合格となった科目数しか履修は認められませんのでご注意ください。</u>
英語ⅡA～ⅡDの再履修	再履修用科目の「英語Ⅱ（再）」が複数開講されていますので、必要単位数に相当する「英語Ⅱ（再）」を選択して履修してください。 <u>不合格となった科目数しか履修は認められませんのでご注意ください。</u>

2) 授業方法・内容

通常の講義を行います。

3) 評価方法

小テスト・中間テスト・期末テスト・出席・授業態度などから総合的に評価し、最高点は79点となります。

○初修外国語の再履修について

初修外国語Ⅰ・Ⅱ（中国語Ⅰ・Ⅱを除く）の再履修	不合格となった科目の再履修クラスあるいは正規クラスを選択して履修してください。 ※クラス名は、別途配布の時間割表やWeb履修登録画面にて確認のこと。
中国語Ⅰ・Ⅱの再履修	不合格となった科目の再履修クラスを選択して履修してください。 ※クラス名は、別途配布の時間割表やWeb履修登録画面にて確認のこと。
初修外国語ⅢA～ⅢHの再履修	不合格となった科目あるいは再履修用科目（○○○語Ⅲ（再））を履修して下さい。 例）ドイツ語ⅢCを不合格となった場合、ドイツ語ⅢCあるいはドイツ語Ⅲ（再）を履修。

- ⑥ 選択した履修パターンにある科目以外の必修外国語科目を履修したい場合（2年次生以降）各自が選択した履修パターンにある科目以外で、先修条件を満たしている必修外国語科目は履修することができます。履修を希望する場合は、文学部教務課窓口にある「希望届」を文学部教務課窓口に提出してください。ただし、「希望届」の内容、各言語の開講曜日、クラス編成などの条件により、許可されない場合があります。

修得した単位数はフリーゾーンとして卒業要件に含むことができます。

例：1. 英語専修型の学生が、「ドイツ語Ⅰ」を履修する場合

2. フランス語を選択している英語重視型の学生が、「フランス語Ⅲ」を履修する場合

3. 初修外国語重視型の学生が「英語Ⅱ」を履修する場合

4. 中国語を選択している英語重視型または初修外国語重視型の学生が、「スペイン語Ⅰ」を履修する場合

- ⑦ 初修外国語の言語を変更したい場合（2年次生以降）

一旦選択した初修外国語の履修を放棄し、他の言語への変更を特に希望する場合は文学部教務課窓口にある「変更理由書」を、文学部教務課窓口に提出してください。ただし、「変更理由書」の内容、各言語の開講曜日、クラス編成などの条件により、許可されない場合があります。変更が認められた場合は、新たに「Ⅰ」から履修してください。

変更前に修得した言語の単位数はフリーゾーンとして卒業要件に含むことができます。

注：「ドイツ語Ⅰ」の単位修得後、フランス語に言語変更した場合、先に修得した「ドイツ語Ⅰ」は「フランス語Ⅰ」として読み替えられませんので注意が必要です。

(3) 選択外国語科目の履修について

選択外国語科目には、新しい言語にチャレンジするための入門科目と発展科目が開設されています。より高度な運用能力（読む・聴く・話す・書く）の向上を図るとともに、そのことばが用いられている国・地域の文化的、社会的事情についての理解を深めることをめざします。

【入門科目】 開設言語	【発展科目】 開設言語
ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語

また、これらの科目の他に、ポルトガル語、ロシア語、ラテン語、ギリシア語が開設されており、みなさんの多様な興味・関心に応えることができます。

① 開講科目

開講科目は下記のとおりです。

	1年次		2年次		3年次	
	1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester	5 Semester	6 Semester
【入門科目】 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 ロシア語				コミュニケーションⅠ (2単位)	コミュニケーションⅡ (2単位)	
【発展科目(英語)】			英語Ⅱ R 1 (2単位)	英語Ⅱ R 2 (2単位)	英語Ⅲ R 1 (2単位)	英語Ⅲ R 2 (2単位)
			英語Ⅱ S 1 (2単位)	英語Ⅱ S 2 (2単位)	英語Ⅲ S 1 (2単位)	英語Ⅲ S 2 (2単位)
		英語資格試験セミナー (2単位/サマーセッション)			英語Ⅲ G 1 (2単位)	英語Ⅲ G 2 (2単位)
		海外英語研修 (2単位/後期集中)			英語Ⅲ W 1 (2単位)	英語Ⅲ W 2 (2単位)
【発展科目(初修外国語)】 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 ロシア語			セミナー A (2単位)	セミナー B (2単位)		
			セミナー C (2単位)	セミナー D (2単位)		
			海外中国語研修講座 (2単位/通年集中)			
ポルトガル語 ロシア語			I (2単位)	II (2単位)	III A (2単位)	III B (2単位)
ラテン語 ギリシア語			I (1単位)	II (1単位)		

注1 「海外英語研修」(2単位)は1年次生と2年次生のみ履修が可能です。グローバル教育推進センターにおいて申込み手続きを行ってください(Web履修登録不要)。

注2 「海外中国語研修講座」(2単位)は、現地研修に先立ち、グローバル教育推進センターにおいて申込み手続きを行い(Web履修登録不要)、前期には事前指導が行われるので必ず出席してください。

なお、「海外中国語研修講座」(2単位)は、原則、文学部教務課へ申し出ることにより、初修外国語重視型「中国語ⅢA～ⅢD(計4単位)」、初修外国語専修型「中国語ⅢA～ⅢH(計8単位)」のなかで、2単位まで充当されます。

② 先修制

選択外国語科目には下記のとおり先修制が定められています。

先修制授業科目等	履修の要件となる授業科目名および単位
ドイツ語セミナーA, B, C, D	「ドイツ語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
フランス語セミナーA, B, C, D	「フランス語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
中国語セミナーA, B, C, D	「中国語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
スペイン語セミナーA, B, C, D	「スペイン語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
韓国語セミナーA, B, C, D	「韓国語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
ドイツ語コミュニケーションⅡ	ドイツ語コミュニケーションⅠ (2単位)
フランス語コミュニケーションⅡ	フランス語コミュニケーションⅠ (2単位)
中国語コミュニケーションⅡ	中国語コミュニケーションⅠ (2単位)
スペイン語コミュニケーションⅡ	スペイン語コミュニケーションⅠ (2単位)
韓国語コミュニケーションⅡ	韓国語コミュニケーションⅠ (2単位)
英語ⅡR1, ⅡR2, ⅡS1, ⅡS2	「英語ⅠA,ⅠB,ⅠC,ⅠD」(計4単位)
英語ⅢR1, ⅢR2, ⅢS1, ⅢS2, ⅢG1, ⅢG2, ⅢW1, ⅢW2	「英語ⅠA,ⅠB,ⅠC,ⅠD,ⅠE,ⅠF,ⅠG,ⅠH」および「英語ⅡA,ⅡB,ⅡC,ⅡD」の内、4単位以上取得していること。
海外中国語研修講座	中国語Ⅰ,Ⅱ (計4単位)
ポルトガル語Ⅱ、ⅢA、ⅢB	ポルトガル語Ⅰ (2単位)
ロシア語Ⅱ、ⅢA、ⅢB	ロシア語Ⅰ (2単位)

4. 教養科目について

教養科目は、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」「スポーツ科学系科目」の4つの系列に分類されており、各系列から偏りなく履修することを通じ、幅広い教養を身につけることを可能にしています。全ての教養科目は自由に選択できますが、選択必修として「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている基幹科目(学びの入門となる科目や諸学の基本を学ぶ科目)の中から各1科目以上(2単位以上)修得する必要があります。なお、「スポーツ科学系科目」及び2単位を超えて修得した基幹科目の単位については、教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

人文科学系科目

人文科学は、人間の様々な文化や過去の経験を研究する学問領域で、大きくは文学、哲学、歴史学、宗教学、心理学、教育学などに分かれます。人文科学系科目では、先入観や偏見から自由になってものごとを考える力、芸術作品を鑑賞する能力、感情や意見の表現の仕方、人間の心理を理解する方法などを身につけることを目的にしています。

社会科学系科目

社会科学(社会学、経済学、法学、政治学など)は、絶えず変動し複雑さを増す現代社会を広く見渡すとともに、現代社会の諸問題を多角的に捉え、思考・判断する力を養います。

そのために、様々な学問分野が培ってきた「ものの見方」や「考え方」、さらには幅広い知識や知的な諸技法を学びます。

自然科学系科目

自然科学は社会生活を送るうえで重要な分野の一つをなしています。社会人になってからの生活や社会活動の際に必要な科学的基礎知識と、論理的考察力、判断力を養います。数学、情報科学、物理学、天文学、科学史、地球科学、生物学、環境学、化学などの主要分野をカバーする科目を開設します。

スポーツ科学系科目

生涯にわたり健康で文化的な生活の基礎を築くとともに、文化としてのスポーツに対する理解を促し、現代社会におけるスポーツの役割や人間の身体がもつ可能性について考える機会とするための科目を設定しています。具体的には実際にスポーツや身体活動を行う実習科目や行動変容を促す講義科目を開設します。

(1) 単位認定の方法

単位は、それぞれの科目ごとに認定されます。

(2) 開講方式および履修方法について

- ①すべての科目には配当セメスターが設定されており、配当セメスターより前のセメスターにおいては履修できません。
- ②同一科目名の授業の中にも、学期完結型、学期連結型（通年）の開講方式があり、いずれの方式の授業でも履修できます（ただし、1科目のみ）。
- ③同一の科目名で授業担当者が異なる場合でも同一科目として取り扱います。
よって、同じセメスターにおいて、二つ以上同時に履修することや一度単位認定された科目を再度履修することはできません。ただし、16ページ（3）（注2）のとおり、例外があります。
- ④同一の科目名でありながら、「〇〇A」「〇〇B」「〇〇C」とある科目や「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」とある科目は、それぞれ独立した科目であり、いずれも卒業要件として認定されます。「〇〇A」という科目を修得していなくても、「〇〇B」の履修は可能です。なお、「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」の「I」「II」「III」は科目内容のグレードを表していますので、できるだけ順序だてて履修してください。

※「スポーツ技術学演習」について

- ①「スポーツ技術学演習」を履修するためには、本学で行う健康診断を受けておかなければなりません。健康診断の日程については履修説明会や本学ホームページにて確認してください。
- ②各演習ともに、第1回目の授業は「体育館メインフロア（2階）」に集合してください。

5. 教養科目、選択外国語科目の予備登録について

教養科目、選択外国語科目では、各授業科目の受講者数を適正規模に調整するために「予備登録制」がとられています。

したがって、教養科目、選択外国語科目の受講に際しては、年次にかかわらず、予備登録を行う必要があります。（第1学期（前期）には前期科目と通年科目、第2学期（後期）には後期科目の予備登録を行います。）

予備登録を行う際は、学期ごとに定められている履修登録制限単位数に基づき、履修計画をたてた上で、予備登録を行ってください。

（一部予備登録が不要な科目もありますので、以下の「(5) 予備登録が不要な科目（P43）」を参照してください。）

予備登録の結果、受講が許可された科目は、Web履修登録画面にあらかじめ確定した状態で表示されます。その場合、登録の取消はできませんので注意してください。

なお、予備登録で希望した科目の受講が許可されなかった場合や、予備登録を行わなかった場合でも、本登録時にWeb履修登録画面に表示されている科目を選択し履修登録（本登録）することができます。

(1) 予備登録の方法

本学ホームページの「ポータルログイン」から、Web予備・事前登録画面にアクセスの上、希望科目を選択します。

予備登録期間については、履修説明会および文学部掲示板で確認してください。

(2) 予備登録できる上限科目数

第1学期（前期）（通年科目含む）：7科目

第2学期（後期）：7科目

なお、4年次生には予備登録科目数の制限はありません。

(3) 予備登録結果発表について

予備登録結果はWeb履修登録画面で確認してください。

なお、発表日時（履修登録期間）については、履修説明会および文学部掲示板で確認してください。

(4) 予備登録にあたっての注意事項

- ① 第1学期（前期）予備登録は、前期および通年開講科目のみ対象となり、第2学期（後期）予備登録は、後期開講科目が対象科目となります。ただし、4年次生以上は通年登録（年1回登録）のため、後期開講科目についても第1学期（前期）に予備登録を行ってください。
- ② 各年次について定められている履修制限単位の範囲で予備登録をしてください。
- ③ 重複登録（同一曜講時に2科目以上の予備登録をすること）、二重登録（すでに所定単位を修得した授業科目を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目はすべて無効となります。

(5) 予備登録が不要な科目

以下の科目は予備登録が不要です。受講を希望する場合は、直接、履修登録（本登録）をしてください。

なお、詳細については本学ホームページ (<http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>) 等で確認してください。

「人権論A・B」（1年次配当科目）

「ドイツ語セミナーA・B・C・D」（2年次配当科目）

「フランス語セミナーA・B・C・D」（2年次配当科目）

「スペイン語セミナーA・B・C・D」（2年次配当科目）

「中国語セミナーA・B・C・D」（2年次配当科目）

「韓国語セミナーA・B・C・D」（2年次配当科目）

「海外英語研修」（1年次配当科目。1年次生と2年次生のみ履修可）※

「海外中国語研修講座」（2年次配当科目）※

※「海外英語研修」「海外中国語研修講座」の履修を希望する学生は、グローバル教育推進センターが開催する説明会に参加してください。（開催日等はグローバル教育推進センターの掲示板にて確認してください。）その上で本登録を行います。なお「海外中国語研修講座」は「中国語Ⅰ・Ⅱ」の計4単位を修得した学生だけが履修できますので注意してください。

6. 留学生の必修外国語科目（日本語科目等）について

留学生は「日本語」および「留学生のための英語入門A」・「留学生のための英語入門B」を必修外国語とし12単位まで履修することができます。

ただし、登録にあたっては必ず文学部教務課窓口で相談してください。

科目名	単位	配当年次	開講形態
日本語	1	1年次以上	学期完結型
留学生のための英語入門A ※1	1	1年次以上	学期完結型
留学生のための英語入門B ※2	1	1年次以上	学期完結型

※1 学則上の科目名は「英語ⅠE」です。

※2 学則上の科目名は「英語ⅠF」です

7. 教養教育科目開設科目

「仏教の思想」科目

◎は必修科目 ○は選択科目

授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
		1	2	3	4	5	6	
仏教の思想A	2	◎						2科目(4単位)必修
仏教の思想B	2		◎					
歎異抄の思想Ⅰ	2			○				
歎異抄の思想Ⅱ	2				○			

言語科目

◎は必修外国語科目 ○は選択外国語科目

授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
		1	2	3	4	5	6	
英語ⅠA	1	◎						
英語ⅠB	1		◎					
英語ⅠC	1	◎						
英語ⅠD	1		◎					
英語ⅠE	1	◎						
英語ⅠF	1		◎					
英語ⅠG	1	◎						
英語ⅠH	1		◎					
英語ⅡA	1			◎				
英語ⅡB	1				◎			
英語ⅡC	1			◎				
英語ⅡD	1				◎			
ドイツ語Ⅰ	2	◎						
ドイツ語Ⅱ	2		◎					
ドイツ語ⅢA	1			◎				
ドイツ語ⅢB	1				◎			
ドイツ語ⅢC	1			◎				
ドイツ語ⅢD	1				◎			
ドイツ語ⅢE	1			◎				
ドイツ語ⅢF	1				◎			
ドイツ語ⅢG	1			◎				
ドイツ語ⅢH	1				◎			
フランス語Ⅰ	2	◎						
フランス語Ⅱ	2		◎					
フランス語ⅢA	1			◎				
フランス語ⅢB	1				◎			
フランス語ⅢC	1			◎				
フランス語ⅢD	1				◎			

フランス語ⅢE	1			○		
フランス語ⅢF	1				○	
フランス語ⅢG	1			○		
フランス語ⅢH	1				○	
中国語Ⅰ	2	○				
中国語Ⅱ	2		○			
中国語ⅢA	1			○		
中国語ⅢB	1				○	
中国語ⅢC	1			○		
中国語ⅢD	1				○	
中国語ⅢE	1			○		
中国語ⅢF	1				○	
中国語ⅢG	1			○		
中国語ⅢH	1				○	
スペイン語Ⅰ	2	○				
スペイン語Ⅱ	2		○			
スペイン語ⅢA	1			○		
スペイン語ⅢB	1				○	
スペイン語ⅢC	1			○		
スペイン語ⅢD	1				○	
スペイン語ⅢE	1			○		
スペイン語ⅢF	1				○	
スペイン語ⅢG	1			○		
スペイン語ⅢH	1				○	
コリア語Ⅰ	2	○				
コリア語Ⅱ	2		○			
コリア語ⅢA	1			○		
コリア語ⅢB	1				○	
コリア語ⅢC	1			○		
コリア語ⅢD	1				○	
コリア語ⅢE	1			○		
コリア語ⅢF	1				○	
コリア語ⅢG	1			○		
コリア語ⅢH	1				○	
英語ⅡR1	2			○		
英語ⅡR2	2				○	
英語ⅡS1	2			○		
英語ⅡS2	2				○	
英語ⅢR1	2					○
英語ⅢR2	2					○
英語ⅢS1	2				○	
英語ⅢS2	2					○
英語ⅢG1	2				○	
英語ⅢG2	2					○
英語ⅢW1	2				○	

英語ⅢW2	2					○	
英語資格試験セミナー	2		○				
海外英語研修	2		○				1年次生と2年次生のみ履修可
ドイツ語セミナーA	2			○			
ドイツ語セミナーB	2				○		
ドイツ語セミナーC	2			○			
ドイツ語セミナーD	2				○		
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2				○		国際関係コース提供科目
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2					○	国際関係コース提供科目
フランス語セミナーA	2			○			
フランス語セミナーB	2				○		
フランス語セミナーC	2			○			
フランス語セミナーD	2				○		
フランス語コミュニケーションⅠ	2				○		国際関係コース提供科目
フランス語コミュニケーションⅡ	2					○	国際関係コース提供科目
中国語セミナーA	2			○			
中国語セミナーB	2				○		
中国語セミナーC	2			○			
中国語セミナーD	2				○		
中国語コミュニケーションⅠ	2				○		国際関係コース提供科目
中国語コミュニケーションⅡ	2					○	国際関係コース提供科目
スペイン語セミナーA	2			○			
スペイン語セミナーB	2				○		
スペイン語セミナーC	2			○			
スペイン語セミナーD	2				○		
スペイン語コミュニケーションⅠ	2				○		国際関係コース提供科目
スペイン語コミュニケーションⅡ	2					○	国際関係コース提供科目
コリア語セミナーA	2			○			
コリア語セミナーB	2				○		
コリア語セミナーC	2			○			
コリア語セミナーD	2				○		
コリア語コミュニケーションⅠ	2				○		国際関係コース提供科目
コリア語コミュニケーションⅡ	2					○	国際関係コース提供科目
海外中国語研修講座	2			○			
ポルトガル語Ⅰ	2			○			
ポルトガル語Ⅱ	2				○		
ポルトガル語ⅢA	2					○	
ポルトガル語ⅢB	2						○
ロシア語Ⅰ	2			○			
ロシア語Ⅱ	2				○		
ロシア語ⅢA	2					○	
ロシア語ⅢB	2						○
ラテン語Ⅰ	1			○			
ラテン語Ⅱ	1				○		
ギリシア語Ⅰ	1			○			
ギリシア語Ⅱ	1				○		

※下記の科目は留学生のみ履修可能です。

授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
		1	2	3	4	5	6	
日本語	1	◎	◎					学則名 (英語 I E) 学則名 (英語 I F)
留学生のための英語入門 A	1	◎	◎					
留学生のための英語入門 B	1	◎	◎					

教養科目

●は選択必修科目として開講する基幹科目

○は選択科目

科目区分	授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
			1	2	3	4	5	6	
人文科学系科目	哲学入門	2	●						} 1科目 (2単位以上) 必修
	哲学A	2	●						
	倫理学入門	2	●						
	倫理学A	2	●						
	クリティカル・シンキング	2	●						
	宗教学入門	4	●						
	宗教の世界A	2	●						
	宗教の世界B	2		●					
	中国の思想A	2	●						
	中国の思想B	2		●					
	芸術の世界A	2			●				
	芸術の世界B	2				●			
	日本の文学A	4	●						
	日本の文学B	4		●					
	中国の文学A	2	●						
	中国の文学B	2	●						
	西洋の文学A	2	●						
	西洋の文学B	2		●					
	文章表現法A	2	●						
	文章表現法B	2		●					
	言語と文化	2	●						
	日本の歴史A	4	●						
	日本の歴史B	4		●					
	アジアの歴史A	4	●						
	アジアの歴史B	4		●					
	西洋の歴史A	4	●						
	西洋の歴史B	2			●				
	西洋の歴史C	2				●			
	現代世界の歴史A	2	●						
	現代世界の歴史B	2		●					
	心理学	4	●						
	心の科学A	2	●						
心の科学B	2		●						

教育課程
教養教育科目

教育学のすすめA	2	●				
教育学のすすめB	2		●			
現代社会と教育A	2			●		
現代社会と教育B	2				●	
哲学B	2			○		
倫理学B	2			○		
論理学	2			○		
日本の文学C	2			○		
歴史学入門	2			○		
日本の歴史C	4			○		
日本の文化	4				○	
アジアの文化	2			○		
応用心理学A	2			○		
応用心理学B	2				○	
教育原論A	2			○		
教育原論B	2				○	
学習・発達論A	2			○		
学習・発達論B	2				○	
人文科学セミナー	4			○		
大学論	2			○		
法学のすすめ	2	●				
日本国憲法	2	●				
政治学のすすめ	2	●				
社会統計学のすすめ	2	●				
社会学のすすめ	2	●				
地理学のすすめ	2	●				
経済学のすすめ	2	●				
社会調査のすすめ	2	●				
経営学のすすめ	2	●				
人権論A	2	○				
人権論B	2		○			
現代社会とメディア	2			○		
現代社会と福祉	2			○		
現代社会と法	2			○		
環境と社会	2			○		
平和学A	2			○		
ジェンダー論	2			○		
文化人類学	2			○		
国際社会論	2			○		
現代社会の諸問題	2			○		
地域論	2			○		
企業と会計	2			○		
現代社会と労働	2			○		
社会思想史	2			○		
英語で学ぶ日本の社会A	2	○				
英語で学ぶ日本の社会B	2	○				

1科目（2単位以上）必修

人権論は学科によって1セメ(前期)がB、2セメ(後期)がAとなる場合があります。

経営学部履修不可

社会科学系科目

教育課程
教養教育科目

自然科学系科目	数学入門	2	●					} 1科目 (2単位以上) 必修
	数学への旅	2	●					
	確率・統計入門	2	●					
	宇宙の科学Ⅰ	4	●					
	物理科学の世界	4	●					
	時間と空間の科学	2	●					
	自然科学史Ⅰ	2	●					
	生物科学のすすめ	4	●					
	生命科学のすすめ	4	●					
	生態学のすすめ	4	●					
	人類学のすすめ	4	●					
	環境学	4	●					
	情報科学入門	2			●			
	微分と積分	4	○					
	行列と行列式	4	○					
	数理統計学	4			○			
	数理と計算	2			○			
	数学の世界	4			○			
	数理と論証	2			○			
	宇宙の科学Ⅱ	2			○			
	地球の科学	4	○					
	エネルギー入門	2			○			
	自然科学史Ⅱ	2			○			
	科学論	2			○			
	技術論	2				○		
	平和学B	2			○			
	里山学	2	○					
	日本の自然	4	○					
	生命誌	2			○			
	植物の自然誌	2			○			
	動物の自然誌	2			○			
	民族の自然誌	2			○			
	人類進化学	2			○			
人間の生物学	4			○				
自然誌実習	4			○				
野外観察法	2			○				
情報科学Ⅰ	2				○			
情報科学Ⅱ	2					○		
情報科学実習	4		○					
スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2			○			
	現代社会とスポーツ	2		○				
	スポーツ技術学演習	2	○					
	人間とスポーツA	2	○					
	人間とスポーツB	2	○					
	スポーツと人権・平和	2			○			

スポーツ文化史	2			○			
スポーツ科学最前線	2	○					
教養教育科目特別講義	2	○					4単位科目と2単位科目を複数開講するが、1科目（2単位／4単位）のみ卒業要件単位となる。
教養教育科目特別講義	4	○					

注意事項

1) 各印は担当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。

(例：1年次担当科目であれば、2年次以降生も受講可能)

2) 上記担当セメスターにかかわらず、開講期は年度により変更することがあります。

時間割冊子およびWeb履修登録画面で確認してください。

Ⅲ. 文学部専攻科目の教育目的および履修方法について

学科・専攻の教育理念・目的に基づき、専攻科目を開設しています。31ページ記載のカリキュラム概念図でも示しているとおり、所属学科・専攻以外の専攻科目（履修できない科目もあります。詳細はこの項目の各学科専攻の履修上の注意点を参照してください。）も履修できるため、計画的な履修計画を立てる必要があります。

各学科・専攻の開設科目とともにカリキュラムマップも掲載していますので参考にしてください。

☆年度によっては、開講されない場合もあります。開設科目一覧に掲載されていても、時間割表に掲載されていない場合は、その年度は不開講ということになります。

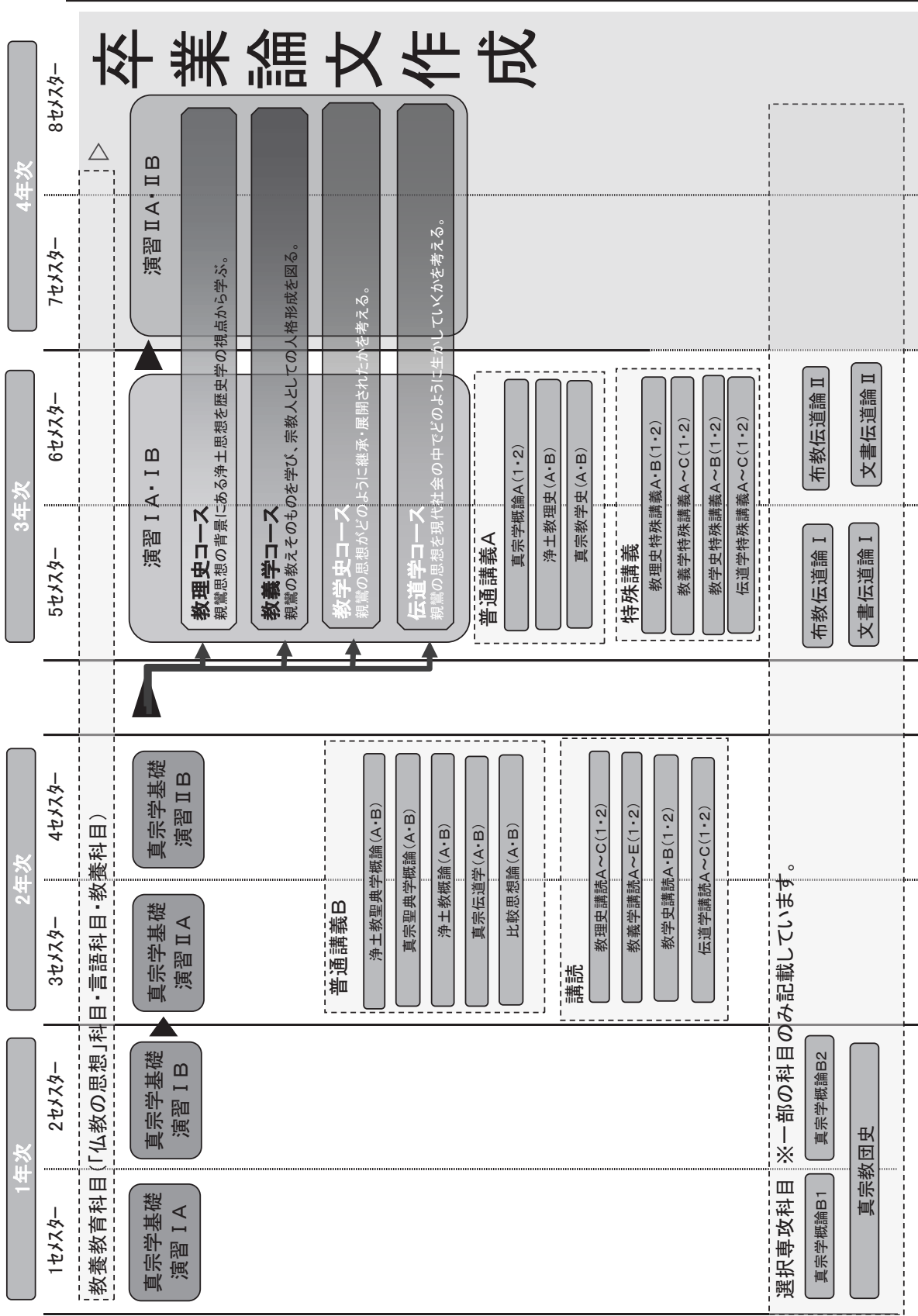
【真宗学科カリキュラムマップ】

偉大な宗教家であり、思想家でもあった親鸞の教えを中心に、仏教や浄土教の歴史・思想等を学び、人間とは何か、人生とは何かを深く探求します。

大学院 文学研究科
真宗学専攻

大学院
実践真宗学研究科

実社会で活躍する



教育課程
血心気体張性

選択専攻科目 ※一部の科目のみ記載しています。

■真宗学科 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼真宗学科の教育理念・目的

親鸞によって開顕された浄土真宗の教義を、浄土教理史・真宗教義学・真宗教学史・真宗伝道学の4分野にわたって探究し、広い視野に立って真宗教義の真理性を明らかにするとともに、現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。				
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 浄土教聖典学概論A (2)【大宮】 [300] 真宗聖典学概論A (2)【大宮]	[300] 浄土教聖典学概論B (2)【大宮】 [300] 真宗聖典学概論B (2)【大宮]
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。			[300] 浄土教概論A (2)【大宮] [300] 真宗伝道学A (2)【大宮] [300] 比較思想論A (2)【大宮]	[300] 浄土教概論B (2)【大宮] [300] 真宗伝道学B (2)【大宮] [300] 比較思想論B (2)【大宮]
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 教理史講読A1 (2)【深草] [300] 教義学講読A1 (2)【深草] [300] 教義学講読B1 (2)【大宮] [300] 教義学講読C1 (2)【大宮] [300] 教義学講読A2 (2)【深草] [300] 教義学講読B2 (2)【大宮] [300] 教義学講読C2 (2)【大宮] [300] 教義学講読D1 (2)【大宮] [300] 教義学講読E1 (2)【深草] [300] 教学史講読A1 (2)【深草] [300] 教学史講読B1 (2)【大宮] [300] 伝道学講読A1 (2)【深草] [300] 伝道学講読B1 (2)【大宮] [300] 伝道学講読C1 (2)【大宮]	[300] 教理史講読A2 (2)【深草] [300] 教理史講読B2 (2)【大宮] [300] 教理史講読C2 (2)【大宮] [300] 教義学講読A2 (2)【深草] [300] 教義学講読B2 (2)【大宮] [300] 教義学講読C2 (2)【大宮] [300] 教義学講読D2 (2)【大宮] [300] 教義学講読E2 (2)【深草] [300] 教学史講読A2 (2)【深草] [300] 教学史講読B2 (2)【大宮] [300] 伝道学講読A2 (2)【深草] [300] 伝道学講読B2 (2)【大宮] [300] 伝道学講読C2 (2)【大宮]
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[100] 真宗学基礎演習ⅠA (2)【深草]	[200] 真宗学基礎演習ⅠB (2)【深草]	[300] 真宗学基礎演習ⅡA (2)【深草]	[300] 真宗学基礎演習ⅡB (2)【深草]
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
演習Ⅱ 卒業論文					

教育課程
学部専攻科目

《履修上の注意点》

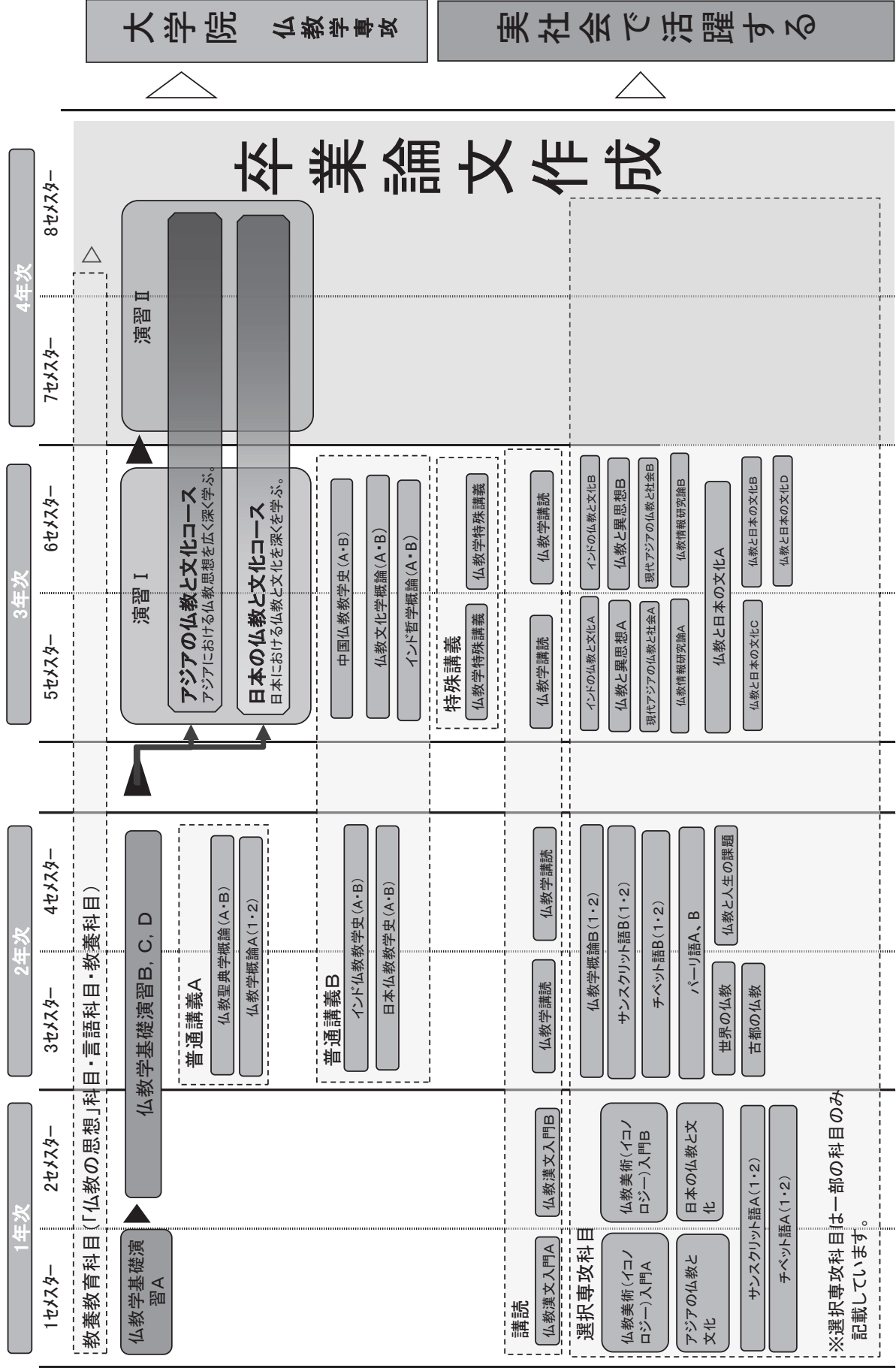
- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において4単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文（4単位）は、演習ⅡA及び演習ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
[400] 真宗学概論A1 (2)【大宮】	[400] 真宗学概論A2 (2)【大宮】			6科目12単位必修
[400] 浄土教理史A (2)【大宮】	[400] 浄土教理史B (2)【大宮】			
[400] 真宗教学史A (2)【大宮】	[400] 真宗教学史B (2)【大宮】			
				2科目4単位選択必修
[400] 教理史特殊講義A1 (2)【大宮】	[400] 教理史特殊講義A2 (2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 教理史特殊講義B1 (2)【大宮】	[400] 教理史特殊講義B2 (2)【大宮】			
[400] 教義学特殊講義A1 (2)【大宮】	[400] 教義学特殊講義A2 (2)【大宮】			
[400] 教義学特殊講義B1 (2)【大宮】	[400] 教義学特殊講義B2 (2)【大宮】			
[400] 教義学特殊講義C1 (2)【大宮】	[400] 教義学特殊講義C2 (2)【大宮】			
[400] 教学史特殊講義A1 (2)【大宮】	[400] 教学史特殊講義A2 (2)【大宮】			
[400] 教学史特殊講義B1 (2)【大宮】	[400] 教学史特殊講義B2 (2)【大宮】			
[400] 伝道学特殊講義A1 (2)【大宮】	[400] 伝道学特殊講義A2 (2)【大宮】			
[400] 伝道学特殊講義B1 (2)【大宮】	[400] 伝道学特殊講義B2 (2)【大宮】			
[400] 伝道学特殊講義C1 (2)【大宮】	[400] 伝道学特殊講義C2 (2)【大宮】			
				8単位必修
[400] 教理史演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 教理史演習ⅠB (2)【大宮】			
[400] 教義学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 教義学演習ⅠB (2)【大宮】			
[400] 教学史演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 教学史演習ⅠB (2)【大宮】			4単位選択必修。同一分野(教理史、教義学、教学史、伝道学)でⅠA・ⅠBを履修すること。
[400] 伝道学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 伝道学演習ⅠB (2)【大宮】			
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		卒業論文4単位及び、同一分野の演習ⅡA・ⅡB(教理史、教義学、教学史、伝道学)の4単位、合計8単位必修。
		[500] 教理史演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 教理史演習ⅡB (2)【大宮】	
		[500] 教義学演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 教義学演習ⅡB (2)【大宮】	
		[500] 教学史演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 教学史演習ⅡB (2)【大宮】	
		[500] 伝道学演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 伝道学演習ⅡB (2)【大宮】	

教育課程
学部専攻科目

【仏教学科カリキュラムマップ】

2500年の時を超え、世界に広まった仏教の精髓を思想面から追究するとともに、各時代各地域で生み出された仏像や絵画・貴重文献等、本物の資料と向き合う文化面からの学びで理解を深めます。



※選択専攻科目は一部の科目のみ記載しています。

■仏教学科 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼仏教学科の教育理念・目的

インド・中国・日本等の諸地域に及ぶ仏教の多様な展開を「アジアの仏教と文化」「日本の仏教と文化」の2つの視座から学ぶことによって専門的知識の修得と論理的洞察力の涵養を図り、現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 仏教聖典学概論A(2)【大宮】	[300] 仏教聖典学概論B(2)【大宮】
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 仏教学概論A1(2)【大宮】	[300] 仏教学概論A2(2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。			[300] インド仏教学史A(2)【深草】	[300] インド仏教学史B(2)【深草】
				[300] 日本仏教学史A(2)【深草】	[300] 日本仏教学史B(2)【深草】
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。	[100] 仏教漢文入門A (2)【深草】	[200] 仏教漢文入門B (2)【深草】	[300] 仏教学講読A1 (2)【大宮】	[300] 仏教学講読A2 (2)【大宮】
				[300] 仏教学講読B1 (2)【大宮】	[300] 仏教学講読B2 (2)【大宮】
				[300] 仏教学講読C1 (2)【大宮】	[300] 仏教学講読C2 (2)【大宮】
				[300] 仏教学講読D1 (2)【大宮】	[300] 仏教学講読D2 (2)【大宮】
				[300] 仏教学講読F1 (2)【大宮】	[300] 仏教学講読F2 (2)【大宮】
				[300] 仏教学講読G1 (2)【大宮】	[300] 仏教学講読G2 (2)【大宮】
				[300] 仏教学講読H1 (2)【大宮】	[300] 仏教学講読H2 (2)【大宮】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[100] 仏教学基礎演習A(2)【深草】		B～Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。 仏教学基礎演習B(2)【深草】 仏教学基礎演習C(2)【深草】 仏教学基礎演習D(2)【深草】	
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
卒業論文					

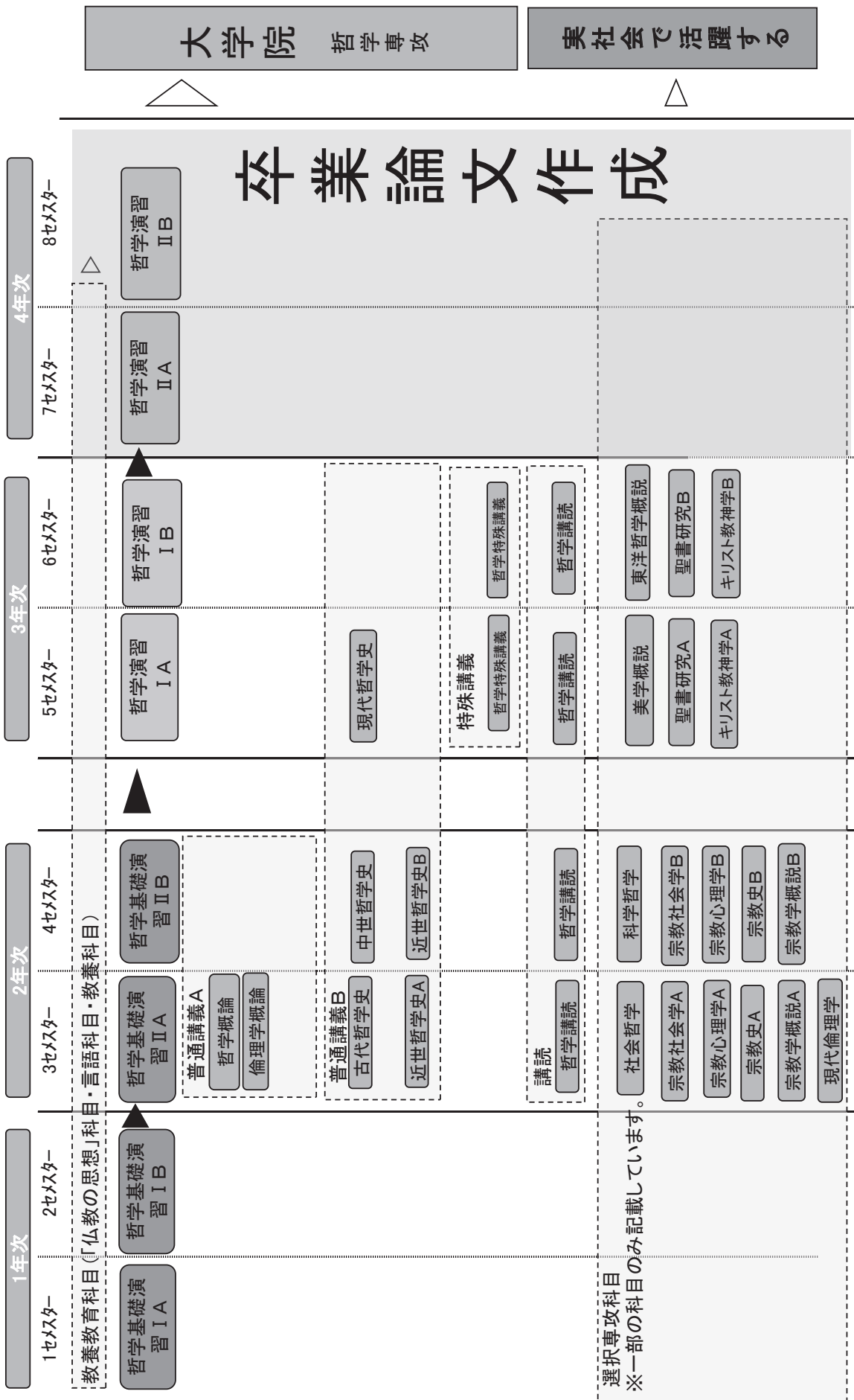
教育課程
学部専攻科目

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において4単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 仏教学基礎演習B～Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。
- 卒業論文（4単位）は、仏教学演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5semester	第6semester	第7semester	第8semester	
				4科目8単位必修
[400] インド哲学概論A(2)【大宮】	[400] インド哲学概論B(2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 仏教学文化概論A(2)【大宮】	[400] 仏教学文化概論B(2)【大宮】			
[400] 中国仏教教学史A(2)【大宮】	[400] 中国仏教教学史B(2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義A1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義A2 (2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 仏教学特殊講義B1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義B2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義C1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義C2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義D1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義D2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義E1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義E2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義F1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義F2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義G1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義G2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義H1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義H2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義I1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義I2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義J1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義J2 (2)【大宮】			
[600] 仏教学講読E1 (2)【大宮】	[600] 仏教学講読E2 (2)【大宮】			「仏教漢文入門A」「仏教漢文入門B」4単位と講読科目の中から4単位選択必修の合計8単位必修。
[600] 仏教学講読I1 (2)【大宮】	[600] 仏教学講読I2 (2)【大宮】			
				4科目8単位必修
[400] 仏教学演習Ⅰ (4)【大宮】				4単位必修
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		2科目8単位必修
		[500] 仏教学演習Ⅱ (4)【大宮】		

【哲学科哲学専攻カリキュラムマップ】あらゆる偏見・独断・権威を捨てて思想のライブに身を没し知の迷宮をさまよいながら、論理的思考力と表現力を身につけよう。



選択専攻科目

※一部の科目のみ記載しています。

■哲学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼哲学専攻の教育理念・目的

哲学の歴史を深く学び、他者との対話によってあらゆる物事の本質を考えるとともに、現代の諸科学や社会の動向をも吟味しつつ、哲学的・倫理的・宗教的諸問題の解決に寄与する、論理的洞察力に富んだ人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 哲学概論(2)【大宮】 [300] 倫理学概論(2)【大宮】 ※上記2科目は、第3 Semester・第4 Semesterとも開講しません。	
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 古代哲学史(2)【大宮】 [300] 中世哲学史(2)【大宮】	
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 哲学講読G1(2)【深草】 [300] 哲学講読G2(2)【深草】 《2年次のみ》 《2年次のみ》	
				[300] 哲学講読H1(2)【深草】 [300] 哲学講読H2(2)【深草】 《2年次のみ》 《2年次のみ》	
				[300] 哲学講読I1(2)【深草】 [300] 哲学講読I2(2)【深草】 《2年次のみ》 《2年次のみ》	
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[100] 哲学基礎演習IA(2)【深草】	[200] 哲学基礎演習IB(2)【深草】	[300] 哲学基礎演習IIA(2)【深草】 [300] 哲学基礎演習IIB(2)【深草】	
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
演習Ⅱ 卒業論文					

教育課程

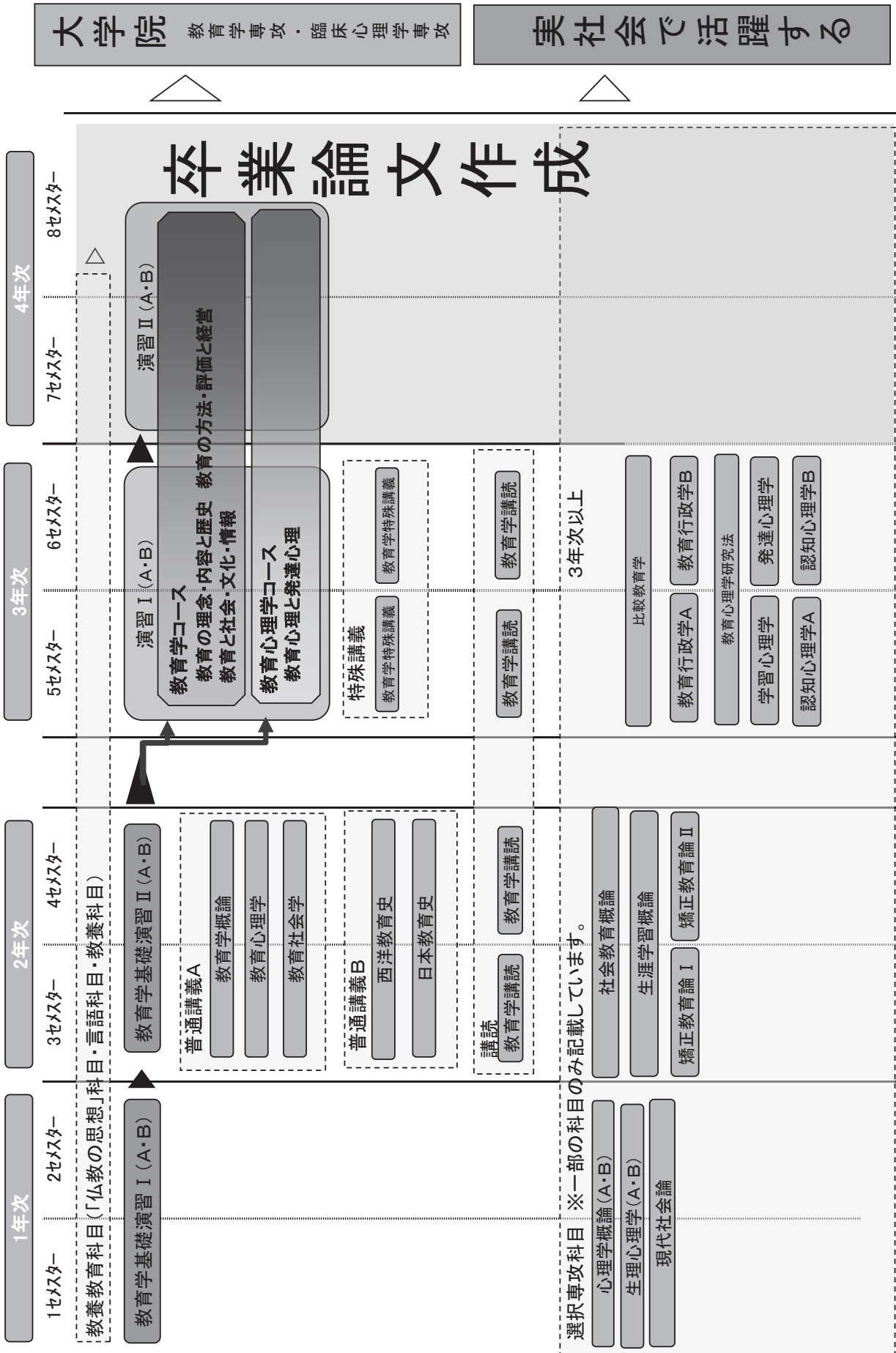
学部専攻科目

《履修上の注意点》

- 「普通講義A」「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A1」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文（4単位）は、演習ⅡA及び演習ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5semester	第6semester	第7semester	第8semester	
				2科目4単位必修
[400]現代哲学史 (2)【大宮】				4科目8単位選択必修
[600]哲学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[600]哲学特殊講義(A)B (2)【大宮】			4科目8単位選択必修
[600]哲学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600]哲学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[600]哲学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600]哲学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400]哲学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[400]哲学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[400]哲学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[400]哲学特殊講義(E)B (2)【大宮】			
[400]哲学講読A1 (2)【大宮】	[400]哲学講読A2 (2)【大宮】			4科目8単位必修。 年次指定《2年次のみ》4単位修得した上で《3年次以上》履修可能な講読4単位の修得が望ましいが、年次指定が《2年次のみ》の「講読」を修得できなかった場合は、年次指定《3年次以上》の科目を修得し、合計8単位修得しなければなりません。なお、《2年次のみ》の講読は、4単位まで講読分野の卒業要件単位とし、4単位を超えて修得した場合は選択専攻科目とする。
[400]哲学講読B1 (2)【大宮】	[400]哲学講読B2 (2)【大宮】			
[400]哲学講読C1 (2)【大宮】	[400]哲学講読C2 (2)【大宮】			
[400]哲学講読D1 (2)【大宮】	[400]哲学講読D2 (2)【大宮】			
[400]哲学講読E1 (2)【大宮】	[400]哲学講読E2 (2)【大宮】			
[400]哲学講読F1 (2)【大宮】	[400]哲学講読F2 (2)【大宮】			
[400]哲学講読J1 (2)【大宮】	[400]哲学講読J2 (2)【大宮】			
[400]哲学演習ⅠA (2)【大宮】	[400]哲学演習ⅠB (2)【大宮】			2科目4単位必修
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		3科目8単位必修
		[500] 哲学演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 哲学演習ⅡB (2)【大宮】	

【哲学科教育学専攻カリキュラムマップ】人間本来の生き方、成長・発達メカニズム、そして心の問題総合的な人間学をベースに教育にアプローチします。



大学院 教育学専攻・臨床心理学専攻

実社会で活躍する

卒業論文作成

■哲学科教育学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼哲学科教育学専攻の教育理念・目的

深い人間理解に基づいて、教育の本質・方法や社会・文化との関係、発達・成長・学習の心理学などについての基本的な考え方・見識を養い、人間本来の生き方や発達のメカニズムなどを追究して、生涯学習社会における実践的課題に応えられる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 教育学概論(4)【両学舎】	
				[300] 教育心理学(4)【両学舎】	
				[300] 教育社会学(4)【両学舎】	
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 西洋教育史(4)【大宮】	
				[300] 日本教育史(4)【大宮】	
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 教育学講読C1 (2)【深草】	[300] 教育学講読C2 (2)【深草】
				[300] 教育学講読D1 (2)【深草】	[300] 教育学講読D2 (2)【深草】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[100] 教育学基礎演習ⅠA(2)【深草】	[200] 教育学基礎演習ⅠB(2)【深草】	[300] 教育学基礎演習ⅡA(2)【深草】	[300] 教育学基礎演習ⅡB(2)【深草】
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
演習Ⅱ 卒業論文					

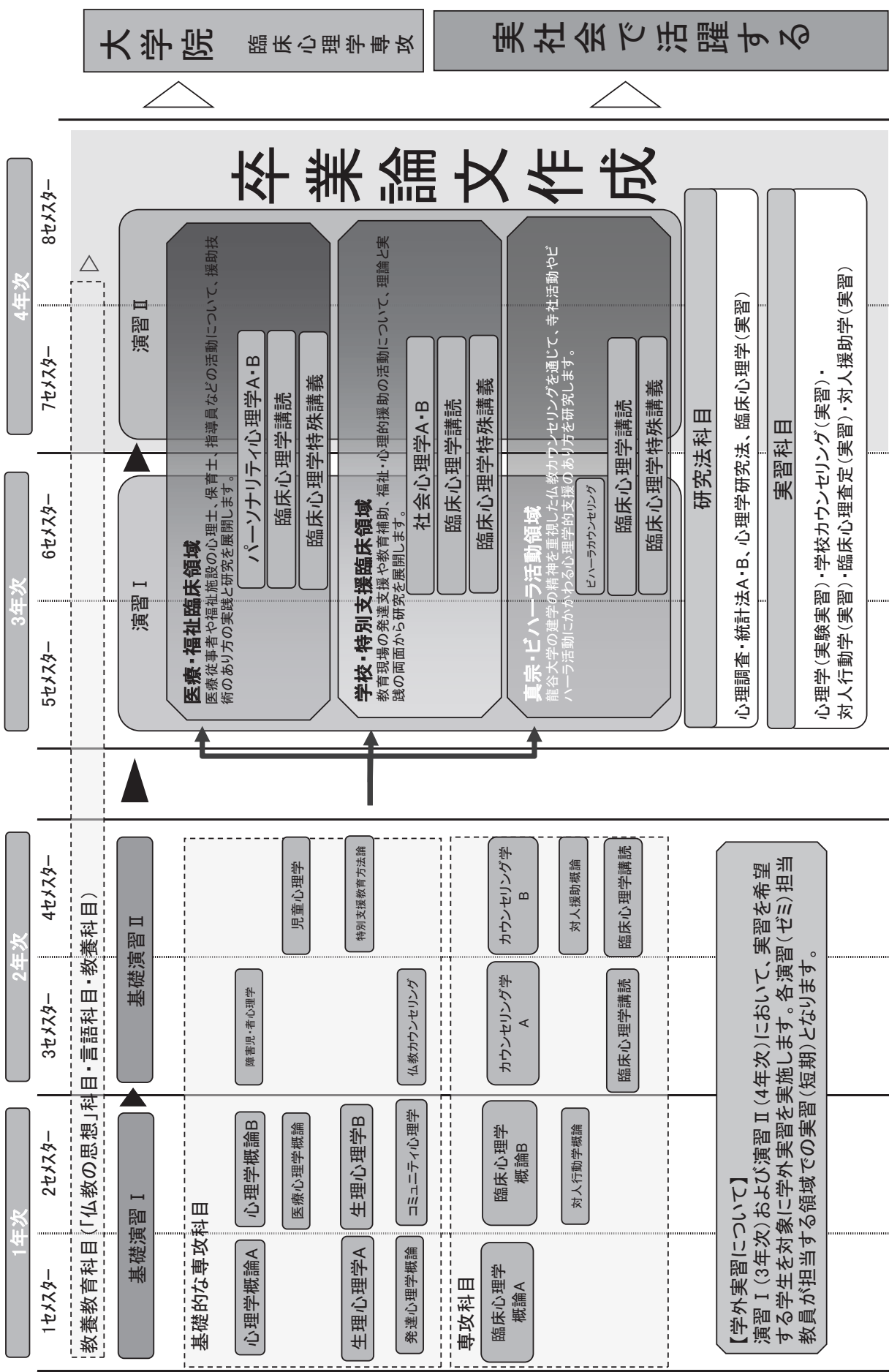
教育課程
学部専攻科目

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A2」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文（4単位）は、演習ⅡA及び演習ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。
- 「教育学講読」は同一セメスターにおいてA1とB1、A2とB2、C1とD1、C2とD2という組み合わせでの登録はできません。

3年次		4年次		履修規定
第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
				3科目12単位必修
				1科目4単位選択必修
[600] 教育学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(A)B (2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[600] 教育学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[600] 教育学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[600] 教育学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[400] 教育学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[400] 教育学特殊講義(E)B (2)【大宮】			
[600] 教育学特殊講義(F)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(F)B (2)【大宮】			
[600] 教育学特殊講義(G)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(G)B (2)【大宮】			
[400] 教育学特殊講義(H)A (2)【大宮】	[400] 教育学特殊講義(H)B (2)【大宮】			
[400] 教育学特殊講義(I)A (2)【大宮】	[400] 教育学特殊講義(I)B (2)【大宮】			
[600] 教育学特殊講義(K)A (2)【大宮】	[600] 教育学特殊講義(K)B (2)【大宮】			
[400] 教育学講読A1 (2)【大宮】	[400] 教育学講読A2 (2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 教育学講読B1 (2)【大宮】	[400] 教育学講読B2 (2)【大宮】			
[400] 教育学講読E1 (2)【大宮】	[400] 教育学講読E2 (2)【大宮】			
				4科目8単位必修
[400] 教育学演習ⅠA(2)【大宮】	[400] 教育学演習ⅠB(2)【大宮】			4単位選択必修 同一分野(教育学・教育心理学)でⅠA・ⅠBを履修すること。
[400] 教育心理学演習ⅠA(2)【大宮】	[400] 教育心理学演習ⅠB(2)【大宮】			
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		卒業論文4単位を含み8単位必修 同一分野(教育学・教育心理学)でⅡA・ⅡBを履修すること。
		[500] 教育学演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 教育学演習ⅡB (2)【大宮】	
		[500] 教育心理学演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 教育心理学演習ⅡB (2)【大宮】	

【臨床心理学カリキュラムマップ】専門的な知識や技能を用い、人の心の問題や悩みを援助・予防するための力を養います。



大学院 臨床心理学専攻

実社会で活躍する

【学外実習について】
 演習 I (3年次) および演習 II (4年次) において、実習を希望する学生を対象に学外実習を実施します。各演習(ゼミ)担当教員が担当する領域での実習(短期)となります。

■臨床心理学科 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼臨床心理学科の教育理念・目的

社会的に解決困難な心理的課題に対して、臨床心理学を基礎とした対人援助のためのコミュニケーション・スキルを身に付けることで具体的な解決のための方策を構築し、現代社会が抱える心理的課題に対応できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。	[100] 心理学概論A(2)【深草】	[200] 心理学概論B(2)【深草】		
		[100] 臨床心理学概論A(2)【深草】	[200] 臨床心理学概論B(2)【深草】		
		[100] 発達心理学概論(2)【深草】	[200] 対人行動学概論(2)【深草】		
普通講義B				[300] カウンセリング学A(2)【深草】	[300] カウンセリング学B(2)【深草】
				[300] 障害児・者心理学(2)【深草】	[300] 対人援助概論(2)【深草】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 臨床心理学講読A(A)(2)【深草】	[300] 臨床心理学講読A(B)(2)【深草】
				[300] 臨床心理学講読B(A)(2)【深草】	[300] 臨床心理学講読B(B)(2)【深草】
				[300] 臨床心理学講読C(A)(2)【深草】	[300] 臨床心理学講読C(B)(2)【深草】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[200] 臨床心理学基礎演習Ⅰ(4)【深草】		[300] 臨床心理学基礎演習Ⅱ(4)【深草】	
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
演習Ⅱ 卒業論文					

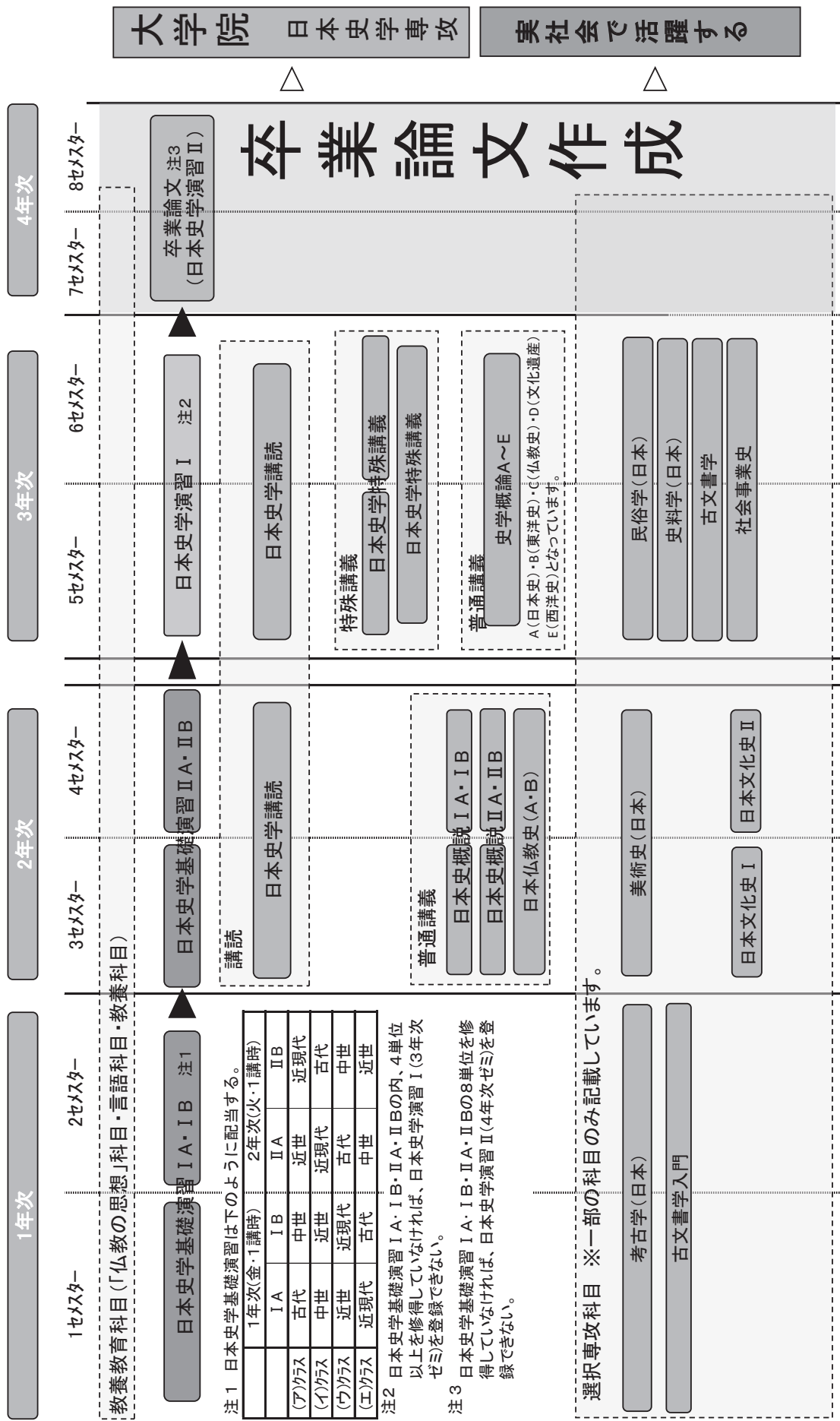
教育課程
学部専攻科目

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 卒業論文（4単位）は、演習ⅡA及び演習ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。
- 選択専攻科目「心理調査・統計法B」は「心理調査・統計法A」の単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
[400] 心理調査・統計法A (2)【大宮】				7科目14単位必修
				2科目4単位選択必修
[400] 臨床心理学特殊講義A(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義A(B) (2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 臨床心理学特殊講義B(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義B(B) (2)【大宮】			
[400] 臨床心理学特殊講義C(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義C(B) (2)【大宮】			
[400] 臨床心理学特殊講義D(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義D(B) (2)【大宮】			
[400] 臨床心理学特殊講義E(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義E(B) (2)【大宮】			
[400] 臨床心理学特殊講義F(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義F(B) (2)【大宮】			
[400] 臨床心理学特殊講義G(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義G(B) (2)【大宮】			
[400] 臨床心理学特殊講義H(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義H(B) (2)【大宮】			
[400] 臨床心理学特殊講義I(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義I(B) (2)【大宮】			
[400] 臨床心理学特殊講義J(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学特殊講義J(B) (2)【大宮】			
[400] 臨床心理学講読D(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学講読D(B) (2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 臨床心理学講読E(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学講読E(B) (2)【大宮】			
[400] 臨床心理学講読F(A) (2)【大宮】	[400] 臨床心理学講読F(B) (2)【大宮】			
				2科目8単位必修
[400] 臨床心理学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 臨床心理学演習ⅠB (2)【大宮】			4単位必修
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		3科目8単位必修
		[500] 臨床心理学演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 臨床心理学演習ⅡB (2)【大宮】	

【歴史学科日本史学専攻カリキュラムマップ】学説を踏まえつつ、自らの手で事実を解明。歴史を学ぶと現代の問題や自分の生き方が見えてきます。



注1 日本史学基礎演習は下のように配当する。

	1年次(金・1講時)	2年次(火・1講時)
	I A I B	II A II B
(ア)クラ	古代 中世 近世 近現代	近現代
(イ)クラ	中世 近世 近現代 古代 中世	古代 中世 近世
(ウ)クラ	近世 近現代 古代 中世 近世	古代 中世 近世

注2 日本史学基礎演習 I A・I B・II A・II Bの内、4単位以上を修得していなければ、日本史学演習 I (3年次ゼミ)を登録できない。

注3 日本史学基礎演習 I A・I B・II A・II Bの8単位を修得していなければ、日本史学演習 II (4年次ゼミ)を登録できない。

選択専攻科目 ※一部の科目のみ記載しています。

- 考古学(日本)
- 古文書学入門
- 美術史(日本)
- 日本文化史 I
- 日本文化史 II
- 民俗学(日本)
- 史料学(日本)
- 古文書学
- 社会事業史

■歴史学科日本史学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼歴史学科日本史学専攻の教育理念・目的

日本史の各時代・領域に関する教育・研究を通して、専門知識・技能を修得し、併せて批判的精神と確かな歴史認識をもった歴史の主体として、現代社会に貢献できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 日本史概説 I A (2)【大宮】	[300] 日本史概説 I B (2)【大宮】
				[300] 日本史概説 II A (2)【大宮】	[300] 日本史概説 II B (2)【大宮】
				[300] 日本仏教史 A (2)【大宮】	[300] 日本仏教史 B (2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 日本史学講読F1 (2)【深草】	[300] 日本史学講読F2 (2)【深草】
				[300] 日本史学講読G1 (2)【深草】	[300] 日本史学講読G2 (2)【深草】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[200] 日本史学基礎演習 I A(2)【深草】	[200] 日本史学基礎演習 I B(2)【深草】	[300] 日本史学基礎演習 II A(2)【深草】	[300] 日本史学基礎演習 II B(2)【深草】
演習 I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習 I」(3年次)および「演習 II」(4年次)を開講する。				
演習 II 卒業論文					

教育課程
学部専攻科目

《履修上の注意点》

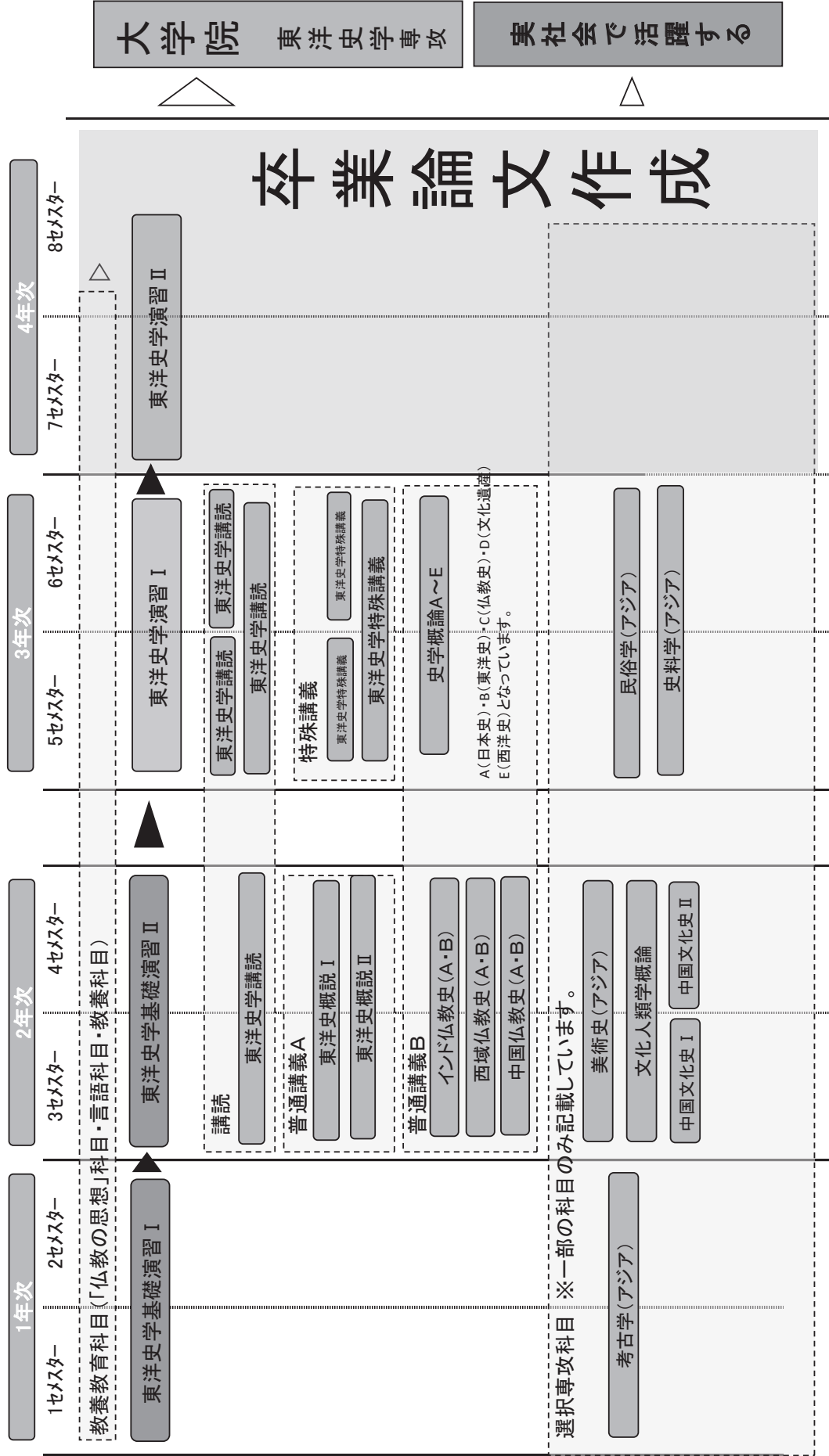
- 「普通講義」のうち「史学概論A～E」を、2科目4単位を超えて修得した単位、または「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は、選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 「日本史学演習Ⅰ」「日本史学演習Ⅱ」「卒業論文」の先修要件について
 - ① 「日本史学演習Ⅰ」の履修については、前年次までに「日本史学基礎演習ⅠA～ⅡB」の中から4単位以上を修得していること。
 - ② 「卒業論文」「日本史学演習Ⅱ」の履修については、前年次までに「日本史学基礎演習ⅠA～ⅡB」の8単位を修得していること。
- 卒業論文（4単位）は、日本史学演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
[400] 史学概論A(2)【大宮】	[400] 史学概論B(2)【大宮】			史学概論A～Eのうち2科目4単位を含む16単位必修
[400] 史学概論C(2)【大宮】	[400] 史学概論D(2)【大宮】			
[400] 史学概論E(2)【大宮】				
[600] 日本史学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(A)B (2)【大宮】			4単位選択必修
[600] 日本史学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(E)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(F)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(F)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(G)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(G)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(H)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(H)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(I)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(I)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(J)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(J)B (2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(K)A (2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(K)B (2)【大宮】			
[400] 日本史学特殊講義(L) (4)【大宮】				
[600] 日本史学講読A1 (2)【大宮】	[600] 日本史学講読A2 (2)【大宮】			
[600] 日本史学講読B1 (2)【大宮】	[600] 日本史学講読B2 (2)【大宮】			
[600] 日本史学講読C1 (2)【大宮】	[600] 日本史学講読C2 (2)【大宮】			
[600] 日本史学講読D1 (2)【大宮】	[600] 日本史学講読D2 (2)【大宮】			
[400] 日本史学講読E1 (2)【大宮】	[400] 日本史学講読E2 (2)【大宮】			
[400] 日本史学講読H1 (2)【大宮】	[400] 日本史学講読H2 (2)【大宮】			4科目8単位必修
[400] 日本史学演習Ⅰ (4)【大宮】				1科目4単位必修
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		2科目8単位必修
		[500] 日本史学演習Ⅱ (4)【大宮】		

教育課程
学部専攻科目

【歴史学科東洋史学専攻カリキュラムマップ】

広大なアジア全域の歴史・文化を学び、研究を深めるとともに漢字文化圏やイスラーム文化圏の諸言語を修得することも可能です。



大学院 東洋史学専攻

実社会で活躍する

卒業論文作成

■歴史学科東洋史学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼史学科／歴史学科東洋史学専攻の教育理念・目的

中国をはじめ、アジア諸地域の歴史・文化・宗教・言語に関する専門的な知識と技能を修得し、明確な歴史認識をもち、広い視野に立ってアジア全体を深く洞察できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 東洋史概説Ⅰ (4)【大宮】	
普通講義B				[300] 東洋史概説Ⅱ (4)【大宮】	
				[300] インド仏教史A (2)【大宮】	[300] インド仏教史B (2)【大宮】
				[300] 西域仏教史A (2)【大宮】	[300] 西域仏教史B (2)【大宮】
				[300] 中国仏教史A (2)【大宮】	[300] 中国仏教史B (2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 東洋史学講読(F) (4)【深草】《2年次のみ》	
				[300] 東洋史学講読(G) (4)【深草】《2年次のみ》	
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[200] 東洋史学基礎演習Ⅰ (4)【深草】		[300] 東洋史学基礎演習Ⅱ (4)【深草】	
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
演習Ⅱ 卒業論文					

教育課程
学部専攻科目

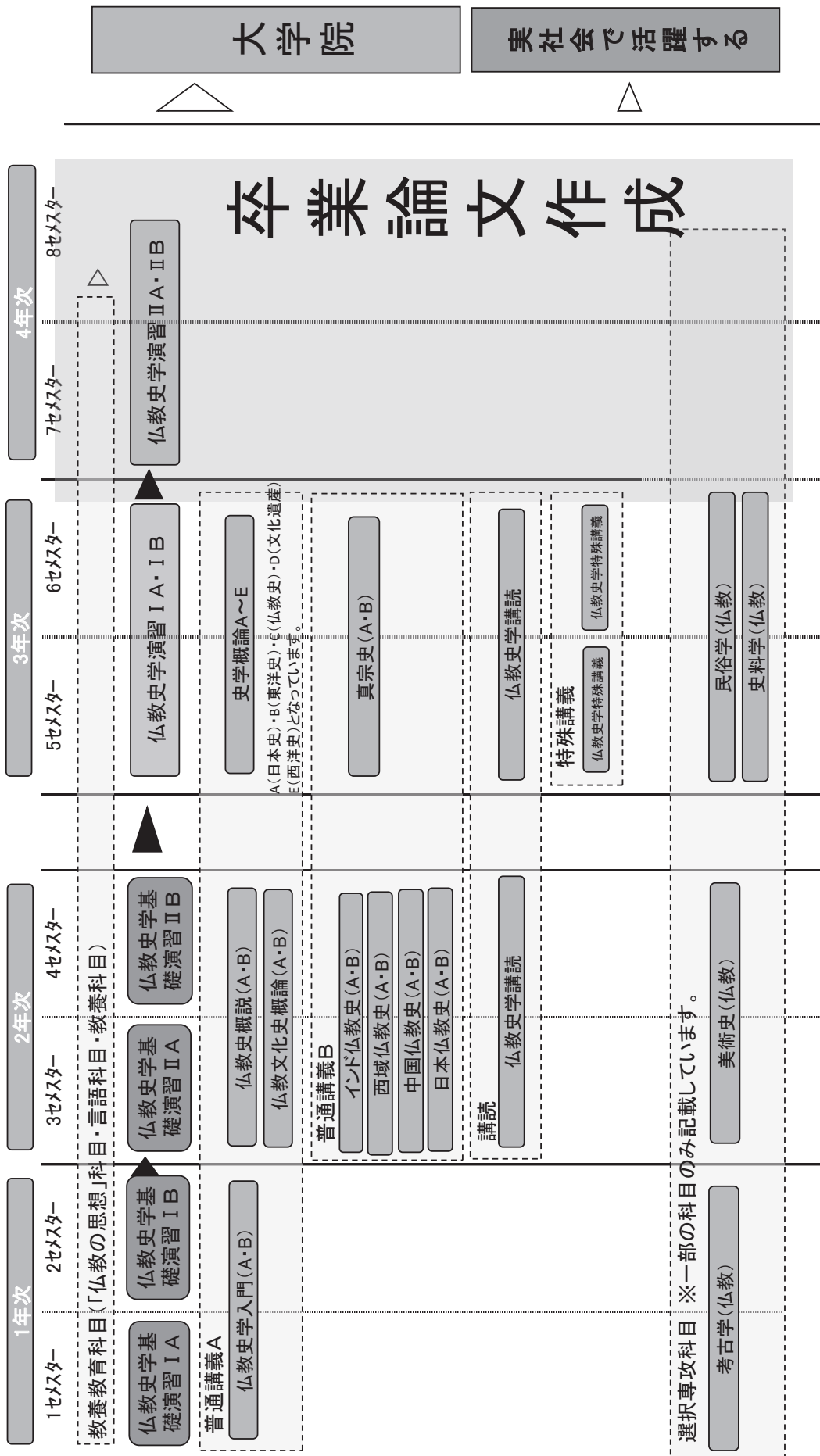
《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文（4単位）は、東洋史学演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
				2科目8単位必修
[400] 史学概論A(2)【大宮】	[400] 史学概論B(2)【大宮】			4単位選択必修
[400] 史学概論C(2)【大宮】	[400] 史学概論D(2)【大宮】			
[400] 史学概論E(2)【大宮】				
[600] 東洋史学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(A)B (2)【大宮】			4単位選択必修
[600] 東洋史学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(E)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(F)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(F)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(G)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(G)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(H)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(H)B (2)【大宮】			
[400] 東洋史学講読(A) (4)【大宮】				
[400] 東洋史学講読(B) (4)【大宮】				
[600] 東洋史学講読(C)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学講読(C)B (2)【大宮】			
[400] 東洋史学講読(D) (4)【大宮】				
[400] 東洋史学講読(E) (4)【大宮】				
[400] 東洋史学講読(H) (4)【大宮】				
[400] 東洋史学講読(I) (4)【大宮】				
				2科目8単位必修
[400] 東洋史学演習Ⅰ (4)【大宮】				1科目4単位必修
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		2科目8単位必修
		[500] 東洋史学演習Ⅱ (4)【大宮】		

教育課程
学部専攻科目

【歴史学科仏教史学専攻カリキュラムマップ】 私たちの精神の根底にある「仏教」の歴史を知ることによって人間とは？ 仏教とは？ という本質的な問いを探究します。



■歴史学科仏教史学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼史学科／歴史学科仏教史学専攻の教育理念・目的

歴史的な視点に立って、仏教が、それぞれの時代・地域の中でどのように受け入れられ展開してきたのかを考察することにより、歴史的主体として現代社会に貢献できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。	[100] 仏教史学入門A (2)【深草】	[200] 仏教史学入門B (2)【深草】	[300] 仏教史概説A (2)【大宮】 [300] 仏教文化史概論A (2)【深草】	[300] 仏教史概説B (2)【大宮】 [300] 仏教文化史概論B (2)【深草】
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] インド仏教史A (2)【大宮】 [300] 西域仏教史A (2)【大宮】 [300] 日本仏教史A (2)【大宮】 [300] 中国仏教史A (2)【大宮】	[300] インド仏教史B (2)【大宮】 [300] 西域仏教史B (2)【大宮】 [300] 日本仏教史B (2)【大宮】 [300] 中国仏教史B (2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 仏教史学講読F1 (2)【深草】 《2年次のみ》 [300] 仏教史学講読G1 (2)【深草】 《2年次のみ》 [300] 仏教史学講読H1 (2)【大宮】 《2年次のみ》	[300] 仏教史学講読F2 (2)【深草】 《2年次のみ》 [300] 仏教史学講読G2 (2)【深草】 《2年次のみ》 [300] 仏教史学講読H2 (2)【大宮】 《2年次のみ》
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[200] 仏教史学基礎演習ⅠA(2)【深草】	[200] 仏教史学基礎演習ⅠB(2)【深草】	[300] 仏教史学基礎演習ⅡA(2)【深草】	[300] 仏教史学基礎演習ⅡB(2)【深草】
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
演習Ⅱ 卒業論文					

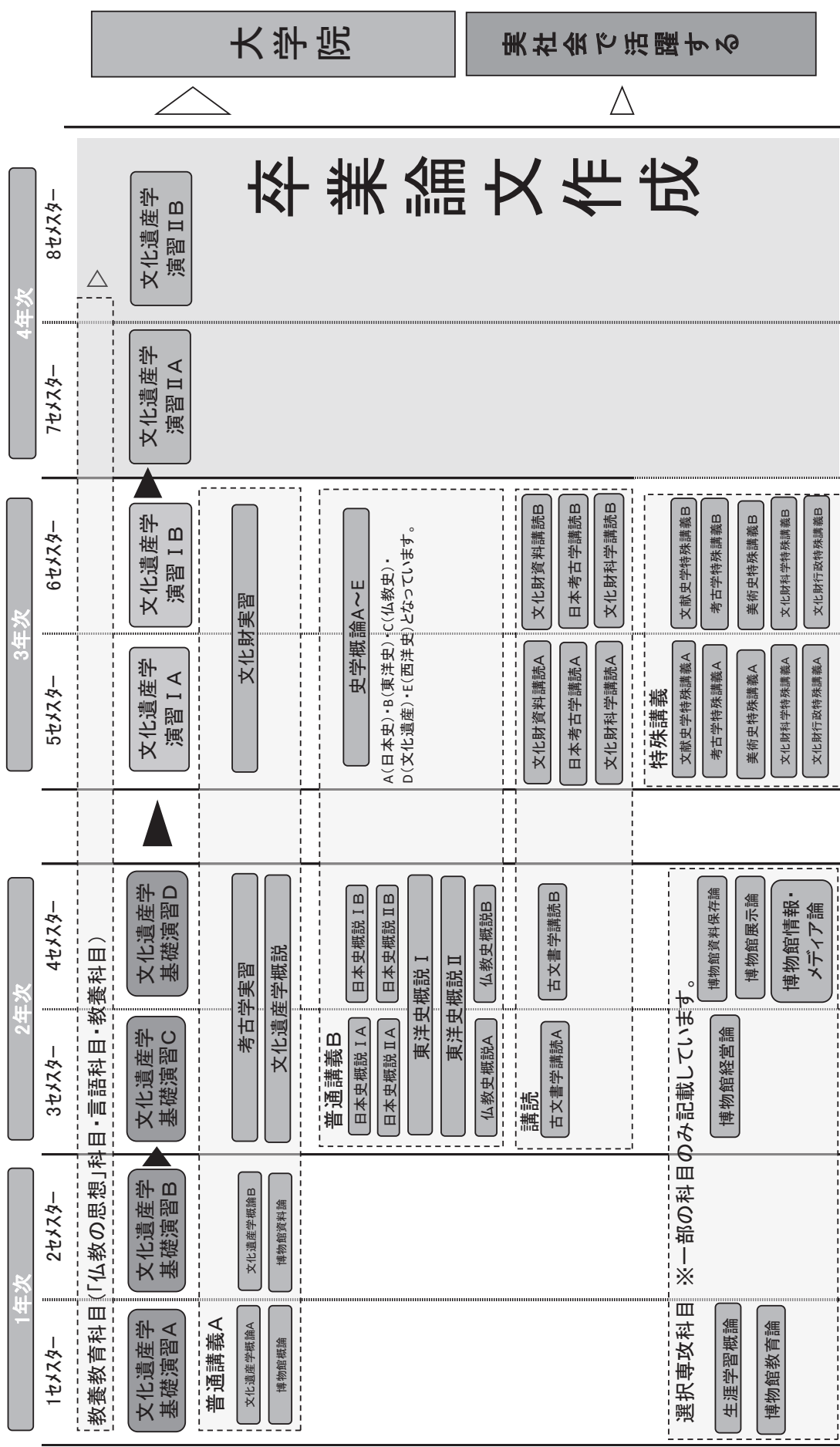
教育課程
学部専攻科目

《履修上の注意点》

- 「普通講義A」「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A1」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文（4単位）は、仏教史学演習ⅡA・ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
[400] 史学概論A(2)【大宮】	[400] 史学概論B(2)【大宮】			8単位選択必修
[400] 史学概論C(2)【大宮】	[400] 史学概論D(2)【大宮】			
[400] 史学概論E(2)【大宮】				
[400] 真宗史A (2)【大宮】	[300] 真宗史B (2)【大宮】			4単位選択必修
[400] 仏教史学特殊講義A1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義A2 (2)【大宮】			4単位選択必修
[400] 仏教史学特殊講義B1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義B2 (2)【大宮】			
[600] 仏教史学特殊講義C1 (2)【大宮】	[600] 仏教史学特殊講義C2 (2)【大宮】			
[400] 仏教史学特殊講義D1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義D2 (2)【大宮】			
[600] 仏教史学特殊講義E1 (2)【大宮】	[600] 仏教史学特殊講義E1 (2)【大宮】			
[400] 仏教史学特殊講義F1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義F2 (2)【大宮】			
[400] 仏教史学特殊講義G1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義G2 (2)【大宮】			
[400] 仏教史学特殊講義H1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義H2 (2)【大宮】			
[400] 仏教史学特殊講義I1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義I2 (2)【大宮】			
[600] 仏教史学講読A1 (2)【大宮】	[600] 仏教史学講読A2 (2)【大宮】			
[600] 仏教史学講読B1 (2)【大宮】	[600] 仏教史学講読B2 (2)【大宮】			年次指定《2年次のみ》4単位及び《3年次以上》履修可能な講読4単位の合計8単位必修。 年次指定が《2年次のみ》の「講読」を修得できなかった場合は、年次指定《3年次以上》の科目で修得しなければなりません。
[400] 仏教史学講読C1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学講読C2 (2)【大宮】			
[400] 仏教史学講読D1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学講読D2 (2)【大宮】			
[400] 仏教史学講読E1 (2)【大宮】	[400] 仏教史学講読E2 (2)【大宮】			
				4科目8単位必修
[400] 仏教史学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 仏教史学演習ⅠB (2)【大宮】			2科目4単位必修
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		3科目8単位必修
		[500] 仏教史学演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 仏教史学演習ⅡB (2)【大宮】	

【歴史学科文化遺産学専攻カリキュラムマップ】現代まで引き継がれてきた歴史遺産を分析し、将来に残し活用する技術と方法を実践的に習得します。



大学院

実社会で活躍する

卒業論文作成

※一部の科目のみ記載しています。

- 生涯学習概論
- 博物館教育論

- 博物館経営論
- 博物館資料保存論
- 博物館展示論
- 博物館情報・メディア論

- 文化財資料講読A
- 日本考古学講読A
- 文化財科学講読A
- 文化財資料講読B
- 日本考古学講読B
- 文化財科学講読B

特殊講義

- 文献史学特殊講義A
- 考古学特殊講義A
- 美術史特殊講義A
- 文化財科学特殊講義A
- 文化財行政特殊講義A
- 文献史学特殊講義B
- 考古学特殊講義B
- 美術史特殊講義B
- 文化財科学特殊講義B
- 文化財行政特殊講義B

■歴史学科文化遺産学専攻 専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼歴史学科文化遺産学専攻の教育理念・目的

文化遺産の歴史的意義を考え、将来へと守り伝えるための方法と技法を習得し、地域の文化的媒体として活用できる人材を育成する。あわせて、文化財の調査・研究、その保存と活用を行うための専門教育を通して、仏教美術・寺院建築・仏教儀礼等に向き合い、「建学の精神」を体現した自主的判断能力を持つ感受性の豊かな専門家を育成する。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。	[100] 文化遺産学概論A (2)【深草】	[200] 文化遺産学概論B (2)【深草】	[300] 考古学実習 (2)【大宮】	
		[100] 博物館概論 (2)【深草】	[200] 博物館資料論 (2)【深草】	[300] 文化遺産学概説 (4)【深草】	
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 日本史概説 I A(2)【大宮】	[300] 日本史概説 I B(2)【大宮】
				[300] 日本史概説 II A(2)【大宮】	[300] 日本史概説 II B(2)【大宮】
				[300] 東洋史概説 I (4)【大宮】	
				[300] 東洋史概説 II (4)【大宮】	
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 古文書学講読A(2)【深草】	[300] 古文書学講読B(2)【深草】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[200] 文化遺産学基礎演習A(2)【深草】	[200] 文化遺産学基礎演習B(2)【深草】	[300] 文化遺産学基礎演習C(2)【深草】	[300] 文化遺産学基礎演習D(2)【深草】
演習 I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習 I」(3年次)および「演習 II」(4年次)を開講する。				
演習 II					
卒業論文					

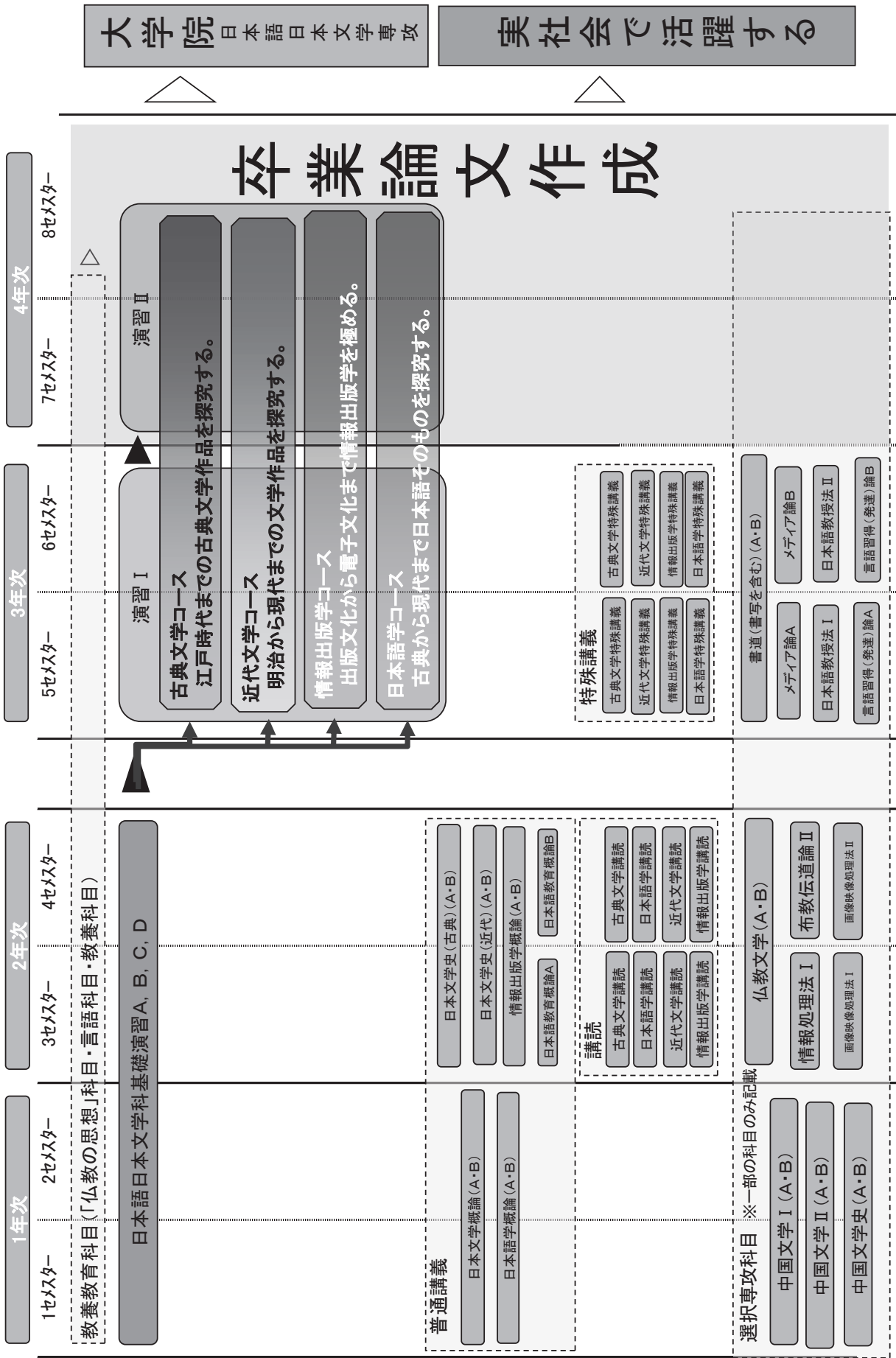
教育課程
学部専攻科目

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。

3年次		4年次		履修規定
第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
[400] 文化財実習 (2)【大宮】				7科目16単位必修
[400] 史学概論A(2)【大宮】	[400] 史学概論B(2)【大宮】			8単位選択必修
[400] 史学概論C(2)【大宮】	[400] 史学概論D(2)【大宮】			
[400] 史学概論E(2)【大宮】				
[400] 文献史学特殊講義A(2)【大宮】	[600] 文献史学特殊講義B(2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 考古学特殊講義A(2)【大宮】	[400] 考古学特殊講義B(2)【大宮】			
[400] 美術史特殊講義A(2)【大宮】	[400] 美術史特殊講義B(2)【大宮】			
[400] 文化財科学特殊講義A(2)【大宮】	[400] 文化財科学特殊講義B(2)【大宮】			
[400] 文化財行政特殊講義A(2)【大宮】	[400] 文化財行政特殊講義B(2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 文化財資料講読A【大宮】	[400] 文化財資料講読B【大宮】			
[400] 日本考古学講読A(2)【大宮】	[400] 日本考古学講読B(2)【大宮】			
[400] 文化財科学講読A(2)【大宮】	[400] 文化財科学講読B(2)【大宮】			4科目8単位必修
[400] 文化遺産学演習 I A(2)【大宮】	[400] 文化遺産学演習 I B(2)【大宮】			2科目4単位必修
		[500] 文化遺産学演習 II A(2)【大宮】	[500] 文化遺産学演習 II B(2)【大宮】	2科目4単位必修
		[500] 卒業論文(4)【大宮】		1科目4単位必修

【日本語日本文学科カリキュラムマップ】豊富な古典籍に囲まれて日本語・日本文学の真髄にふれる喜び。情報出版学コースも設置し、「ことばのプロ」を育成しています



■日本語日本文学科 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼日本語日本文学科の教育理念・目的

日本語の正しい理解力、日本の言語文化に関する専門的読解力、論理的思考力、および表現力を修得し、「ことば」によって成り立つ社会の持続的発展に主体的に貢献できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
普通講義	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。	[100] 日本文学概論A (2)【両学舎】	[200] 日本文学概論B (2)【両学舎】	[300] 日本文学史(古典)A (2)【大宮】	[300] 日本文学史(古典)B (2)【大宮】
		[100] 日本語学概論A (2)【両学舎】	[200] 日本語学概論B (2)【両学舎】	[300] 日本文学史(近代)A (2)【大宮】	[300] 日本文学史(近代)B (2)【大宮】
				[300] 情報出版学概論A (2)【大宮】	[300] 情報出版学概論B (2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。			[300] 情報出版学概論A (2)【大宮】	[300] 情報出版学概論B (2)【大宮】
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 古典文学講読(A)A (2)【深草】	[300] 古典文学講読(A)B (2)【深草】
				[300] 古典文学講読(B)A (2)【大宮】	[300] 古典文学講読(B)B (2)【大宮】
				[300] 古典文学講読(C)A (2)【大宮】	[300] 古典文学講読(C)B (2)【大宮】
				[300] 古典文学講読(D)A (2)【大宮】	[300] 古典文学講読(D)B (2)【大宮】
				[300] 近代文学講読(A)A (2)【大宮】	[300] 近代文学講読(A)B (2)【大宮】
				[300] 近代文学講読(B)A (2)【大宮】	[300] 近代文学講読(B)B (2)【大宮】
				[300] 近代文学講読(C)A (2)【深草】	[300] 近代文学講読(C)B (2)【深草】
				[300] 情報出版学講読(A)A (2)【大宮】	[300] 情報出版学講読(A)B (2)【大宮】
				[300] 情報出版学講読(B)A (2)【深草】	[300] 情報出版学講読(B)B (2)【深草】
				[300] 情報出版学講読(C)A (2)【大宮】	[300] 情報出版学講読(C)B (2)【大宮】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。			[300] 日本語日本文学基礎演習C (2)【深草】	[300] 日本語日本文学基礎演習D (2)【深草】
		[200] 日本語日本文学基礎演習A (2)【深草】	[200] 日本語日本文学基礎演習B (2)【深草】		
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
演習Ⅱ 卒業論文					

A～Dはクラスにより履修する順序が異なる。

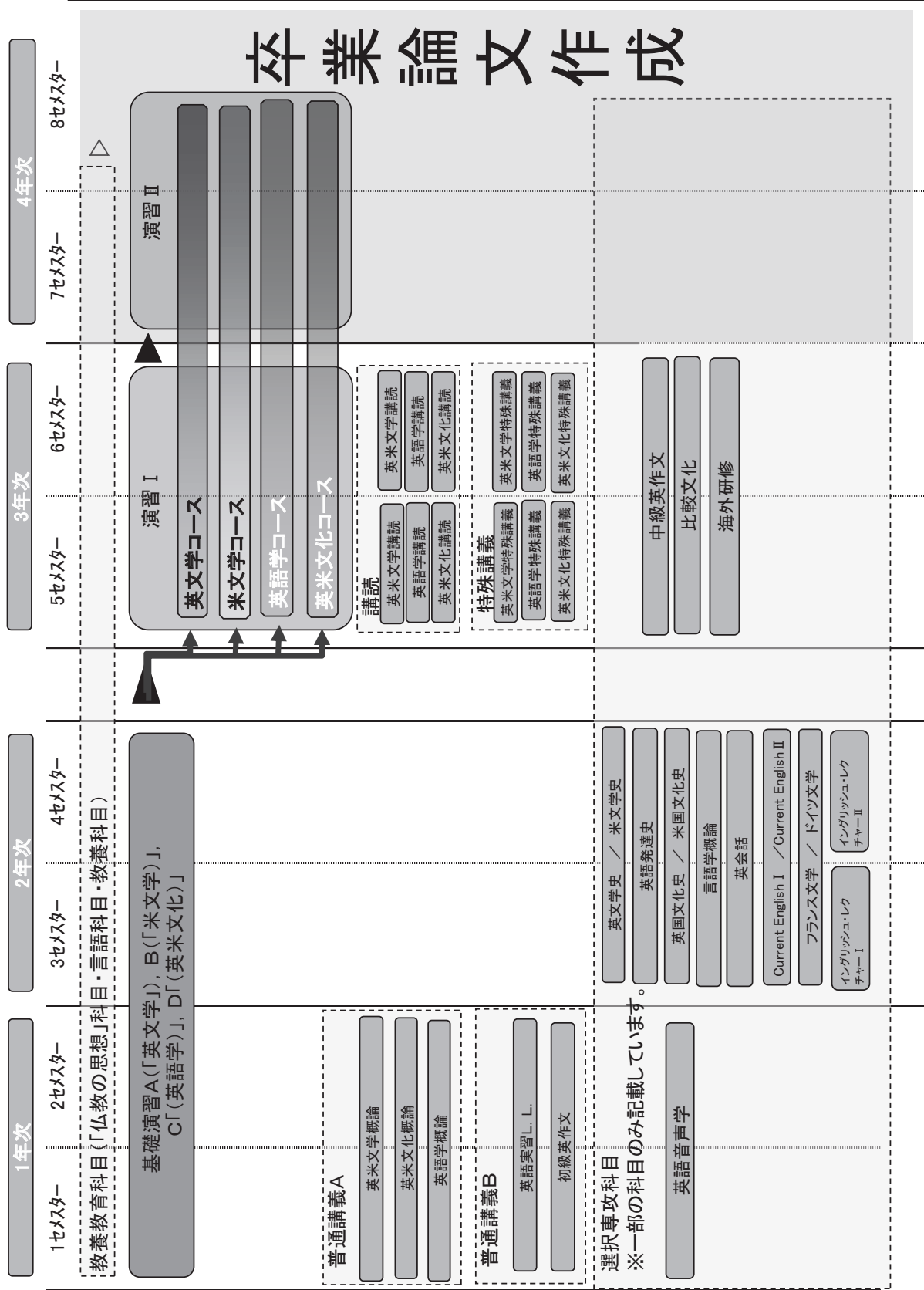
《履修上の注意点》

- 「普通講義」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 日本語日本文学基礎演習A～Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。
- 卒業論文（4単位）は、演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
				12単位選択必修
[600] 古典文学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(A)B (2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[600] 古典文学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[400] 古典文学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[400] 古典文学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 古典文学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[600] 古典文学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(E)B (2)【大宮】			
[600] 古典文学特殊講義(F)A (2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(F)B (2)【大宮】			
[400] 近代文学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[400] 近代文学特殊講義(A)B (2)【大宮】			
[400] 近代文学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[400] 近代文学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[400] 近代文学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[400] 近代文学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 情報出版学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[400] 情報出版学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[600] 情報出版学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600] 情報出版学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 情報出版学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[400] 情報出版学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[400] 日本語学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[400] 日本語学特殊講義(A)B (2)【大宮】			
[400] 日本語学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[400] 日本語学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[600] 日本語学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600] 日本語学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 日本語学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[400] 日本語学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
				8単位選択必修
				4科目8単位必修
[400] 古典文学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 古典文学演習ⅠB (2)【大宮】			
[400] 近代文学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 近代文学演習ⅠB (2)【大宮】			
[400] 情報出版学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 情報出版学演習ⅠB (2)【大宮】			
[400] 日本語学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 日本語学演習ⅠB (2)【大宮】			4単位必修 同一分野(古典文学、近代文学、情報出版学、日本語学)でⅠA・ⅠBを履修すること。
				卒業論文4単位及び、演習ⅡA・ⅡB(同一分野(古典文学、近代文学、情報出版学、日本語学))の4単位、合計8単位必修。
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		
		[500] 古典文学演習Ⅱ (4)【大宮】		
		[500] 近代文学演習Ⅱ (4)【大宮】		
		[500] 情報出版学演習Ⅱ (4)【大宮】		
		[500] 日本語学演習Ⅱ (4)【大宮】		

教育課程
学部専攻科目

【英語英文学科カリキュラムマップ】ネイティブ・スピーカーの教員が英語で展開する多彩な授業が好評。学問と実践的な英語を同時に学ぶことができる、魅力的な学科です。



大学院 英語英米文学専攻

実社会で活躍する

卒業論文作成

■英語英米文学科 必修専攻科目 科目区分別 開講科目一覧

▼英語英米文学科の教育理念・目的

英国・米国をはじめとする英語圏に関する言語・文学・文化についての知識を修得し、広い視野に立って英語圏地域を深く洞察する能力を身に付け、国際化する現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

○特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。

○課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。	[200] 英米文学概論 (4)【両学舎】			
普通講義B		[200] 英米文化概論 (4)【両学舎】			
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。	[200] 英語学概論 (4)【両学舎】			
		[200] 英語実習L.L (2)【深草】			
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。	[200] 初級英文文 (2)【深草】			
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的な学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	A～Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。 <small>[200] 英語英米文学基礎演習A(「英文学」)(2)【深草】 [200] 英語英米文学基礎演習B(「米文学」)(2)【深草】 [200] 英語英米文学基礎演習C(「英語学」)(2)【深草】 [200] 英語英米文学基礎演習D(「米文化」)(2)【深草】</small>			
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
演習Ⅱ 卒業論文					

教育課程
学部専攻科目

《履修上の注意点》

- 「普通講義A」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は選択専攻科目となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文（4単位）は、演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

3年次		4年次		履修規定
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
				2科目8単位選択必修
				2科目4単位必修
[400] 英米文学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[400] 英米文学特殊講義(A)B (2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[600] 英米文学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 英米文学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[400] 英米文学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[400] 英米文学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 英米文学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[400] 英米文学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[400] 英米文学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[400] 英米文学特殊講義(E)B (2)【大宮】			
[400] 英語学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[400] 英語学特殊講義(A)B (2)【大宮】			
[400] 英米文化特殊講義(A)A (2)【大宮】	[400] 英米文化特殊講義(A)B (2)【大宮】			
[400] 英米文化特殊講義(B)A (2)【大宮】	[400] 英米文化特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[400] 英米文学講読(A)A (2)【大宮】	[400] 英米文学講読(A)B (2)【大宮】			4科目8単位選択必修
[400] 英米文学講読(B)A (2)【大宮】	[400] 英米文学講読(B)B (2)【大宮】			
[400] 英米文学講読(C)A (2)【大宮】	[400] 英米文学講読(C)B (2)【大宮】			
[400] 英米文学講読(D)A (2)【大宮】	[400] 英米文学講読(D)B (2)【大宮】			
[400] 英米文学講読(E)A (2)【大宮】	[400] 英米文学講読(E)B (2)【大宮】			
[400] 英語学講読(A)A (2)【大宮】	[400] 英語学講読(A)B (2)【大宮】			
[400] 英語学講読(B)A (2)【大宮】	[400] 英語学講読(B)B (2)【大宮】			
[400] 英米文化講読(A)A (2)【大宮】	[400] 英米文化講読(A)B (2)【大宮】			
[400] 英米文化講読(B)A (2)【大宮】	[400] 英米文化講読(B)B (2)【大宮】			4科目8単位必修
[400] 米文学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 米文学演習ⅠB (2)【大宮】			4単位必修 2単位科目の場合、同一分野(米文学、英文学、英語学、英米文化)でⅠA・ⅠBを履修すること。
[400] 英文学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 英文学演習ⅠB (2)【大宮】			
[400] 英語学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 英語学演習ⅠB (2)【大宮】			
[400] 英米文学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 英米文学演習ⅠB (2)【大宮】			
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		卒業論文4単位及び演習Ⅱの合計8単位必修。
		[500] 米文学演習Ⅱ (4)【大宮】		
		[500] 英文学演習Ⅱ (4)【大宮】		
		[500] 英語学演習Ⅱ (4)【大宮】		
		[500] 英米文化演習Ⅱ (4)【大宮】		

教育課程
学部専攻科目

■選択専攻科目 開講科目一覧

■履修方法

- 以下の表から自由に選択し、24単位以上（哲学科哲学専攻は20単位以上、臨床心理学科は22単位以上、歴史学科文化遺産学専攻は16単位以上）を修得しなければなりません。24単位を超えて修得した単位は、「フリーゾーン」の単位として卒業要件単位に含めることができます。
- 各学科・専攻ごとに定められた必修専攻科目の規定の単位を満し、それを超えて修得した必修専攻科目については、選択専攻科目として扱われます（下表の備考欄に詳細は記載しています）。
- 臨床心理学科開講科目以外の「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。

	1年次		2年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
眞宗学科関係科目	眞宗学科必修専攻科目：普通講義A、普通講義B、			
	[200] 眞宗学概論B1 (2)【深草】	[200] 眞宗学概論B2 (2)【深草】		
	[200] 眞宗教団史 (4)【深草】			
仏教学科関係科目	仏教学科必修専攻科目：普通講義A、普通講義B、特殊講義、			
	[100] 仏教美術(イコノロジー)入門A (2)【深草】	[200] 仏教美術(イコノロジー)入門A (2)【深草】	[300] サンスクリット語B1 (1)【大宮】	[300] サンスクリット語B2 (1)【大宮】
	[100] アジアの仏教と文化 (2)【深草】	[200] 日本の仏教と文化 (2)【深草】	[300] チベット語B1 (1)【大宮】	[300] チベット語B2 (1)【大宮】
	[100] サンスクリット語A1 (1)【深草】	[200] サンスクリット語A2 (1)【深草】	[300] パーリ語A (1)【大宮】	[300] パーリ語B (1)【大宮】
	[100] チベット語A1 (1)【深草】	[200] チベット語A2 (1)【深草】	[300] 仏教漢文の世界A (2)【深草】	[300] 仏教漢文の世界B (2)【深草】
			[300] 古都の仏教 (2)【深草】	[300] 仏教と人生の課題 (2)【深草】
			[300] 世界の仏教 (2)【深草】	
			[300] 仏教学概論B1 (2)【深草】	[300] 仏教学概論B2 (2)【深草】
哲学科哲学専攻関係科目	哲学科哲学専攻必修専攻科目：普通講義A、普通講義B、特殊講義、			
	[200] 宗教と倫理(2)【キャンパスプラザ京都】	[200] 宗教と平和(2)【キャンパスプラザ京都】	[300] 社会哲学 (2)【深草】	[300] 科学哲学 (2)【深草】
			[300] 宗教学概説A (2)【大宮】	[300] 宗教学概説B (2)【大宮】
			[300] 宗教社会学A (2)【深草】	[300] 宗教社会学B (2)【深草】
			[300] 宗教心理学A (2)【深草】	[300] 宗教心理学B (2)【深草】
			[300] 宗教史A (2)【大宮】	[300] 宗教史B (2)【大宮】
			[300] 現代倫理学 (2)【大宮】	
哲学科教育学専攻関係科目	哲学科教育学専攻必修専攻科目：普通講義A、普通講義B、			
臨床心理学科関係科目	臨床心理学科専攻必修専攻科目：普通講義A、普通講義B、			
	[100] 生理心理学A(2)【深草】	[200] 生理心理学B(2)【深草】	[300] 社会教育概論 (4)【深草】	
		[200] 医療心理学概論 (2)【深草】	[300] 生涯学習概論 (4)【大宮】	
		[200] コミュニティ心理学 (2)【深草】	[300] 矯正教育論I (2)【深草】	[300] 矯正教育論II (2)【深草】
	[200] 現代社会論 (4)【深草】		[300] 仏教カウンセリング (2)【深草】	[300] 特別支援教育方法論 (2)【深草】
				[300] 児童心理学 (2)【深草】

教育課程
学部専攻科目

▼選択専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針《抜粋》

○学生の多様な興味・関心を喚起し、学修意欲を促進するために、どの科目を履修するかはすべて学生の選択に任せられている「選択科目」を開講する。

3年次		備考
第5セメスター	第6セメスター	
特殊講義、講読の科目		真宗学科以外の学生
[400] 布教伝道論Ⅰ(2)【大宮】	[400] 布教伝道論Ⅱ(2)【大宮】	
[400] 文書伝道論Ⅰ(2)【大宮】	[400] 文書伝道論Ⅱ(2)【大宮】	
講読(仏教漢文入門A・Bを除く)の科目		仏教学科以外の学生
[400] 仏教と異思想A(2)【大宮】	[400] 仏教と異思想B(2)【大宮】	■語学科目の先修制について サンスクリット語A2、B2、チベット語A2、B2、パーリ語Bの受講にあたっては、それぞれA1、B1、Aの科目の単位を修得していなければ履修することができません。
[400] インドの仏教と文化A(2)【大宮】	[400] インドの仏教と文化B(2)【大宮】	
[400] 仏典情報研究論A(2)【大宮】	[400] 仏典情報研究論B(2)【大宮】	■古都の仏教、世界の仏教は隔年開講。
[400] 現代アジアの仏教と社会A(2)【大宮】	[400] 現代アジアの仏教と社会B(2)【大宮】	
	[400] 仏教と日本の文化A(4)【大宮】	
	[400] 仏教と日本の文化B(2)【大宮】	
[400] 仏教と日本の文化C(2)【大宮】	[400] 仏教と日本の文化D(2)【大宮】	
講読(3年次以上受講可能な科目のみ)の科目		哲学科哲学専攻以外の学生
[400] 美学概説(2)【大宮】	[400] 東洋哲学概説(2)【大宮】	
[400] 聖書研究A(2)【大宮】	[400] 聖書研究B(2)【大宮】	
特殊講義、講読の科目		哲学科哲学専攻以外の学生
特殊講義、講読の科目		臨床心理学科以外の学生
[600] 教育行政学A(2)【大宮】	[600] 教育行政学B(2)【大宮】	■心理学実験A、Bは哲学科教育学専攻の学生のみ受講可能。 ■心理調査・統計法Bの受講にあたっては、心理調査・統計法Aの単位を修得していなければ履修することができません。
[400] パーソナリティ心理学A(2)【大宮】	[400] パーソナリティ心理学B(2)【大宮】	
	[400] 比較教育学(4)【大宮】	
	[400] 社会教育計画(4)【大宮】	
	[400] 社会教育特講Ⅰ(4)【大宮】	
	[400] 社会教育特講Ⅱ(4)【大宮】	
	[400] 社会教育特講Ⅲ(4)【大宮】	
	[400] 教育心理学研究法(4)【大宮】	
	[400] 心理学研究法(4)【大宮】	
[400] 学習心理学(2)【大宮】	[400] 発達心理学(2)【大宮】	
	[400] 人権教育論(2)【大宮】	
[400] 社会心理学A(2)【大宮】	[400] 社会心理学B(2)【大宮】	
[400] 認知心理学A(2)【大宮】	[400] 認知心理学B(2)【大宮】	
[400] 心理学実験A(1)【大宮】	[400] 心理学実験B(1)【大宮】	
[400] ビハーラカウンセリング(2)【大宮】	[400] 家族心理学(2)【大宮】	
	[400] 学校カウンセリング(実習)(1)【大宮】	
[400] 心理学(実験実習)Ⅰ(1)【大宮】	[400] 心理学(実験実習)Ⅱ(1)【大宮】	
	[400] 臨床心理学(実習)(2)【大宮】	
[400] 臨床心理査定(実習)(1)【大宮】	[400] 対人援助学(実習)(1)【大宮】	
[400] 対人行動学(実習)(1)【大宮】	[400] 心理調査・統計法B(2)【大宮】	

教育課程
学部専攻科目

歴史学科関係科目	歴史学科日本史学専攻必修専攻科目:普通講義、			
	歴史学科東洋史学専攻必修専攻科目:普通講義A、普通講義B、特殊講義、			
	歴史学科仏教史学専攻必修専攻科目:普通講義A、普通講義B、特殊講義、			
	歴史学科文化遺産学専攻必修専攻科目:普通講義A、			
	[200] 考古学(日本) (4)【深草】	[300] 美術史(日本) (4)【大宮】		
	[200] 考古学(アジア) (4)【深草】	[300] 美術史(アジア) (4)【大宮】		
	[200] 考古学(仏教) (4)【深草】	[300] 美術史(仏教) (4)【大宮】		
		[300] 日本文化史Ⅰ (2)【深草】	[300] 日本文化史Ⅱ (2)【深草】	
		[300] 中国文化史Ⅰ (2)【深草】	[300] 中国文化史Ⅱ (2)【深草】	
	[200] 古文書学入門 (4)【深草】	[300] 文化人類学概論 (4)【大宮】		
日本語日本文学科関係科目	日本語日本文学科専攻必修専攻科目:普通講義、			
	[100] 中国文学ⅠA (2)【深草】	[200] 中国文学ⅠB (2)【深草】	[300] 仏教文学A (2)【大宮】	[300] 仏教文学B (2)【大宮】
	[100] 中国文学ⅡA (2)【大宮】	[200] 中国文学ⅡB (2)【大宮】	[300] 情報処理法Ⅰ (2)【両学舎】	[300] 情報処理法Ⅱ (2)【両学舎】
	[100] 中国文学史A (2)【大宮】	[200] 中国文学史B (2)【大宮】	[300] 画像映像処理法Ⅰ (2)【大宮】	[300] 画像映像処理法Ⅱ (2)【大宮】
英語英米文学科関係科目	英語英米文学科専攻必修専攻科目:普通講義A、			
	[200] 英語音声学 (4)【深草】	[300] 英文学史 (4)【大宮】		
		[300] 米文学史 (4)【大宮】		
		[300] 英語発達史 (4)【大宮】		
		[300] 英国文化史 (4)【大宮】		
		[300] 米国文化史 (4)【大宮】		
		[300] 言語学概論 (4)【大宮】		
		[300] 英会話 (2)【両学舎】		
		[300] Current EnglishⅠ (2)【深草】		
		[300] Current EnglishⅡ (2)【大宮】		
		[300] フランス文学 (4)【深草】		
		[300] ドイツ文学 (4)【深草】		
		[300] イングリッシュ・レクチャー(日本の文化と宗教)Ⅰ (2)【大宮】	[300] イングリッシュ・レクチャー(日本の文化と宗教)Ⅱ (2)【大宮】	
		[300] イングリッシュ・レクチャー(仏教思想)Ⅰ (2)【大宮】	[300] イングリッシュ・レクチャー(仏教思想)Ⅱ (2)【大宮】	
		[300] イングリッシュ・レクチャー(英米のホビュラー・カルチャー)Ⅰ (2)【深草】	[300] イングリッシュ・レクチャー(英米のホビュラー・カルチャー)Ⅱ (2)【深草】	
	[300] イングリッシュ・レクチャー(英米の風土と習慣)Ⅰ (2)【深草】	[300] イングリッシュ・レクチャー(英米の風土と習慣)Ⅱ (2)【深草】		
教職課程関係科目	[100]教育情報処理演習 (2)【両学舎】	[100]教育情報処理演習 (2)【両学舎】	[300] 日本史A (2)【大宮】	[300] 日本史B (2)【大宮】
	前期・後期の両方に開講されます。		[300] 東洋史A (2)【大宮】	[300] 東洋史B (2)【大宮】
			[300] 西洋史 (4)【大宮】	
			[300] 人文地理学 (4)【大宮】	
			[300] 歴史地理学 (4)【大宮】	
			[300] 社会学概説(4)【大宮】	[300] 社会事業概説 (4)【大宮】
博物館学芸員課程関係科目	[100](博)生涯学習概論 (2)【深草】	[200]博物館資料論 (2)【深草】	[300] 博物館経営論 (2)【大宮】	[300]博物館資料保存論 (2)【大宮】
	[100]博物館概論 (2)【深草】			[300] 博物館展示論 (2)【大宮】
	[100] 博物館教育論 (2)【深草】			[300] 博物館情報・メディア論 (2)【瀬田】
矯正・保護課程関係科目 (特別研修講座「矯正・保護課程」提供科目)		[200]矯正・保護入門 (2)【深草】	[300]矯正概論 (4)【深草】	
			[300]更生保護概論 (4)【深草】	
			[300]矯正教育学 (4)【深草】	
留学関係科目(BIE Program関係科目は除く。(BIE Program関係科目については104・105ページ参照))	国際文化交流研修 (2)～(8)【詳細は105・106ページ参照】			
文学部共通科目	[100]文学部共通セミナー(スタートアップコース)(2)【深草】			
ボランティア関係科目	社会活動ボランティア (2)(4)【詳細は100・101ページ参照】			
キャリア開発科目	キャリア形成論(2)【深草】(1・2年次のみ) キャリア形成論(2)【深草】(1・2年次のみ) 前期・後期の両方に開講されます。			

※他学部開講科目についても受講できる場合があります。その場合、掲示・ポータルサイトでお知らせします。

特殊講義、講読の科目	歴史学科日本史学専攻以外の学生
講読(3年次以上受講可能な科目のみ)の科目	歴史学科東洋史学専攻以外の学生
講読(3年次以上受講可能な科目のみ)の科目	歴史学科仏教史学専攻以外の学生
普通講義B、特殊講義、講読の科目	歴史学科文化遺産学専攻以外の学生
[400] 民俗学(日本) (4)【大宮】	■「古文書学入門」は、歴史学科日本史学専攻の学生のみ受講可。
[400] 民俗学(アジア) (4)【大宮】	
[400] 民俗学(仏教) (4)【大宮】	
[400] 史料学(日本) (4)【大宮】	
[400] 史料学(アジア) (4)【大宮】	
[400] 史料学(仏教) (4)【大宮】	
[400] 古文書学 (4)【大宮】	
[400] 社会事業史 (4)【大宮】	
特殊講義、講読の科目	日本語日本文学科以外の学生
[400] 書道(書写を含む)A (2)【大宮】	中国文学ⅠA・ⅠBと中国文学ⅡA・ⅡBは隔年開講
[400] 言語習得(発達)論A (2)【大宮】	
[400] メディア論A (2)【大宮】	
[400] 日本語教授法Ⅰ (2)【大宮】	
[400] 書道(書写を含む)B (2)【大宮】	
[400] 言語習得(発達)論B (2)【大宮】	
[400] メディア論B (2)【大宮】	
[400] 日本語教授法Ⅱ (2)【大宮】	
特殊講義、講読の科目	英語英米文学科以外の学生
[400] 中級英作文 (2)【大宮】	
[400] 比較文化 (2)【大宮】	
[400] 経済原論 (4)【大宮】	
[400] 法学概論 (4)【大宮】	
[400] 政治学原理 (4)【大宮】	
[400] 地理学(地誌) (4)【大宮】	
[400] 自然地理学 (4)【両学舎】	
[400] 被害者学(4)【深草】	この一覧に記載される科目を履修登録(本登録)し、履修すれば、卒業要件単位として認定されます。
[400] 矯正社会学(4)【深草】	
[400] 矯正心理学(4)【深草】	
[400] 青少年問題 (2)【深草】	
	[400] 矯正医学 (2)【深草】
[400] 海外研修(4) 【詳細は108・109ページ参照】	
	[400] 文学部共通セミナー(アドバンスコース) (2)【大宮】
[400] キャリア開発論(2)【大宮】《3年次のみ》	

教育課程
学部専攻科目

社会活動ボランティア

(1) 科目の趣旨

この科目は、通常の開設科目とは異なり、学生が自主的に行う国内でのボランティア活動に対して単位を認定するものです。大学がお膳立てした実習科目ではなく、学生の個性と自主性にもとづいたボランティア活動を評価し、単位を認定します。ボランティア活動の目的・内容等を、学生自身で計画し、実行することができます。ただし、活動の事実が受入先によって証明されうるボランティアに限ります。履修登録を希望する学生は、定められた手続きにしたがってください。

なお、国外でのボランティア活動については、「国際文化交流研修」の履修要領にしたがってください。

①対象学生 文学部1年次以上の正規学生

②科目名等 「社会活動ボランティア」

1～3年次生については選択専攻科目として卒業要件単位になります。

4年次生以上については随意科目となり、卒業要件単位とはなりません。

③認定単位 2～4単位（履修制限単位には含まれません）

※次の基準で単位数は定められています。

2単位：3週間程度のボランティア活動期間で、4,000字程度の「社会活動ボランティア」報告書を提出した場合

4単位：5週間程度のボランティア活動期間で、8,000字程度の「社会活動ボランティア」報告書を提出した場合

4単位又は2単位：4ヶ月以上にわたって週末及び課外時間等に定期的に行うボランティア活動で、8,000字程度の「社会活動ボランティア」報告書を提出した場合

※4単位以内であれば、単位を分割して複数回同科目を履修登録することができます。ただし、在学中修得できるのは4単位が上限です。

④履修登録上の条件

(ア) 収益を目的とした活動でないこと。

(イ) 社会通念上、ボランティア活動として不適當でないこと。

(ウ) 国内での活動であること。

(2) 履修申込手続き

①ボランティアの受入先と個別に交渉し、受入許可を得てください。その際、ボランティア活動によって、この科目の単位修得をすることについての了承も得ておいてください。

②所定の「社会活動ボランティア計画書」を別途、掲示及びポータルサイトにてお知らせする期日までに文学部教務課窓口へ提出してください（期限に遅れたものは、いかなる理由があっても受け付けません）。この計画書の内容にもとづいて、履修登録の許可が判定されます。5月中旬に許可判定結果を発表しますので、許可された者だけが正式な履修登録者となります。

③履修登録許可発表内容

(ア) 履修登録の可否 (50名程度の許可を予定)

(イ) 単位数

(ウ) 指導教員

④履修登録を許可された者は、受入先に本学からの受入依頼状を渡し、所定の「ボランティア受入許可書」に必要事項を記入し、認印をもらった上で、5月末までに文学部教務課窓口へ提出してください (提出がない場合は登録を取り消します)。

(3) 活動先・活動期間

①活動先は、上述の条件を満たしておれば、他に限定はありません。参考までに、ボランティア活動の分野をいくつか挙げると次のようなものがあります。

障がい者支援、高齢者福祉、社会教育・生涯学習支援、病院ボランティア、スポーツ・文化交流、人権・社会問題等市民活動、自然保護・環境保護、リサイクル運動等々

②活動期間は次の2通りに分かれます。

1) 日常の生活圏から離れた宿泊地において行う1週間以上にわたるボランティア活動については、特別な事情がある場合を除き、授業期間外及び定期試験期間外でなければなりません。必然的に、夏期休業中が主な活動期間になります。しかし、通常の授業科目履修の障害とならない活動期間の設定が他にある場合は、文学部教務課窓口へ相談してください。

2) 週末や課外等の時間を使って定期的に行うボランティア活動については、自由に期間を設定できます。

(4) ボランティア保険の加入

履修登録の許可された学生は、必ずボランティア保険に加入してから活動を始めてください。ボランティア保険は、数百円の保険料で加入することができます。京都府社会福祉協議会 (TEL: 075-252-6291) または全国社会福祉協議会 (TEL: 03-3581-7851) まで問い合わせてください。

(5) 単位認定・成績評価

①履修登録を許可された学生は、所定の「『社会活動ボランティア』活動証明書」とともに、ボランティア活動で得た成果を「社会活動ボランティア報告書」にまとめて、翌年度2月末までに文学部教務課窓口へ提出してください (期間厳守)。証明書には所定の用紙が、また報告書には所定の表紙があるので、提出前に文学部教務課窓口で受け取ってください。これらの二種類の書類の提出がなかった場合は単位認定は行いません。

②成績評価にあたっては、提出された「『社会活動ボランティア』活動証明書」「社会活動ボランティア報告書」の記載内容が正確なものであるかどうかについて、ボランティアの受入先に照会します。

③「社会活動ボランティア報告書」には指定の様式はありません。認定単位数に応じた字数となるように、自由に報告書を作成できます。

④履修登録許可書に発表された単位数は、提出された「社会活動ボランティア報告書」の内容に応じて変更されることがあります。

随意科目 開設科目一覧

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
■教職課程科目									
	教職コンピュータ基礎 (2)【深草】 前期・後期の両方に開講されます。	特別活動論 (2)【深草】 学校教育社会学 (2)【深草】 前期・後期の両方に開講されます。	学校教育社会学 (2)【深草】 前期・後期の両方に開講されます。	教育制度論 (2)【深草】 学校教育社会学 (2)【深草】	道徳教育指導法 (2)【大宮】 生徒指導論 (2)【大宮】 教育実習指導 I (1)【大宮】	教育の方法と技術 (2)【大宮】	教育実習指導ⅡA(中免用実習) (4)【大宮】 教育実習指導ⅡB(高免用実習) (2)【大宮】		教職実践演習 (2)【大宮】
		教職論 (2)【深草】 介護等体験 (2)【深草】	介護等体験 (2)【深草】	教育課程論 (2)【深草】	学校カレカ論 (2)【大宮】				
			体育実技 (1)【深草】 <small>(臨床心理学科/歴史学科文化通識学専攻のみ受講可)</small>						
■博物館学芸員課程科目									
								博物館実習 (3)【大宮】	
■社会教育主事課程科目									
						社会教育演習 (2)【大宮】			
						社会教育課題研究 (2)【大宮】			
■図書館司書課程科目(2012年度以降入学生対象科目)									
	(同)図書館学概論 (2)【深草】	(同)図書館サービス概論 (2)【深草】	(同)図書館情報技術論 (2)【深草】	(同)情報サービス実習B (1)【深草】	(同)図書館実習 (1)【深草】				
	(同)生涯学習概論 (2)【深草】	(同)図書館情報資源概論 (2)【深草】	(同)情報サービス論 (2)【深草】	(同)図書館制度・経営論 (2)【深草】	(同)図書館総合演習 (2)【深草】				
	(同)図書館情報学概論 (2)【深草】	(同)図書館情報資源概論 (2)【深草】	(同)児童サービス論 (2)【深草】	(同)情報資源組織実習A (1)【深草】					
	(同)図書・図書館史 (2)【深草】	(同)図書館基礎特論 (2)【深草】	(同)情報サービス実習A (1)【深草】	(同)情報資源組織実習B (1)【深草】					
	(同)図書館基礎特論 (2)【深草】	(同)情報資源概論 (2)【深草】	(同)情報資源組織論 (2)【深草】						
			(同)情報資源特論 (2)【深草】						
			(同)図書館サービス特論 (2)【深草】						
			(同)図書館施設論 (2)【深草】						
■学校図書館司書教諭課程科目									
		(学)学校経営と学校図書館 (2)【深草】	(学)学習指導と学校図書館 (2)【深草】						
		(学)学校図書館とメディアの構成 (2)【深草】	(学)読書と豊かな人間性 (2)【深草】						
			(学)情報メディアの活用 (2)【深草】						
■本願寺派教師資格課程科目									
		勤式 (4)【深草】							
		宗門法規 (2)【深草】							
	教化法 (4)【深草】	※深草・大宮ともに開講されるが科目の修得でよい							
■その他随意科目									
		現代俳句講座 (2)【深草】							
						日本語教育実習 (2)【大宮】			

随意

IV. その他の教育課程・教育プログラム

文学部の教育課程の他にも、みなさんが受講できる多様な教育課程・教育プログラムがあります。詳細は、ホームページ、配布冊子などで確認するとともに、各担当窓口にお問い合わせください。

■留学・単位互換制度・各種インターンシッププログラム

留学について	担当窓口・関係情報
<p>龍谷大学では、国際的な社会に貢献できる人材の育成を目的として、学生の海外派遣を積極的に推進するため、様々な留学制度を整備しています。</p> <p>経済、社会、文化、政治などあらゆる局面で国際的な相互依存関係が深まっている現在、海外の大学での学修、文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。</p>	<p>(担当窓口) グローバル教育推進センター 深草学舎和顔館1階 ※単位認定に関する相談は文学部教務課（1・2年次生は深草学舎6号館（紫英館）1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階）</p> <p>(関係情報) ・「留学ガイド」グローバル教育推進センターで配布 ・グローバル教育推進センターホームページ</p> <p>(URL) http://intl.ryukoku.ac.jp</p>
大学コンソーシアム京都「単位互換制度」	担当窓口・関係情報
<p>大学コンソーシアム京都では、京都地域の50以上の大学・短期大学が協定を締結し、各大学の科目を履修できる「単位互換授業」の制度を設置しています。</p> <p>一部の科目は、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」で開講されます。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課（1・2年次生は深草学舎6号館（紫英館）1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階） ※単位認定できる科目、出願資格・手続きなど、まずは、文学部教務課で確認してください。</p> <p>(履修に関する情報) 本学HP「履修要項」で確認してください。</p> <p>(URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・大学コンソーシアム京都 単位互換制度特設サイト</p> <p>(URL) http://www.consortium.or.jp/special/tani_gokan/index.html</p>
「放送大学科目」履修制度	担当窓口・関係情報
<p>放送大学とは、テレビ・ラジオ、またその記録媒体等を効果的に活用して、大学教育の機会を多くの人々に提供していく正規の大学で、放送大学学園法に基づき設立されています。</p> <p>本学と放送大学が単位互換に関する協定を締結したことにより、1997年度以降入学生は、本学部が指定した「放送大学科目」を受講することによって修得した単位を卒業要件単位として認定されます。この「放送大学科目」を受講する学生は、放送大学では「特別聴講学生」として扱われます。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課（1・2年次生は深草学舎6号館（紫英館）1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階） ※受講希望者は、「特別聴講学生出願票」を文学部教務課窓口に提出してください。 (提出期限は例年6月中旬です。)</p> <p>(履修に関する情報) 本学HP「履修要項」で確認してください。</p> <p>(URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・放送大学 (URL) http://www.ouj.ac.jp</p>

協定型インターンシッププログラム	担当窓口・関係情報
<p>本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして全学共通の協定型インターンシップを展開しています。このインターンシップは、建学の精神にもとづくきめ細かな事前・事後学習を展開する、本学独自の特色のあるインターンシッププログラムです。</p>	<p>(担当窓口) インターンシップ支援オフィス 深草学舎5号館1階</p> <p>(履修に関する情報) 本学HP「履修要項」で確認してください。 (URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・「インターンシッププログラム リーフレット」 (インターンシップ支援オフィス配布) ・インターンシップ支援オフィス (URL) http://career.ryukoku.ac.jp/internship/internship.html</p>
大学コンソーシアム京都 「インターンシップ・プログラム」	担当窓口・関係情報
<p>大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムは、就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラム（コーオペ教育）として、1998年度より全国に先駆けて開始しています。単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、社会人基礎力を育成するカリキュラムを持ったキャリア教育として、受講生からも高い満足度を得ています。</p>	<p>(担当窓口) インターンシップ支援オフィス 深草学舎5号館1階</p> <p>(履修に関する情報) 本学HP「履修要項」で確認してください。 (URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」 (文学部教務課、インターンシップ支援オフィス配布) ・大学コンソーシアム京都インターンシップサイト (URL) http://www.consortium.or.jp/project/intern</p>

■ 留学の単位認定について

1. ^{ピー・アイ・イー} BIE Program留学

(1) 5-week summer program、5-week spring program

① 上限認定単位：6単位

② 単位認定科目等

受講科目	単位数	認定科目名	認定分野
Integrated Skills	2	バークレー語学	教養
浄土真宗センターにおける開講科目	2	バークレー講義	教養
インターンシップ I	2	バークレーボランティア	※

※バークレーボランティアの単位認定については、受講生が専攻科目、教養教育科目のいずれかの分野への認定を選択することができます。専攻科目で単位認定された場合は【選択専攻科目】、教養教育科目で単位認定された場合は【教養選択科目】として扱われます。

(2) Fall semester program, Spring semester program

①上限認定単位：18単位

②単位認定科目等

受講科目	単位数	認定科目名	認定分野
①Integrated Skills	10	英語 I ※	教養
②Integrated Skills (もしくはBusiness English)		英語 II ※	教養
③Communication Skills		パークレー語学 ※	☆
浄土真宗センターにおける開講科目	4	パークレー講義	☆
インターンシップⅡ	4	パークレーボランティア	☆

※留学期間中に配当されるセメスター分の必修外国語（英語）として単位認定可能です。また、未履修である必修外国語（英語）についても認定が可能です。必修外国語（英語）認定後の余剰分の単位については「パークレー語学」として単位認定を行います。

☆パークレー語学・パークレー講義・パークレーボランティアの単位認定については、受講生が専攻科目、教養教育科目いずれかの分野への認定を選択することができます。専攻科目で単位認定された場合は【選択専攻科目】、教養教育科目で単位認定された場合は【教養選択科目】として扱われます。

2. 国際文化交流研修

この科目は、通常の開設科目とは異なり、学生が自主的に行う海外での国際文化交流に対して単位を認定するものです。大学がお膳立てしたパック研修ではなく、学生の個性と自主性にもとづいた国際文化交流（短期研修・語学研修・個人留学・交換留学等）を評価し、単位を認定します。研修旅行や留学の目的・期間・行先等を、学生自身で計画し、実行することができます。履修登録を希望する学生は、定められた手続きにしてください。

(1) 受講対象

文学部1年次以上の正規学生

(2) 科目名等

「国際文化交流研修」選択専攻科目として卒業要件単位となります。

(3) 認定単位

2～8単位（履修制限単位に含まれません）

※次の基準で単位数は定められています。

2単位：3週間程度の研修期間で、4,000字程度の「国際文化交流研修報告書」を提出した場合

4単位：5週間程度の研修期間で、8,000字程度の「国際文化交流研修報告書」を提出した場合

8単位：6か月以上の正規留学期間で、12,000字程度の「国際文化交流研修報告書」を提出した場合

※8単位以内であれば、単位を分割して複数回同科目を履修登録することができます。ただし、在学中修得できるのは8単位が上限です。

(4) 履修申込手続き

①所定の「国際文化交流研修計画書」を文学部教務課窓口へ下記期日までに提出してください。この計画書の内容にもとづいて、履修登録の許可が判定されます。

夏休みに実施する場合：6月末日（土日を除く）

春休みに実施する場合：1月の授業再開日【4年次生は春休みの実施不可】（土日を除く）

②正規留学（私費留学または交換留学）で、この科目を履修登録しようとする場合は、計画書の提出期限については個別対応になります。留学前の早い時期に文学部教務課窓口に出してください。

ア) 研修先は海外であるならば、特に限定はありません。ただし、必ず海外で国際文化交流研修を行わなければなりません。

イ) 研修期間は次の2通りに分けられます。

○正規留学ではない短期研修の場合は、授業期間外及び定期試験期間外を研修期間としなければなりません。必然的に、夏期休業中が主な研修期間になります。しかし、通常の授業科目履修の障害とならない研修期間の設定が他にある場合は、文学部教務課窓口にご相談してください。

○正規留学（個人留学または交換留学）として本学において認められた場合は、その留学期間が研修期間に該当します。

ウ) 海外旅行傷害保険の加入

履修登録の許可された学生は、必ず海外旅行傷害保険に加入してから研修に出発してください。

(5) 単位認定・成績評価

①履修登録を許可された学生は帰国した後、海外での国際文化交流で得た成果を「国際文化交流研修報告書」にまとめて、夏休み実施の場合は1月の授業再開日までに、春休み実施の場合は帰国後1週間以内に文学部教務課窓口に出してください。報告書には所定の表紙があるので報告書提出前に文学部教務課窓口で受け取ってください。なお、「国際文化交流研修報告書」の提出がなかった場合の評点は「0点」となります。

②研修先で「修了証明書」等が交付されている場合は、「国際文化交流研修報告書」とともに提出してください。

③「国際文化交流研修報告書」には指定の様式はありません。認定単位数に応じた字数となるように、自由に報告書を作成できます。

④単位認定結果・成績評点については、卒業年次生に対しては卒業判定とともに郵送します。それ以外の学生は、成績表で確認してください。

⑤履修登録許可時に発表された単位数は、提出された「国際文化交流研修報告書」の内容に応じて変更されることがあります。

3. 交換留学・私費留学における単位認定

(1) 認定の上限及び分野：原則として、言語科目、選択専攻科目、フリーゾーンの範囲内

(2) 1単位の認定にあたっての学修時間の目安

講義科目：675分の授業時間をもって1単位を認定します（90分×15回÷2）

語学科目・実技科目：1,350分の授業時間をもって1単位を認定します（90分×15回）

★留学にあたって必要な書類

（※印のあるものは単位認定にあたって必要な書類です。希望者のみ提出してください）

【出発前】注）単位認定を希望する場合は出発前に手続きを行ってください。

書 類	所定用紙	提 出 先
渡航方法連絡票・滞在先連絡票	グローバル教育推進センターホームページ	(交換留学) →グローバル教育推進センター (私費留学) →文学部教務課
※単位認定の申込について	文学部教務課	文学部教務課
※国際文化交流研修の申込について		
※国際文化交流研修計画書		
卒業保留願い(卒業年次生のみ) <small>注1</small>		
学業成績表送付用封筒 <small>注2</small>		

注1) 卒業要件単位を全て満たしている卒業保留希望者は、原則として帰国後の単位認定は行いません。

注2) 郵送希望住所（日本国内）を記入してください。

【帰国後】

書 類	所定用紙	提 出 先
留学生帰国報告書	グローバル教育推進センターホームページ	(交換留学) →グローバル教育推進センター (私費留学) 文学部教務課→グローバル教育推進センター
留学帰国レポート		
成績証明書	留学先大学	(交換留学) グローバル教育推進センター (私費留学) 文学部教務課
修了証明書		
※単位認定申請書	文学部教務課	文学部教務課
※講義科目報告書		
※国際文化交流研修報告書(レポート)		
※履修科目の登録確認表等(時間割・単位数等が記入されたもの)	留学先大学	文学部教務課
※学年暦		
※シラバス		
※受講時間割		

☆卒業年次生で帰国後卒業を希望する学生の書類提出期日は1月末日です。

(3) 卒業年次に留学する場合の注意点

留学終了後直ちに卒業するためには次の条件をすべて満たす必要があります。

- ①留学終了後に認定が確実な科目を除いて、卒業年次の残単位数が「演習Ⅱ」「卒業論文」の8単位以下であること。
- ②卒業論文の内容が、留学先での勉学と密接に関係があり、留学先の教員による論文作成指導を受けることができること。
- ③留学中においても、文学部指導教員および文学部教務課と定期的に連絡をもてるようにすること。

一番よくある問い合わせ

(4) 後期から留学する場合の通年の演習科目の取扱い

前期に演習科目を登録しているので、後期から1年間留学すると通年科目の登録が無効となります。しかし、指導教授が認めた場合、演習科目に限っては、帰国後、後期に演習科目の後期開講部分を履修することにより単位を認定することができます。ただし、対象となる科目は「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒業論文」の5科目に限られています。詳細については、文学部教務課に相談に来てください。

4. 海外研修

【単位認定についての問い合わせ先：文学部教務課、プログラムの内容についての問い合わせ先：グローバル教育推進センター】

①科目の趣旨

この科目は、通常の開設科目とは異なり、米国及び英国等の大学がもつ英語集中プログラムに学生が自主的に参加して、そこで得た成績に対して文学部が評価を与えるものです。4月中旬に説明会を予定しています。

②対象学生

文学部3年次以上の正規学生

③科目名等「海外研修」

選択専攻科目として卒業要件単位となります。

④認定単位

4単位（履修制限単位には含まれません）

⑤研修先（説明会時に発表します）

⑥履修申し込み手続

履修希望者は、説明会に出席し、具体的な手続を進めてください。

⑦成績評価

研修先で得た成績に対して文学部が評価します。帰国後研修先で得た「修了証明書」等を文学部教務課窓口へ提出してください。

⑧研修期間

4週間から6週間

⑨研修費用

各大学とも授業料は1,000ドル程度

第3部 諸 課 程

文学部では、大きく9の資格課程が設置されています。4年間での卒業という前提と1週間34講時という時間割の制限のもとでの資格取得であるので、複数の資格の取得を必ずしも保証することはできません。したがって、皆さんは、卒業までの履修計画と卒業後の将来計画に応じて、取得すべき資格を選択する必要があります。特に学問分野の異なる複数の資格の取得を目指す場合は、4年間もしくはそれ以上にわたる綿密な履修計画を立てなければなりません。

また教育実習や博物館実習のように、一定期間を実習に専念しなければならない科目もあるため、職業や家庭の事情等で履修が困難であると予想される場合には、それらを解決し、履修を可能とするための調整が本人の努力に求められます。学生の個々の事情に対するすべての調整を大学側に求めることはできません。学生個々の事情により履修が不可能であると最終的に判断された場合には、当然のことながら資格取得を断念しなければなりません。

教職課程	112
学校図書館司書教諭課程	112
図書館司書課程	112
本願寺派教師資格課程	112
博物館学芸員課程	113
社会教育主事課程	113
認定心理士受験資格	113
社会福祉主事課程	114
本願寺派学階課程	114
特別研修講座・各種講座・試験について	115

教職課程	担当窓口・関係情報
<p>教職課程は、教員免許状の取得を目指す学生を対象とした課程です。教科等に関する確かな専門的知識はもちろん、広く豊かな教養、人間の成長・発達への深い理解、生徒に対する教育的愛情、教育者としての使命感を基盤とした実践的な指導力を養成することを目的に設置しています。</p>	<p>(担当窓口) 教職センター 深草学舎6号館(紫英館)1階 大宮学舎西翼1階</p> <p>(関係情報) 『教職課程ガイドブック』</p>
学校図書館司書教諭課程	担当窓口・関係情報
<p>司書教諭とは、小学校・中学校・高等学校の図書館で専門的職務に従事する教員のことをいいます。1997年の学校図書館法の改正により、2003年度から12学級以上の規模を持つすべての小中高の図書館への司書教諭の配置が義務づけられました。</p> <p>司書教諭は学校司書と同じく、学校図書館における専門的職務であり、深い人間理解に基づく、豊かな読書指導を行うことはもとより、読書会、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会等を開催したり、児童・生徒の学習に対して図書館の利用に関する指導を行うこと等を職務としています。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課 (1・2年次生は深草学舎6号館(紫英館)1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階)</p> <p>(関係情報) 『教職課程ガイドブック』</p> <p>(URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p>
図書館司書課程	担当窓口・関係情報
<p>図書館司書とは、図書館等で資料の選択、収集、整理(分類、目録)、情報サービスなどを行う専門的職員です。公共図書館、大学図書館、専門図書館、学校図書館などで働いています。</p> <p>生涯学習社会といわれる現代において図書館司書が果たす役割は大きく、利用者に対して質の高いサービスを提供でき、多様なニーズに対応できる人材が求められています。また図書資料だけにとどまらず国際化・情報化の時代にふさわしく情報メディアの収集・管理、情報検索などについての自在な活用能力も求められています。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課 (1・2年次生は深草学舎6号館(紫英館)1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階)</p> <p>(関係情報) (URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p>
本願寺派教師資格課程	担当窓口・関係情報
<p>浄土真宗本願寺派教師(住職)となるための資格です。本願寺派教師資格として必要な科目を履修することで取得できます。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課 (1・2年次生は深草学舎6号館(紫英館)1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階)</p> <p>(関係情報) (URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p>

博物館学芸員課程	担当窓口・関係情報
<p>資料の収集・保管・展示および調査研究等の業務に携わり、博物館の事業全般をサポートする博物館学芸員を養成します。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課 (1・2年次生は深草学舎6号館(紫英館)1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階) (関係情報) (URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p>
社会教育主事課程	担当窓口・関係情報
<p>社会教育主事は、都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的職員で社会教育を行う者に対する専門的技術的な助言・指導に当たる役割を担います。</p> <p>職務の例としては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育委員会事務局が主催する社会教育事業の企画・立案・実施 2. 管内の社会教育施設が主催する事業に対する指導・助言 3. 社会教育関係団体の活動に対する助言・指導 4. 管内の社会教育行政職員等に対する研修事業の企画・実施 <p>など、その業務は多岐にわたっています。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課 (1・2年次生は深草学舎6号館(紫英館)1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階) (関係情報) (URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p>
認定心理士受験資格 ※哲学科教育学専攻教育心理学コース生及び臨床心理学科生のみが取得可能	担当窓口・関係情報
<p>認定心理士は心理学を実践する者にとって必要な基礎的な資格です。</p> <p>この資格は、認定機関の規定により資格取得希望者が個人の資格(自己責任)で申し込むことになっています。本学の履修要項では、これらの資格に必要な科目と大学が開設する科目とが対応するように配慮されていますが、資格は各機関が独自の基準で認定します。つまり、基準に合致するか否かの最終判定はすべて当該機関の権限において行われますので、大学で履修した科目と単位が自動的に認定されるということではありません。また、認定基準も随時変更されます。したがって、申請する場合には、大学の履修科目の内容や単位数の有効性などの確認も含めて、事前に必ず各自で当該機関に問い合わせの上、手続きを進めてください。</p> <p>履修指導期間中(3月末の予定)に説明会を開催する予定ですので、希望者は必ず本「授業科目履修要項」を持参し出席してください。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課 (1・2年次生は深草学舎6号館(紫英館)1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階) (関係情報) (URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p>

社会福祉主事課程	担当窓口・関係情報
<p>社会福祉主事とは、都道府県および市町村の設置する福祉に関する事務所において、生活保護法・児童福祉法・老人福祉法・身体障害者福祉法等に定める援護・育成または更正の措置に関する事務を行うことを職務とするものです。その資格は、学校教育法にもとづく大学において、厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修得し卒業することで取得できます。ただし、あくまでもこれは「任用資格」であり、地方自治体に採用となり、福祉に関する事務所に配置されて、はじめて「資格」としての意味をなすものです。</p> <p>また、この資格は、必要科目を修得して卒業することが条件であるため、卒業後に不足の科目を科目等履修によって補うことはできません。必ず卒業までに取得要件科目をすべて修得しておかなければなりません。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課 (1・2年次生は深草学舎6号館(紫英館)1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階)</p> <p>(関係情報) (URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p>
本願寺派学階課程	担当窓口・関係情報
<p>学階とは、浄土真宗本願寺派(西本願寺)における、教師(同派末寺の住職になれる僧侶)の資格のひとつです。真宗学、仏教学に通じた者に与えられる学位で、得業・助教・輔教・司教・勧学の5段階あります。</p> <p>本学において、所定の科目の単位修得等の要件を満たすと学階を受けるための予試・本試が免除され、直接、殿試(初めて学階授与を願う者が受けるための試験)を受験することが可能となります。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課 (1・2年次生は深草学舎6号館(紫英館)1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階)</p> <p>(関係情報) (URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p>

■特別研修講座・各種講座・試験について

課 程	目的・内容	担当部署
開教使課程	将来、海外開教使（外国における真宗伝道）を志す人のために、必要な知識を修得させることを目的とした講座	(深草・大宮) 文学部教務課
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員、犯罪や非行をしてしまった人たちの社会復帰の手助けをする保護観察官等の専門職やボランティアとして活躍する人たちを養成することを目的としています。 ※文学部開設科目一覧（選択専攻科目）に掲載されている特別研修講座「矯正・保護課程」の科目を登録し、履修すれば、卒業要件単位として認定されます。	(全学) 矯正・保護総合センター事務部 深草学舎 至心館1階 (深草) 法学部教務課 深草学舎 紫英館1階 (大宮) 文学部教務課 大宮学舎 西麓1階
法職課程	司法書士試験をはじめ、各種公務員試験（裁判所事務官試験など）の合格や法科大学院進学を目指す学生に対し、体系的かつ効率的な講座及び最新の試験情報などを提供し、合格者を輩出することを目的としています。	法学部教務課 深草学舎 紫英館1階
教員採用試験対策講座	教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座	教職センター 深草学舎 紫英館1階 大宮学舎 西麓1階
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※名称は変更することがあります。 ※開講する学舎が限定されています。	〈目的・内容〉 就職活動のサポートや公務員試験対策、将来のキャリアアップのための資格試験対策などを目的とした各種講座 〈就職対策系〉 就職筆記試験対策講座／エントリーシート対策講座 〈試験対策〉 公務員講座 〈資格系〉 TOEIC®講座／旅行業務取扱管理者講座／FP技能士講座（3級・2級AFP）／宅地建物取引士講座／基本情報技術者講座／MOS講座（Excel2013、Word2013）／社会福祉士国家試験講座／介護職員初任者研修講座／CAD利用技術者講座（2級）／色彩検定講座／秘書検定講座	キャリアセンター 深草学舎 紫英館1階 大宮学舎 西麓1階
RECコミュニティカレッジ 外国語コース	〈生涯学習講座「RECコミュニティカレッジ」の外国語コース〉 REC生涯学習講座「RECコミュニティカレッジ」の「外国語コース」では、入門から上級までレベルに応じた英語講座を多数開講しているほか、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語も開講しており、語学力を向上させ、正規の授業を補完できる内容となっています。 本学学生は割引価格で受講できます。詳しくはREC(京都・滋賀)の窓口で配布している『RECコミュニティカレッジパンフレット』をご覧ください。 ※「RECコミュニティカレッジ」では、「外国語コース」のほか、「仏教・こころ」「文化・歴史」など多様な講座を開講しています。	REC事務部 深草学舎 紫英館5階

諸
課
程

第4部 学修生活の手引き

I. 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室について	118
1. 窓口事務	
2. 保健管理センター	
3. 障がい学生支援室	
II. 気象警報発令および交通機関の運行中止に伴う 授業および定期試験の取り扱いについて	119
III. 学籍の取り扱い	120
1. 学籍とは	
2. 学籍簿	
3. 学生証	
4. 学籍の喪失	
5. 休学と復学	
6. 再入学	
7. 編入学・転入学	
8. 9月卒業について	
IV. 大学院文学研究科・実践真宗学研究科について	124

I. 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室について

1. 窓口事務

各学部教務課の窓口事務については、本学HP『履修要項』に掲載していますので、確認してください (<http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>)。

主に次の情報を掲載しています。

- ①窓口取扱時間
- ②届出書・願書および各種証明書
- ③各種証明書の交付について
- ④裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2. 保健管理センター

保健管理センターの利用については、本学HP『保健管理センター』に掲載しています (<http://www.ryukoku.ac.jp/hoken/index.php>)。

毎年、4月には学生の定期健康診断が実施されますので、日程をHPで確認するようにしてください。

その他、主に次の情報を掲載しています。

- (1) カウンセラーに相談したい
- (2) 保健師・看護師に相談したい
- (3) 医師の診療を受けたい
- (4) 急な怪我をした
- (5) タバコをやめたい
- (6) 健康チェックをしたい
- (7) 健康診断
- (8) 健康診断証明書・健康診断書発行について
- (9) AEDについて知りたい

3. 障がい学生支援室

障がい学生支援室では、すべての学生が社会参加に向けて主体的に取り組むことを支援するという視点に立ち、障がいのある学生の学修や学生生活上の困難に対し、様々な相談、支援を行っています。また、障がいのある学生とサポートをする学生、その他すべての学生や教職員が互いに理解し、尊重し合える関係づくりを目指し、サポーター養成や研修会、交流会などにも取り組んでいます。詳しくは、本学HP『障がい学生支援』 (<http://www.ryukoku.ac.jp/support/index.php>) に掲載しています。

HPでは主に次の内容を掲載しています。

- (1) 障がい学生支援室について
- (2) 支援を希望される方へ（支援の内容、支援の申し出方法）
- (3) サポートスタッフに興味のある方へ
- (4) 講座・イベント
- (5) よくある質問（Q&A）

II. 気象警報発令および交通機関の運行中止に伴う授業および定期試験の取り扱いについて

暴風警報、暴風雪警報、特別警報及び特別警報に位置づける警報が発令された場合や交通機関の運行中止が発生した場合の授業および定期試験の取り扱いは、本学ホームページに掲載していますので、それに従ってください。

(http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/support/classinfo/disaster.html)

1. 「授業休止の取扱基準」に定める気象警報発令、交通機関不通時における授業実施有無の通知方法について

暴風警報、暴風雪警報や特別警報等が発令された場合や交通機関が不通となった場合の授業実施の有無については、以下の4つの方法で確認することができます。

(1) 大学ホームページ <http://www.ryukoku.ac.jp/>

台風接近にあわせて、トップページを切り替え、こちらのページ内に授業実施の有無を記載します。

(2) ポータルサイト <https://sirius.ws.ryukoku.ac.jp/ActiveCampus/>

ポータルサイトのログイン画面に、ホームページと同様の情報を記載します。

(3) 公式Twitter「龍谷大学（緊急連絡用）」https://twitter.com/Ryukoku_univ (@Ryukoku_univ)

「大学全体に関わる緊急情報の速報告知」に限り情報を発信することを目的として、本学公式Twitterアカウントを開設しています。ここからホームページと同様の情報を発信します。

Webブラウザのアドレス入力欄に上記アドレスを直接入力し、サイトを閲覧してください。(事前にお気に入り登録しておくとう便利です。)

(4) 公式Facebook「龍谷大学」<https://www.facebook.com/RyukokuUniversity>

大学全体の特色等を発信することを目的として、本学公式Facebookページを開設しています。緊急時には本アカウントからも、ホームページと同様の情報を発信します。

Webブラウザのアドレス入力欄に上記アドレスを直接入力し、サイトを閲覧してください。(事前にお気に入り登録しておくとう便利です。)

※緊急時は、大学ホームページおよびポータルサイトへのアクセスが集中し、サイトを閲覧できなくなる可能性がありますので、「公式Twitter」と「公式Facebook」の利用を推奨します。

Ⅲ. 学籍の取り扱い

1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、入学は大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の学籍番号が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明証（学生証）の番号でもありませんから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み

L	17	0	001
┆	┆	┆	┆
L：文学部	入学年度(西暦)の下2桁	学生区分(主たる学生区分を記す)	学部内における個人番号
E：経済学部		学部生：0～7	
B：経営学部		編転入生：8	
J：法学部		再入学生：9	
T：理工学部		修士課程：M	
C：社会学部		博士後期課程：D	
W：国際文化学部		短大専攻科生：A	
H：政策学部		専門職学位課程生：F	
U：国際学部		研究生：R	
N：農学部		特別専攻生：S	
S：短期大学部		科目等特別履修生：U	
F：法科大学院		科目等履修生：V	
M：実践真宗学研究科		外国人特別留学生・交換留学生：Y	
R：留学生別科			

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。頭のアルファベット（学部等をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にする書類として、学籍簿（入学手続き時に各自が提出した書類）が編成されます。学籍簿に記載される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに文学部教務課窓口へ届け出てください。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ① 学業成績表を受領するとき。
 - ② 試験を受けるとき。
 - ③ 各種証明書の発行を受けるとき。
 - ④ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - ⑤ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
 - ⑥ 図書館を利用するとき。
 - ⑦ その他、本人であることを確認することが必要なとき。
- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用しますので大切に扱ってください。ただし、在籍を証明する「在籍確認シール」は毎年学年始めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、速やかに前年度のシールと貼り替えてください。(新入生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証に指定された場所に各自貼ってください。)

なお、シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。必ず、前年度のシールをはがしたうえで、新しいシールを貼ってください。

また、当該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は無効として取り扱いますので注意してください。
- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに文学部教務課窓口にてその内容を届け出てください。
- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに文学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再交付願」(紛失・破損届)に必要な事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署(交番)・生協事務室に紛失届等の提出をしてください。
- (5) 学生証の再交付については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを文学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再交付には、2日以上を要するので注意してください。
- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。
- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
- (8) 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに文学部教務課窓口にて返納してください。

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失(本学の学生でなくなる)する場合としては、退学と除籍の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

(1) 退学

① 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失(本学の学生でなくなる)することです。

依願退学は、学生の意志によるものであるから、いつでも願い出ることができますが、次の諸手続きが必要です。

- ア 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。
- イ 当該学期分の学費を納入していること（学費の納入と学籍の取得は、対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格もありません。なお、学期当初に退学をする場合は、学部で個別に対応をしているので相談してください。）。

また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることができません。

②懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを除籍として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

- ① 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
- ② 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。
- ③ 休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、休学を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ① 大学所定の書式により願い出ること。
- ② 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ③ 保証人と連署で願い出ること。

(2) 休学期間

- ① 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。

1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31日までに文学部教務課窓口で大学所定の書類を提出してください。

- ② 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
- ③ 休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。

(3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

(4) 復学の願い出

休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。したがって、復学の願い出は、学期開始日の前1カ月以内にしなければなりません。

6. 再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に、入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第2項）。ただし、再入学を願い出たときが除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせてください。

7. 編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を文学部教務課窓口へ速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次に転入学または編入学を希望する者については、選考の上これを許可することがあります（学則第13条）。
【文学部には3年次への転学科・転専攻の制度しかありません。】
- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書および修学証明書を提出しなければならない（学則第15条）。
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願い出てその許可を受けなければならない（学則第18条の3）。

8. 9月卒業について

第1学期（前期）末（9月30日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が、届出期間内に9月卒業の希望申込をした場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません。）。

詳細については文学部教務課窓口で相談してください。

Ⅳ. 大学院文学研究科・実践真宗学研究科について

1. 大学院について

龍谷大学は、9つの研究科を設置しています。

9専攻を擁する文学研究科（修士課程・博士後期課程）は、各分野のエキスパートである指導教員と、国内外に知られた豊富な蔵書があり、各自の専門分野の研究を深く究めることができます。

実践真宗学研究科（修士課程）は、複雑化・多様化する現代の問題に、実践的・具体的に臨む宗教者のあり方を学修し、社会的実践者にふさわしい高度な専門的素養の修得を目指します。

2. 入学試験について

※入学試験の実施時期等は、2016年度までの実績です。入学試験に関する詳細については、大宮学舎文学部教務課（大学院窓口）へお尋ねください。

(1) 文学研究科（修士課程）

一定の学力基準を満たした卒業見込者を対象とする学内推薦入試（7月）に加え、外国語、専門科目、口述試験で実施する一般入試と社会人入試を秋期試験（9月）、春期試験（2月）の年2回実施しています。

(2) 実践真宗学研究科（修士課程）

一定の学力基準を満たした卒業見込者を対象とする学内推薦入試（7月）、グループ討論、レポート、専門科目、面談で実施する自己推薦入試（9月～11月）、外国語、専門科目、口述試験で実施する一般入試と社会人入試を2月に実施しています。

3. 文学部生の大学院文学研究科開講科目の早期履修制度について

本学文学部卒業年次生のうち、本学大学院文学研究科へ進学する者で、特に優秀で勉学意欲の旺盛な者に対する教育上の特例措置として、学士課程における修学に支障のない範囲で、本学大学院文学研究科科目の履修を認める制度です。

対象科目、申請時期、単位認定等の詳細については、履修登録期間に文学部教務課掲示板等でお知らせします。

〈付 録〉

アカデミック・リテラシー・ルーブリック
卒業論文ルーブリック

「ルーブリック」について

ルーブリックとは評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」により構成されたものです。ルーブリックを活用することにより、学修の目標が明確にされます。また、先生と学生の皆さんの双方が現時点の達成水準を客観的に把握することができます（中央教育審議会答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』2012年8月28日参照）。

卒業論文ルーブリックは文学部の4年間の学修の集大成である卒業論文の自分の達成水準を知るために使うものです。また、アカデミック・リテラシー・ルーブリックは文学部の皆さんが卒業の時までに備えてほしい基礎的な能力です。いずれも右の列に行くほど達成水準が高くなっていきます。これらのルーブリックを活用することで、学生の皆さんが卒業時までに習得していかなければならない能力を事前に知るとともに、今自分がどの位置にいるのかを知ることができます。

なお、ここで示したルーブリックはあくまでも一例です。これによる評価が皆さんの単位認定に関わる評価にそのまま結びつくとは限りません。特に、卒業論文ルーブリックについては各学科専攻の形式に合わせた形ものをスタディガイドに掲載しています。詳しいことは学科・専攻の教員の指示に従ってください。

文学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック

- * 1 このアカデミックスキル・ルーブリックは学生の皆さんが、龍谷大学の文学部生として求められるスキルを、どの程度達成できているかを確認するためのものです。
- * 2 おりにふれて、このルーブリックで自分の学修状況を振り返り、自身の学修に足りないものを確認し、各自の学修を深めるツールとして利用してください。

AP		相当の努力を要する	やや努力を要する	十分満足できる	期待している以上である
建学の精神	建学の精神である「浄土真宗の精神」の意味を深く理解している。	大学の主催する宗教行事などに全く参加しておらず、建学の精神も理解できていない。	大学の主催する宗教行事などにあまり参加しておらず、建学の精神があまり理解できていない。	大学の主催する宗教行事などにある程度参加し、建学の精神を理解しようと努めている。	大学の主催する宗教行事などに積極的に参加し、建学の精神を体現・実行できている。
	豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。				
知識・理解	人間社会の根本を見つめるために、「言語（ことば）」の持つ力を深く理解することができる。	「言語（ことば）」の持つ力をまったく理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語（ことば）」の持つ力が必ずしも理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語（ことば）」の持つ力が一定程度理解できている。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語（ことば）」の持つ力が深く理解できている。
	テキストの正確な読解に基づいた、人文学の幅広い教養を身につけている。	テキストの読解ができず、教養の学修も進んでいない。	学科・専攻の教育理念に基づき、テキストが正確に読解できず、教養の学修も不十分である。	学科・専攻の教育理念に基づき、一定程度テキストの読解ができ、幅広い教養を学んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、テキストの正確な読解ができ、幅広い教養が身につけている。
	幅広い学問領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができる。	多様な領域からの見解をまったく理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な領域からの見解をあまり深く理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な領域からの見解を一定程度理解できている。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な領域からの見解を深く理解できている。
思考・判断	人間や社会の諸問題について主体的・積極的に判断し、対応できる。	現代社会の諸問題についてまったく取り組めていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題について必ずしも積極的に取り組めていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題について一定程度取り組んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題について積極的に取り組んでいる。
	課題の探求、発見、追究、解決という一連のプロセスを達成する能力を身につけている。	課題の探求から解決にむけた能力がまったく身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力がある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が十分身につけている。
	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができる。	多様な思考力・判断力がまったく身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な思考力・判断力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な思考力・判断力が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な思考力・判断力が身につけている。
興味・関心	人文学の知に基づいて、人間社会の営みに対する問題意識を持つことができる。	現代社会の諸問題にまったく問題意識を持っていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に必ずしも明確な問題意識を持っていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に何らかの問題意識を持っている。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に明確な問題意識を持っている。
	人間とそれをとりまく環境について、探求心を持って具体的な課題設定ができる。	人間と環境についてまったく課題を持っていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、人間と環境について必ずしも明確な課題を持っていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、人間と環境について一定の課題を持っている。	学科・専攻の教育理念に基づき、人間と環境について明確な課題を持っている。
態度	人間社会の諸問題に対して、人文学の知に基づいて積極的に解決しようとする姿勢を持つことができる。	現代社会の諸問題に取り組む姿勢がまったく身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に取り組む姿勢が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に取り組む姿勢がある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会の諸問題に積極的に取り組む姿勢が身につけている。
	多様な価値観を認めつつ、学びを通じて自己の認識を広げ、感性を磨くことができる。	多様な価値観に対する理解がなく、共生の理念に対する理解がない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解と共生の理念が明確に理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解と共生の理念がある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解を持ち、共生の理念が体現できている。
	外国語を自立的に学習する態度を身につける。	外国語学修にまったく取り組めていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語学修に必ずしも積極的に取り組んでいない。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語学修にある程度積極的に取り組んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語学修に積極的に取り組んでいる。
技能・表現	日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解を分かりやすく伝達するための方法を習得し、実践することができる。	正確な日本語能力がなく、自らの意見を伝えることができない。	学科・専攻の教育理念に基づき、日本語能力を持ち、自らの意見などを伝えることができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な日本語能力を持ち、自らの意見を伝えることができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な日本語能力を持ち、自らの意見をわかりやすく伝えることができる。
	情報及び情報手段を主体的に選択し、活用するための基礎的な知識・技能を習得する。	情報収集能力がなく、活用することもできない。	学科・専攻の教育理念に基づき、情報収集能力を持ち、なんとか活用することができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な情報収集能力を持ち、活用することができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、高い情報収集能力を持ち、有益に活用することができる。
	他者との相互理解を可能とするような対話能力を身につけている。	他者との相互理解を円滑に行う対話能力が身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を行う対話能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を行う対話能力が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を円滑に行う対話能力が身につけている。
	英語を媒介とした知的情報の受信、選択、分析、発信を基本とするコミュニケーション能力を実現する。	英語による知的情報の受信・発信能力が身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、英語による情報の受信・発信能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、英語による知的情報の受信・発信能力が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、英語による知的情報の受信・発信能力が身につけている。
	任意の外国語一つ（英語を除く）について、基本レベルの聞き取り、読み書き、口頭表現ができる。	英語以外の外国語について、コミュニケーション能力が身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、英語以外の外国語について、コミュニケーション能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、英語以外の外国語について、ある程度のコミュニケーション能力が身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、英語以外の外国語について、一定レベルのコミュニケーション能力が身につけている。

卒業論文ルーブリック

※卒業論文にかかわる学修進度の目安です。あくまで一例ですから、詳細は各学科・専攻の教員の指導に従って下さい。

		1	2	3	4	5
先行研究		国内の先行研究を把握できていない。	国内の先行研究を把握しているが、整理して説明できない。	国内の先行研究を把握し、整理して説明できる。	国外の先行研究も把握しているが、整理して説明することができない。	国内外の先行研究を把握し、整理して説明できる。
問題設定		問題の設定が曖昧である。	ある程度明確な問題を設定しているが、適切な問題であるとはいえない。	ある程度、明確で適切な問題を設定している。	適切で明確な問題を設定しているが、独創性はない。	適切で明確な問題を設定しており、独創性がある。
資料	選択	適切ではない資料を使用しているか、資料を使用していない。	適切な単一の資料(翻訳)を使用している。	適切な単一の資料(原語)を使用している。	適切な複数の資料(翻訳)を使用している。	適切な複数の資料(原語)を使用している。
	読解	ほぼ全体を通して、資料を正しく読解できていない。	資料が正確に読解できている部分とできていない部分が半々である。	7割方読解できている。	若干の問題はあるが、ほぼ正確に資料を読解できている。	資料を正確に読解できている。
	分析	資料が適切に分析できていない。	概ね適切に分析できているが、説明が不十分である。	概ね適切に分析し、それを説明することができている。	資料を適切に分析できているが、説明が不十分である。	資料を正確に分析し、それを十分に説明できている。
考察		資料の分析に基づいておらず、論理的整合性にも欠ける。	概ね資料の分析に基づいているが、論理的整合性に欠ける。	概ね資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	資料の分析に基づき、論理的整合性をもった考察を加えている。
表現	文章化	伝達したい内容を的確に文章化できていない。	伝達したい内容を、あまり的確に文章化できていない。	伝達したい内容を、7割方は的確に文章化できている。	伝達したい内容をほぼ的確に文章化できている。	伝達した内容を全体的に的確に文章化できている。
	誤字・脱字	誤字・脱字が非常に多い。	誤字・脱字がやや目立つ。	誤字・脱字が3、4箇所ある。	若干(1、2箇所)の誤字・脱字がある。	誤字・脱字が全くない。
基本的技術	典拠・典拠箇所の明示	典拠・典拠箇所が殆ど明示されていない。	典拠は示されているが、典拠箇所が明示されていない。	典拠・典拠箇所の明示が欠けている部分がある。	典拠・典拠箇所がほぼ明示されている。	典拠・典拠箇所が全て明示されている。
	参考文献表の作成	参考文献がリスト化されていない。	参考文献表に欠落・余分があり、書式も適切ではない。	適切な書式ではあるが、参考文献表に欠落・余分がある。	参考文献表に欠落・余分はないが、書式が適切ではない。	適切な書式で、欠落・余分なく参考文献表が作成されている。
	論文の書式	指定の書式に全く従っていない。	指定の書式にあまり従っていない。	指定の書式に7割方従っている。	指定の書式にほぼ従っている。	指定の書式に全て従っている。

編集発行

龍谷大学文学部教務課

(大宮学舎)

〒600-8268 京都市下京区七条大宮東入大工町125番地の1
TEL (075) 343-3311 (代表)
FAX (075) 343-4302

(深草学舎)

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL (075) 642-1111 (大代表)
FAX (075) 645-6444

<http://www.ryukoku.ac.jp/>

